青鞜

VI

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

六月革新紀念號目次

戀愛の自由（論文）　エレン・ケイ　一
繼しい仲（小說）　岩野清　六
人に別れて（歌）　三ケ嶋葭　三
萬人は如何ともあれ（歌）　齋賀琴　二四
S先生に（手紙）　野枝　三六
歡喜の失踪（オリーブシユライネル）　山田わか譯　四九
結婚（感想）　西崎花世　五七
枕草紙現代語譯抄　上野葉　七九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やみのうち（詩）　望月れい　九五
田村俊子氏の「炮烙の刑」の龍子に就いて（批評）　らいてう　九八
ソニヤ・コヴァレフスキィの自傳　野上彌生子譯　一〇六
青鞜社詠草　原田琴・矢澤孝・岩淵百合　一一六
「惟然坊」を見て（手紙）　哥津
最近の感想
婦人の生活を重じない社會　らいてう
讀んだものから　野枝
青葉の頃　みどり
編輯室より
社及補助團規則

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛の自由――エレンケイ

人間の有する道德觀念の最も微妙な尺度は道德界に於ける時代の曖昧なる徵候を解釋する力である。何故なら深遠な道德性を有する人のみ、刄の如く銳どく新道德と舊道德の間に橫はる境界線を發見することが出來るからである。

現代に於ける道德的鈍感は先づ第一にかの自由に自己の運命を結合する若き男女を非難することに於てそれ自からを露出してゐる。群集はかの無責任に――そして外見的の危險なく――かれ等の官能の安靜を買ふ多數の人々の法典に比較して自由結婚の進步せる道德性を認めないのである。

「自由戀愛」を擇む靑年等は買はれた愛が心的活動の最も精妙な器具を破壞し、その結果妻に害を與ふると共に子供に變質の危險を與へ、その無邪氣さを失はしめ、遂にかれ等自からの時ならぬ滅亡をまねく恐れがあると云ふことを知つてゐる。

併しかれ等は又これ等の結果が起らないかも知れず、そして一方に於て、かれ等は精神的にかれ等の人格を抑制することによつて苦しみ、かれ等の二心なき戀愛の可能性を破壞するかも知れないと云ふことを知つてゐる。同時にかれ等はその父の危險少なき、從つて一層無主義な性欲滿足法、並に何等共同生活に對する考へなく徒に婦人を誘惑する手段を侮蔑する。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「自由戀愛」は、一方に於て、かれ等が何人をも害することなくして獲得し得ると考ふる生の增大なかれ等に與へる。それはかれ等の抱いてゐる戀愛清淨の思想に附合する、その思想は婚約期間の不完全にして、情緒の明白と新鮮とを失なふものとして非難される。かれ等の靈魂が他の靈魂を發見し、兩者の官能が同一の慾求に於て出遇つた時、かれ等は戀愛の十分なる結合に對する權利を有すると考へてゐる、勿論かれ等は現社會の狀態が早婚を不可能さ爲すが故に、餘儀なくそれを秘密にする傾向がある。かくの如くしてかれ等はその爲めに克己と云ふ課税を負はされてゐた戀愛と云ふ目的を達して、かれ等に平和をも內的純潔をも與へず、反つて二重の惱みを與ふる徒勞の努力から免れるのである。

＊　＊　＊　＊　＊

此處に我々が靑年と云ふのは、主として上流社會の靑年男女のみを指すのである。その他の階級に於て、自由結婚は旣に長らくその慣習になつてゐる。歐洲諸國に於ける勞働階級は歐洲以外の諸國民の社會の慣習と同一なる自由を單純に用ゐてゐる。人種學的硏究の示す處によつて、これは新らしき墮落的傾向ではなく、反つて原始的習慣の一遺物であると云ふことがわかつてきた。或歐洲以外の人民――例令へば北方緬甸に於ける――の間に在つてはこの習慣に伴ふてかくの如きことを爲し得る子供等に對する一定の契約があつた。たとへば靑年男女は何等の故障なくして自由に結合し、かれ等が結婚生活を繼續するに十分深き感情を發見しない時は分れることが出來る。若しまた結婚しても、結婚後の不貞が知れなければよいことになつてゐる。また娘が母になつて、そのまま結婚を中止する時に、男はその子供の責任を負ふべく娘の父に對して若干の養育料を支拂はなければならない。

世界に於て「最も忠君愛國」の名聲を得た瑞典の人民の多數がまた同一の性的習慣を有してゐる。戀愛の深さと責任の觀念を缺いてゐるので、これ等の習慣は婦人の放棄、殺兒罪を含み、女が數人の男の手に渡る時は賣淫となり、遂に社會は女が異れる父によつて生んだ無責任の子供等によつて多くの障害を受けるやうになる。そしてこの習慣は――戀愛と責任の觀念が存してはゐるが、愛人が兩方とも若過ぎる場合に於て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さへ――かれ等自身及び子供等を薄弱ならしめ、子供等の死を早める。下層階級の人々の十分なる身體の發育を妨げ、かれ等の老衰を早めるのは單に過度な勞働と營養の不良ばかりではなく、未熟な性的生活が大に與かつてゐる。

併しこれ等の惡結果と並んで善い結果もある。大抵の場合に於て、若き男女が親たらんとする希望はかれ等の親戚を導いてかれ等の結婚を可能ならしめる。然し直に結婚をしない場合には、娠さその子供とは男女いづれかの兩親の許に居るか、若しくは子供のみを預けて、女は女の方へ、男は男の方へ歸つて將來の爲めに努力する。男が結婚に對して心を傾けてゐない時でも、かれ等の同一職業、並に親たるの觀念がやがて結合力を現はす。若い時このやうにして一緒になつた夫婦は上流階級に於ける夫婦よりも一生の幸福に對してよりよき期望を有してゐる。上流の人々は、花嫁が彼女のオレンヂフラワー(婚約期の間花嫁の着ける花)に對して全權を有してゐる永い婚約に疲勞せしめられる――勿論上流階級の多數の人々に比して下層の人々によつて寄與せられる健康は此處では預つて置く――上流の人々は結婚を可能にする振興を待ちつつある間、結婚の代用として有害なものを買ふ。少なくとも或る一事は確かである、乃ち平民の間の貞節は結婚前の自由が無制限である如く偉大である。農民及び勞働階級中の自由戀愛は、通則として、結婚に終り、屢々これを道德の一ヶ條とする輿論に從ふ。併し――戀愛それ自身が生の共有を齎らさない場合に於て――親たるの觀念及び内助者の必要が輿論と同樣に決定的である。何故なら春的に發達してゐない人々の間でさへ同樣の必要は種族の本能より他の目的の爲めにそれを感じさせられる。それをして眞に結合的ならしむるものは苦樂を分つ共同生活の慾望である。かくの如き慾望の存在しない處では、その關係は生の增大と云ふ見解から不道德になる。若しこの道德の標準が守られなければ、上流階級中の自由戀愛は――下層階級に於けるが如く――より偉大なる戀愛及び高尚なる道德を通じて人類を高めないとも、少なくも賣淫制度の廢滅に貢獻するであらう。

何故なら若し、一方に於て、下層階級の性的習慣が上流階級のそれに比して自然の直接要求に對する、より多くの權能を與へるなら、他方に於て、後者の習慣が以前同一の機會を備へ、歷史的及び人種學的見解から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

到る處克己によつて準備せられた本能を戀愛に高めてゐる。性的關係の早く初まる國民の間では、一般に道德が弛緩してゐる、そして道德の弛緩してゐる處では、戀愛の情緒は重んじられてゐない。肉慾の節制が戀愛に對する深い感情を發達させる。靈の慾求の目覺めない中に肉的慾望を滿足させる習慣が、如何位人間の感情を薄弱緩漫ならしめ、官能を粗野貪婪にするものであるかを見やうと思へば、過去の國民や歐洲以外の國民を觀察する迄もなく我々歐洲の都會及び地方の勞働者を見ればそれて十分である。下層階級に於けるみすぼらしき住居の狀態が性的生活からその愼重を奪ふて餘りがある。年齡の未熟、血緣の關係が時に何等不品行の妨害になつてゐない、そしてその結果——相互及び生兒に對する無責任及び亂暴が——醜怪な形をなつて現はれる。故に戀愛の自由に對する第一條件はその自由が共同生活を持續せんとする慾望となつて現はれる戀愛に限られなければならない。この徵候は、通則として、現今自由戀愛を主張する敎育階級の靑年中に見出さるる如く、また下層階級の靑年はかれ等が同一の自由を用ゆる時、その結果として立派な結婚をすることがある。これ等の種々なる理由から吾人は上流階級に對して同一の結論をすることが出來る、但しそれは戀愛が非常な穿貫力となつて現はれた場合を除外しての話である。勞働階級の大多數が——勿論その中には洗練せられた春的感情を有する少數者がある——本能の滿足に加ふるに、生活の重荷を耐へ忍ぶ獻心的な役に立つ伴侶を以て滿足するに比して、今日の發達せる男女は更に一層深い春的要求を有してゐる。然しこれ等の滿足は屢々早計なる靑年の決斷によつて誤まられるものである。凡そ靑年の戀愛なるものは精神的だと云はれてゐるが、その場合でさへ、十中八九は戀愛より寧ろ戀愛に對する翹望である、新生それ自からに對するより寧ろ經驗に對する慾求である。それ故に靑年の春的感情はロメオをしてジユリエットに出遇ふ一瞬間前にあつてロザリンドのつれなさを悲しませ、チタニアをしてボトムが驢馬の耳を昇ばしむる幻影の上に置かれてゐる。戀愛の最初の夢が將に昇らんさする太陽の乳光色の雲霧の如くあたりを包んでゐる、かくの如き驚くべき魔術は蓋し絕後であらう、然し同時にまた現代程我々の容易に迷路に踏みこむ時もない。雲霧の幕が一度上れば目前に最も美はしい光景が現はれるかも知れない、然し同時に霧中に進行する道は多くの難船に終る進路に行く機會が多い。それ故「十代」の人々は戲曲の本文には入らず、未だほんの序詞の時代に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

居るのである。この理由によつてまた、何人もどの位までこの經過が生の最終關係を阻害するか、或は偶然の戀愛がその權力を先取した時に、大戀愛がどの位誤まり導かれるものであるかを斷定することが出來ないのである。勿論此處で偶然の出來事と云ふのは運命に對する十分明らかな信仰を土臺とした場合である。

凡そ青年にとつて自己の中に生涯の伴侶たらんとする女子に對する智識を發達させることより重要なことはない。人々は相愛の人々を分つ不慮の災難を呪ふ。然しかれ等を分つものは寧ろ結合の時期の適切ならざるに起因することが多い、そしてそれは勿論呪はるべきである。青年の男女は兩者が自由である時、戀愛によつて重要なるものを失なふことは稀れである。如何にしても結合せざるべからざる者は遂には結び付く。機會によつて分れるやうな者は初めから緣のない者である。人は自己及び他人の中にある眞實なものをあまり遲く發見することによつて幸福を失なふかも知れない、然し無論それはこの發見以前に自制した場合ではないのである。故に青年は自他の運命に決心して飛び入る前暫時待たなければならない。由來大戀愛は日本の神に似てゐる、一度以上その前に祈願することは罪惡である、そしてそれは唯だ一度の祈願にのみ應ずる。

——エレン●ケイ

繼しい仲——岩野清

お槙は親類まわりの歸りにせゝこましい日蔭町の通りで、ふと横町からまつしぐらに出て來た自轉車をよけやうとするはづみに、向ふから自動車にひき倒されて人事不省になつて繼娘の嫁入り先きの和田の家にかつぎこまれたのである。

其當時足から腰、頭まで體中がすべてしびれて一寸も身動きが出來なかつたのが、やう〳〵人心地がつくやうになるまでは、とても助からない命だと覺悟をきめて心の中でお念佛を申した事も幾度かあつた。

ハハケガスグコイと云ふ電報を打つたので驚いて驅け付けて義雄や自動車に乘つてゐた人の使が和田の家に集つて負傷者の善後に就て相談をした。

『あちらでも療治代は出すと云ふのだから何處か手近い所の病院へ入院したらいゝだらう。』

次の間での相談がまとまつた時義雄が病人の方を向いてお槙の決心をたゞした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

するとお和田の妻――お槇の繼娘――のお光が次の間から立つて來て、
『お母さん。兄さんはあゝおつしやつても、病院なんぞに這入るのはおよしなさいよ。』と兄にきこえない程の小聲で、『それにお醫者は一週間で全癒(なを)りますなんて云つてゐるけれどどうしてこんな大負傷がさう早くなほるものですか。つまり醫者から成るたけ輕く云はせて早く責任を遁れやうとしてゐるんでさあね。だから病院々々と云つて親切ごかしで病院へ入れて置いて約束の一週間でもう直りましたと歸してよこすつもりなんです。兄さんは又正直だから向ふの云ふことを眞にうけてあゝおつしやるんだけれど……だからあなたから「病院へ這入るのはいやだ。此家で世話になつて養生したい」とおつしやいよ』
『わたしは、お前さへ御迷惑でなければ此家でお世話になつてゐれば結構なんですから、强て病院へ這入らなくつてもいゝんですから。』とお槇は云はなければならなかつた。
　二日ばかりして、又義雄が見舞に來て、
『まだ病院へ這入らないのか。』と病人の枕元に立つて叱るやうな聲で云つた時
『でもお母さんが病院へ這入るのはいやだ。此家の方が我儘も云へるし氣兼がなくつていゝからさおつしやるんですもの。』とお光が引取つて答へた。
『どうせこんな狹(せま)い家で子供は澤山(たくさん)ゐるし手が屆かないにきまつてゐる。それよりも病院

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

へ這入つた方がいゝのは目に見えてゐる。もし手が屆かないために餘病でも出たらどうするつもりなんだ。譯のわからないにも程がある。』

義雄は病人の我儘で自分が折角充分に手當をさせようとするのをきかないのだと思つてすつと次の間へ行つてしまつた。

僅か八疊と六疊の二た間しかない家で、八疊の方には、生け花や茶の湯の道具や、道具ずきな和田が手あたり次第に集めて來た二絃琴だの用簞笥だの屛風だの下手な古道具屋程並べてある。其他にも机や小道具がすえてあるので、八疊と云つても疊の明いてゐるのは四疊敷位でそこが坐敷になつてゐるのだから、家のものは奥の六疊を居間としてゐる。その六疊の茶の間には、茶簞笥もあれば簞笥も三棹置いてある。長火鉢もある。

お槇は其簞笥の前の窓ぎわに不隨の身を横たえてゐるので、只さへ狹くるしいのに今年三つになるお君と云ふのが「お婆ちやん〳〵」とうるさく枕元によりついたり泣いたりするので頭にひゞけておち〳〵氣も安まらない。出來るなら病院で養生したいとは思つてゐる。只お光がどう云ふつもりか、「病院へはいるな病院はいやだと云へ」と强ひるので、それでもと云ひかねてゐた處なのである。

『義雄さんはあゝ云ひなさるし、私だつて、それは病院へ入れてもらいたいのだけれど…

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

……………』

折から見舞に來合せてゐたお槇の妹にお槇は相談するやうな口ぶりで訴へた。

『ぢや私から義雄さんにさう云つて上げませうか。』と妹が立ちかけた。

『ひとの云ふ事を用ひないで病院へ行くと云ふなら勝手にするが好い。私はもうかまつてやりやしない。』臺所でお光がかうつぶやいたのでお槇はまた躊躇して

『矢つ張り此家で世話してもらうことにしませうよ。お光もあゝ云ふし………』

それきり病院ゆきはお止めになつてしまつた。

それでも兄に云はれたので、看護婦は其翌日から雇入れた。それでさへ日給六十錢の約束なのを、兄へは八十錢のつもりにして費用を出さした。

『看護婦ぢやア家の手傳にならないから。』と一週間目で女中に雇ひかへた。

お槇は其時も和田夫婦の心持を疑はしく思つた。

『私をだしに使つて、自分達の都合のいゝ樣な事をしてゐる』

醫者は加害者の方から二人づゝ寄こしてゐるし治療代は加害者から戸主の義雄が受取つて、義雄から和田夫婦へ充分に渡してある。だからお槇は腹(はら)では何も遠慮するには及ばないと思つてゐるのだけれど、さうも手強く出られない義理の中である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女中が臺所で皿小鉢や上げ板などをがたぴしとぶつける音が體中にひゞけるのを『少し氣をつけて靜にしておくれ。』とも云ひかねてだまつて顔をしかめてゐる。

三月ばかり前に義雄の家内が見舞に來た。そしてお槇の枕元で看護婦に病人の樣子などを尋ねた後、

『少し體が動かせるやうになりましたら宅の方へお引きとりしてもいゝと思つてゐますが。』と云つた。お光が

『嫂さんのとこは子供はなし、女中はあるし家は廣いし此家よりは靜かで病人のためにもいゝんですけれど、でもねあなたは昨今のお知り合ひだし、私は小さい中から一緒にゐたんだしするものですから、あなたより氣がねがなくつていゝんでせう。お母さんも狹くつてもさう〳〵しくつても此家の方がきらくでいゝつていつてますのよ。』とお槇の氣持を取りついで云ふやうにお槇にうなづかせた。

『それは何て云つたつて光さんはお母さんに育てられたのですから、私よりは氣持も知り合つていらつしやるんだから………どちらでも氣のらくな方にいらつしやる方がいゝわね。』

義雄の家内は別に强ひるやうにも云はなかつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『お宅様はお廣いさうですし、御病人のためにもよろしいに違ひないんですけれど……何しろこちらはお人出入は多ござんすし、それにお子樣方が多ぜいさんいらつしやるんで、私でさへお氣の毒だと思ふことがございますんですよ。』

看護婦が病人の頭の氷嚢をとりかへながらお光に憚る小聲でこんな事を云つた。

『私もねこんな大負傷をして體は動かせませんし、とても元のからだにはなるまいと思つてゐますのよ。いつそあの時佛樣になつてしまつた方がよかつたと……………さうすれば皆さんに御心配もかけないし、自分もひと思ひに片付いてこんな苦しみをしないで雙方よかつたとつく〴〵思ひますのよ。』

『たとへあなたが足腰がきかなくおなんなすつたつて、光さんだつて私だつて、まさか邪魔にもいたしませんから、そんな取越苦勞はなさらないでよござんすよ。』

義雄の家内は慰めるつもりで云つた。

『お母さんにもさう云つてゐますのよ。嫂さんはお世辭もなし、お愛想も云へない男みたいな性分の人なんだつて……………でもお母さんには矢張りあたしの方が氣心が解つて好いんでせうよ。』

お光は臺所からガスでわかした鐵瓶をさげて來て茶をすゝめながらかう云ふのであつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。

實際お槇にも義雄の家内には親しみ惡い所があつた。女としては口數の少ない人で、見舞に來てもしみ〲と話をするのでもなく、さうかと云つてまんざら氣にかけてゐないのでもない樣子ではあるが、一通りの容態などを聞いたりするだけでいかにもぶつきらぼうなのが賴りないやうに思はれる。

義雄の家内は後添ひであつた。お槇が義雄の家を出て暫くもらひ娘の嫁入り先きへ行つてゐた間に一緒になつたのである、前の家内と云ふのは、お槇が義雄の父の所へ四十一の時後妻に來た翌年來たので彼是れ十二三年も連れ添つてゐて子供も男女六人も生んだのであるが、義雄と折合ひが惡い。お槇の良人——義雄の父——にも氣に入らなかつた。それが義雄の父のなくなつた後、跡を引きついで下宿屋をつゞけてゐたのであつたが、其頃から義雄は家を外にして女狂ひを始めた。義雄は前から詩や小說を作つて文學に身をゆだねてゐたので、父の後を受つぐ事になつてからは下宿業の方は一切家內に任して自分は相變らず原稿生活をつゞけてゐたのである。

此頃から義雄夫婦の間はだん〲遠ざかつて行つた。お槇は隱居の身になつて家事にたづさわらなくなつてから義雄の夜どまりはだん〲度かさなつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『ゆうべも義雄さんはお歸んなさらないのね。』お槇は義雄の空床を上げながらよくかう云つた。

『お母さんまあ聞いて下さい。義雄はね。あのそら先達中あなたのお部屋に置いた澤田を麻布近邊に圍つてゐるんですよ。此間もね、六本木あたりであの女を見かけたと云つた人が話したんですがね。どうも六本木の裏通りあたりにゐるらしいと敎へてくれたんですよ。私にはもう大抵見當がついたから、今夜一つ其宿の庭に忍びこんで二人をとつちめてやらうと思ふんですが、あたし一人ぢや義雄がまた何と云つてごまかすかもしれませんからあなた一緒に行つて下さい。』

お槇もこれには當惑した。さうでもない他人の家へ忍び込んだりなんぞして、運惡く宿の人にでも見付けられて思はぬ汚名でもきせられまいものでもない。よしやそんな事にならないにしても、義雄とは義理ある中で、まして良人がなくなつてからは云はゞ寄生人同様の身でそんな立入つた事をして、隱居の身で入らないおせつかいをすると義雄に怒られまいものでもない。

『外の事なら一緒に行つてもあげますけれど、人樣の庭へ忍び込む事は私には恐ろしくつてとても出來ませんから………』とお槇はとう〳〵同意しなかつた。それやこれやで家

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

がもめるので居惡いし、義雄も家に居つかないしするので、當分氣をぬいた方がいゝと義雄の父の家へ片付いてくる前に貰つた娘の嫁入り先きから來てゐてはどうだと云ふのを幸に義雄は留守勝なので家内にだけ斷つて當分のつもりで先方へ行つたのだつた。

所が貰ひ娘の連れ合ひが勤めの都合で上海の方へ行く事になつた。お槇もそれについて行つた。

遠く離れてみればさう手輕く歸る譯にも行かないでついうか〳〵と二三年は暮してしまつた。其中役も止めて又日本へ歸つて來て信州の方に其男の國元があるのでそこへ一緒について行つた。

さうかうする中に義雄の方とも縁が遠くなつてしまつた。其中にそこˆとも面白くない事が出來たので、逃げるやうにして東京に獨りで出て來た。それは去年の暮であつた。

とにかくと一たん妹の家に落付いて、義雄の樣子をきくと、前の家内はとう〳〵相談つくで別れてしまつたと云ふし、それにあちらへ行くにも義雄に相談しなかつたので、義雄も其事を快よく思つてゐないと聞いてゐるので『今歸りました。』と云つて行くことも出來ない。で義雄の妹のお光が片付いてゐると云ふ和田の家を尋ねて身の振り方を相談したのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『義雄さんにはね、あちらへ立つ時に御相談しなかつたし、尤も御相談しやうにもてんで家によりつきなさらないのだから出來なかつたんですが、今更御厄介になりますとも云つて行かれませんから、少し落付いたら奉公でもしやうかと思つて、それに家も前とは樣子も違つてゐるし、此間もそれとなし前を通つてみたら名ふだが變つてゐるし……』

『えゝ、兄さんもねとう〳〵あの人とは別れてしまいましたよ、家とお金をつけて子供もあの人が欲しいと云ふだけやつてしまつたんです。』

『どうれでね、私も名前が變つてゐるから變だと思つたんですよ。さうですか。で、今度のはどんな人?』

『それはね女學生氣質のお世辭もそつけもないぶつきら棒な男みたいな人なのよ。けれど氣に毒はない人ですよ。何しろ兄さんと氣が合つてゐるらしいので兄さんも此頃ぢやあ先のやうに道樂もしないやうですよ。』

お光からかう云ふ話をきいてお槇はます〳〵義雄の所へ行きにくい氣がした。

前の家内ならまだしも、母となり嫁となつて暮らした名染もあるから行きにくいと云つてもまさか何しに來たとも云はれまいが、今度の人には一向名染もないし、よけいな厄介者がと思はれないともかぎらない。矢つ張り私は私で奉公でもするより仕方がない。とお

槇は胸で思案した。

『其內嫂さんも來るでせうから、お母さんが歸つていらしつた事を話してあげませう。元々籍はあるのだし、まさかいやとも云ひますまい。』とお光が力をつけてくれるので、

『お前さんのお口添でさうでもなれば私も安心ですけれど、まあよろしくお願ひします。』

と賴んではおいたのだつた。

でもお槇は今後の身の振方に就て色々案じわづらつた。妹の家にだつてさう長くは厄介になつてもゐられないし、若し義雄が快よく引取らうと云つて吳れない時にはどうしやう。矢つ張り信州から歸つて來た時決心した通り奉公でもするより仕方があるまい。それにしても此頃の樣に體が弱つては自分としても働けないし、使つて吳れる人もあるまい。信州にゐた時は東京へ歸りさへすればと意氣込んで來たもの〻、歸つて見れば義雄の家も昔と違つてゐるしなど〻思ひまどつてゐた。

それでもお光が叔母さんの處にばかりゐるのも何だから、家ぢや子供は多いし、縫直し物なども仕立直す暇がないので澤山たまつてあるからそんな物でも縫つて頂けば手傳ひにもなるし、私も手ずくなで困つてゐる所だから來てゐて下すつても好いと云ふのでふと其氣にもなつて一週間ばかり和田の方へ來て居たのだつた。

『まあ丁度好い所へ嫂さんがいらしつた。』とお光が椽ばたへ出迎へた。『おや兄さんも、お珍らしい。よくいらつしやいました。』

『誰樣かお客樣?』

嫂は茶の間と坐敷の中じきりにちらと人影が隱れたのを見てお光にかう聽いた。

『いゝえ、其事、信州の方へ行つてゐたお母さんが歸つて來てゐるのですのよ。』

お光は兄夫婦に坐蒲團をすゝめて置いて更めて一通りの挨拶をとりかはしてから、

『嫂さん一寸。』と椽の板敷に呼び出した。

『ちやあお目にかゝりますわ。』と嫂がお光と茶の間に這入つて來た。

『母さん。御安心なさいよ。兄さんも、嫂さんも何も遠慮はいらない家へ來るがいゝつて快よく引受けて下すつたのよ。』

茶の間でお槇と義雄の後妻とが初對面の挨拶をとりかはした。

『おうわさは豫て光さんからも、義雄からもうけたまわつてをりました。いつかお歸りになるでせうと存じてはゐましたのですが、よく早くお歸でございました。何の行屆いたお世話は出來ませんけれど其代り御遠慮は入りませんから明日からでも入らしつて下さいまし、義雄も家へ來てゐて好いと申してをりますから。』

『何日歸つたんだ？』と義雄が云つた、
『どうせそんな事だらうと思つてゐたんだ。體の丈夫な中はこき使つて置いて、役に立たなくなる時分にほうり出されて來るに極つてゐると云つてゐたんだ。』
『なぜ歸つて來たんだ、出る時おれに相談もしないで行つておいて。』とでも云はれる事と思つてゐたので、兄さんがいらしつたとお光の云ふ聲で思はず屛風の蔭にかくれたのだつたけれど、言葉は例の通り荒いけれど、それでも何日歸つたんだと云はれたので、お槇はホッと胸のつかえが下つたやうに感じた。
『十日ばかり前ですの。』と懷かしくすがり付くやうな聲で云つた。然し又役に立たなくなつておめ〳〵と追歸されて來たと云ふやうな口ぶりを聞くとお槇はちよいと義雄の胸の中をはかりかねた。矢つ張り今更追出されておれの方へ來やうたつて蟲がよすぎると思つてゐるのかもしれない。私の方から云へば又相當に理窟もあつたのだけれど、とにかく戶主の義雄に相談しなかつたのは私の落度だし、强て厄介になりますとも云へない弱味もある。
『今度歸つて來ましても、決して皆さんの御厄介にならうとは思つてはゐませんの、信州でも歸れと云はれた譯でもないのですか、しきりに東京が戀しくなつたものですから、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れにお父さんのお墓參りもしたいと思つて、あちらではいくら東京へ歸してくれと云つても、そんならお歸んなさいとも云つて呉れませんし、自分ぢやあ矢張に歸りたくなつたものですから、置手紙をしてだまつてぬけて來たんですの、それに少し神經痛で體も弱つてゐます、妹の處やこちらでこんなにして遊んでゐますが、體が少し直つたら奉公でもしようと思つてゐますのよ。只ね、お名染み甲斐に親類付合ひでもして頂いて………』

お槇はかう云つてゐる中に胸が一ぱいになつてあとが言ひつゞけなくなつた。親身の子と云つては一人もなし、こちらを向いても義理の中で、子と云ふ名はあつても、繼しい間柄だけにかうした氣兼までしなければならない。これがほんの子だつたら、假令だまつて出たにしても、「義雄歸つて來ましたよ。」と大びらに云へようけれど………、かう思ふとお槇は我知らず涙がこぼれた。

『あの時だつてさうだ。親爺の一週忌もすまない中に逃げるやうにしてあつちへ行つてしまつたんぢやないか。』

義雄が責めるやうに云ふのを、

『もう其お歳で、今更ら奉公なすつてどうせ體もつゞきませんし、又私達だつて見てもゐられませんわ。だからそんな事をお考へなさらないで………充分のお世話は出來ません

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けれど、家へいらしつてね。あなたも、過ぎた事なんぞおつしやるのはおよしなさいよ。そんな事を云ひたてゝはお母さんだつていらつしやりにくゝなるぢやありませんか。』と義雄の家内はとりなすやうに云つた。

それでも歸りぎわには義雄も、

『おれの方ぢやあ、何時來たつてかまやしない。來るが好いけれども夜具布團がないから信州に置いてあるなら至急取り寄せるやうにおしなさいな』と云つた。

多少居にくいかも知れないけれど、籍もあるのだし、夫婦とも引取つて世話をしやうと云つてゐるのだからと、お槙は信州から取り寄せた布團と行李は妹の家からすぐに義雄の家の方へ送つて置いた。で和田の家へも今迄よりは少しは肩身の廣いやうな、氣持で頼まれた縫直しものなどを一枚々々まとめて一方ついたら義雄の方へ身を落付けやうと心がまへしてゐた。

『兄さんもあゝ云つて下さるし、私もお蔭で身の落付場がきまつて一安心しましたよ。』

『えゝ家の兄弟は、みんなお母さんの事を思つてゐないものはないんですからね。今度はもうむら氣を起さないでね兄さん夫婦を賴つて世話になる事におしなさいよ。』とお光も口

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のきゝ甲斐があつたのをよろこんでゐた。

お槇は或る日妹を尋ねて義雄の方へ引取られることになつた話をして安心もさせたいし暫らく逢はない義雄の妹のおよしにも、今度歸つてからまだ一度も尋ねないので其方にも行つて置かうと思つてふと出掛けた。其歸り途にはからず自轉車にひかれてあの大負傷をしたのである。

『この頃はやう／＼つかまり／＼獨りで便所にも行かれるやうになりましたが、まだどうも頭がふら／＼して困ります。こんな樣子で何日になつたら氣分がよくなるのかと考へますと心細くなるのです。今思へばあなたや義雄さんがすゝめて下すつた時病院へは入つたらよかつたと思はれ候、私も此頃では少しづゝ仕事をしてをります。今度はぜひ引取ると云ふ事で誠にうれ敷思ひますが、是迄何かと世話にもなり手數もかけてあるのですから自分が心よく成しとて、さやうならとも云ひかねますし、仕事も山程あるのですから當分は手傳ひする心組ですが、何分手足のしびれがよく成ませんからそちらへ行きたく思ひます。』

お槇は義雄の家内にこんな手紙を出した。

『お陰で私も杖にすがつてゞもお湯に行かれるやうになつたしするから、一たん兄さんの方へ引取つてもらつて、其上で又仕事でも忙がしさうなら更めて手傳に來てもいゝから…

……』

お槇かうも云つて、お光になぞをかけた。

『えゝ、そりやあお母さんが行きたいなら行らしつてもいゝけれど、あの嫂さんだつて口先では引取る〳〵つて云ひなさるけれど、腹ぢやどう思つてゐるかしれやしませんよ、それにあの布團の事だつてさうぢやありませんか、全體なら、あなたが病人で寐てゐるんだから新らしい綿でも足して柔らかにして送つて來るのが當り前なのに、汚れたまゝそつくり送り返してよこすなんて……あれを見たつて萬事がわかります。』

『それはさうだけれど、私はあちらへ引取られるのが順なんだから……』

和田夫婦はいつもお槇が義雄の方へ歸る話を持出すと、きまつて何かと苦情を云ひ出した。區役所の下級公吏をしてゐる和田の奉給と云つても家内五人を暮すには不足な程しかもらつてゐない。內職かた〳〵花や茶を敎へてゐるが、それも二三人しか弟子がない。そればかりでなく、お光はもう臨月に近い腹をしてゐるのである。

『ねえお母さん、家でもそろ〳〵お產の仕度もしなけりやあならないし、少しお金が入用なのですが、あなたの貯金ね、あれを少しの間融通して頂くと都合が好いんですが。』

お光が或る日こんな事を云ひ出したので、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『あのお金は義雄さんが、私の養老金として預けて下すつたのだし、私だつてまだ病氣が丸々直つたと云ふのでもないのだから、そんな時の用意に手をつけずに置きたいから…………』

義雄に一應相談した上でとお槇は體よく斷はつた。それでも度々せめられるので、お槇は一とうらの小袖と羽織とを借さなければならなくなつた。

お槇には此頃和田夫婦が自分を引止める心持がよめて來た。今思へば病院へ這入るなど强て義雄夫婦に云はしたのも、さう云つて私の治療代を義雄の方から引出すためだつたと氣がついた。それにもう五月だと云ふのに、世間では單へ物を着てゐるのに、お光が着古した袷のふだん着のまゝで錢湯へ行くのを見ても、簞笥の中の乏しい有樣がほゞ想像された。毎月々々私の治療代として受取る金はどうなつてしまふのだらう。其上私の小使さへ折々お光に借りられてしまふ。私の晴れ着ももう質屋の藏の中へ這入つてゐる。それだけならまだしも、あの貯金さへ此頃では目をつけてゐる。かうして行つたら私は和田夫婦のために裸にされてしまはなければならなくなるだらう。さうなつては義雄に對して面目ないあの嫁だつてきつと好い顏はしまい。さうかと云つてどうせ此家に此儘ゐる氣にもなれない。何と云つても賴るのは義雄夫婦だ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お槇はかう思ふと『おれの家内なら、おれの後とりの義雄に頼れ。なぜ義雄が引取ると云ふのにぐず〳〵してゐるのだ。』と亡き良人が夢枕に立つては叱るやうに云ふ。

『あちらでも度々あゝ云つて呉れますし、嫂さんも迎ひに此間も來てくれたしするから、お産の時には又手傳ひにくるとして一たん引取らうかと思ふんですが……』お槇はお光の顔色を伺ひながらかう云つて見た。

『お母さんだつて、お腹の大きい私にさんざ看病さしといて、今少しからだがよくなつたからつて、私のお産まぎわに逃げなくつても好いぢやありませんか。そりやあお母さんだつて此頃ぢやあ女中もゐないし少し位用事を手傳つて頂いてゐるから、おいやなのでせうけれど、それぢやあんまり身勝手と云ふものですわ。』

お光はむきになつて云ひたてるので、お槇もそれ以上には云へなくなる。

『いゝえ、さう云ふわけぢやあないのですよ。只ね、兄さんがあゝ云つてよこしなさるのだし、あちらへ義理もあるし歸らうかと思つたのですよ。だけどそりやあお前さんの方が、あの嫂さんよりは氣心も知つてゐるし、かうして永い事いやな顔もしず大病人を世話をして下すつたんだから、こちらで居て好いと云ふのなら、私の心ぢやあゐたいのは山々なんですよ。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『だから和田も私も、常々お母さんに云つてゐるぢやありませんか。あなたさへ其氣なら私達がどこまでもお世話をしますつて。』

義雄の方からは折々手紙で便りが來る位で此一月ばかり夫婦とも顏を見せない。

『矢ッ張りお光の云ふ通り眞身に世話をして呉れる氣はないのかもしれない。嫁だつて義理一遍で人前だけあゝ云つたのかもしれない。お光はかうしてもうかれこれ四月ゐる私にあゝ氣持よくお母さん〳〵と云つて呉れるのだから、あれの云ふやうにいつそ氣の置けない和田の家にゐることにしやうかしら。』

『いつそ私の籍を兄さんの方から引取つて下さいな。さうすれば私もこゝの佛になることになつて安心だから……』

お槇がかうも思つてお光から和田に相談してもらふと、なあに、さうきてうめんにしなくつても、私達二人で承知してゐれば差支ないぢやありませんか。』と取り合ふ氣色がない。

『もうお藥ものみ厭きたし、それにかうしてお湯にもゆかれる程足もしつかりして來たから、お醫者樣の方はお斷はりして下さい。』

『とんでもない。假令體は好くなつたにしても、藥は飲んでゐる事にしなくつちや、なあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に正直に飲まないでも、捨ててしまふまでもまだよくないと云つて置かなければ治療代がとれませんからね。』

和田がいつもかう云つて治療代をとる手段に、强て醫者の診察をうけさせてゐるのを、お槇は先方に對して心ぐるしい思ひがしてならないのであつた。

『お前も產は近づくし、それに世間體も好いから、給金の出ない下女をたのまふかね。用事の暇々に茶や花を敎へてやる。そして嫁入りの仕度をしてやるかはり毎月の給金は出さないと云ふ條件をつければ、きつとくる奴があるぜ。』

『けれど嫁入仕度などするには中々安いお金ぢや出來ませんよ。』

『なあに、さう云つてだまして置くのさ。誰れが正直にそんな仕度なんぞしてやるもんか』

こんな事を語つてゐるのをお槇は寐ざめに耳にすることもある。お槇はそれが和田の萬事につけてとつてゐる處世術だらうと思はれるのである。

『私もあゝ云ふ氣で世話をしてゐるのではないかしら。私の少しばかりの貯金などを此間中から貸してもらひたいと云ふのも、お光獨りの考へからでないことは解釋できる。でなければ、負傷しない時分は早く義雄の方へ引取らせうとしてゐたのに、其後になつて、かラりと樣子が變つて引止めるやうになつたのだもの。』さう思ふとお槇は和田の心持がすつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かり見えた。

一日も早く和田の手から放れたい。何とか口術をつけて義雄の方へ引上げたい。

『二人とも好く世話はしてくれますが、何しろそちらへ行くと云ふ話になりますと二人とももむきになつて引止めるので私からはどうも云ひ出しにくいので困つてゐます。それに私の貯金を貸せ〳〵と云はれるので、あれは義雄さんが預けて下すつたのですから、私の一存では自由に出來ないからと云つてやう〳〵くひ止めてゐるのです。私も年はとつてゐますし、あれだけは持參金のつもりでそちらへ手をつけずに持つてまゐらうと心がまへしてゐるのですが、昨今では毎日のやうにそれを云ひ出されるので何と云つて斷らうかと思案につきてゐます。こんな工合ですから、どうか私から云つたと云はずに、そちらから口實をこしらへて至急引取ると云ふお手紙でもよこして下さい。此頃では夫婦ともあなたの方へ手紙を出すことをきらつてゐるやうですの。此手紙も内所で書いたのですから、どうかそのつもりにして置いて下さいよ。』

お槇は買ひ物に出る振りをして二人にはかくして義雄の家内にかう書いて出した。

「御手紙拜見しました。光さんのお產も近づいてゐる事ですし、どうせ今迄心棒したのですからせめてお產のすむまでそちらにお出なすつた方がよいでせう　」

折返してかう云ふ返事が義雄の家内から届いた。お槇は義雄夫婦が永久に自分をつき放してしまふ暗示のやうにとれた。

『もう誰も賴みにすまい。和田夫婦だつて、義雄夫婦だつて、どうせ血を分けた間ぢやないのだから。』

かう心の中で思ひつめると、夫の在世中の賴み處のあつた月日が戀しい。あの時分は日々の生活にどこか力があつた。下宿屋と云ふ小せわしない商賣で隨分氣苦勞もあつたけれど、それでも今程みじめな氣兼はなかつた。義雄夫婦は別に家を持つてゐたし、一番末の末雄はよくなづいてゐて私を本當の母親のやうにしてくれた。もつともお光は何かに付けて

『亡くなつたお母さんはさうはなさらなかつた。』と兎角先妻の母親を引合ひに出して私を行屆かないやうにおとしめた。お光が父親から戒められてゐるのにお客の座敷へ入りびたつてゐるのを

『お光は何處にゐる。又客の座敷へ行つてるんぢやないか？』と夫が私の監督が屆かないやうに云ふので、

『いゝえ、今丁度女中がお使に出てゐますのに、お手が鳴つたものですから………』と當

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

座の取りつくろいを云つて置いて、そつと呼びに行き〳〵した。それでもお光は父親からその事で小言を云はれる度に

『お母さんは、一々お父さんに云つける。』とか、『ない事をつげ口してわざ〳〵私を叱らせるんだ。難くせをつけるのだ。』とか兄姉や親類どもに云ひふらしたりした。

『お父さんはお母さんにまかれてゐなさる。亡くなつたお母さんの時分には女中も一人しか置かなかつたのに、今は二人も置いて水一つ汲ませないで樂をさしてゐる。』などゝ蔭口を云つてゐた。けれど私は其代り仕事だけは一枚だつて外に出しはしなかつた。そればかりぢやあない。十五六年と云ふ永い間に着物らしい着物一つ自分のとしてこしらへてもらつた事はない。

『人が百花園々々と云ふから一度二人で行つて見よう。』と秋になるとは夫が型のやうに云ひ續けてゐたけれど、それも客商買だけに、今日と云つて暇な日がなかつたゝめついに行く折もなくつて暮した。

『こんなに身をつめて家のために一寸のむだも出さないやうにしてゐるのに、又繼しい仲だからと云はれるのがつらさに娘等にまで氣兼してゐるのに、義雄たちや親類までが何かにつけて好くは云つてゐない。ほんに後妻なんぞになるものぢやあない。』と幾度も思ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

〳〵した。私が四十先になつて後添になるやうになつたのも年をとつてから死場所にまよふやうなまごつきはしたくないと思つたからだつた。日本橋の河岸で派出な魚問屋の後をついで婿養子をして二人子供は生したけれど二人とも育たなかつた。とても子供は育たないとあきらめて近所の家から生れたばかりの女の子をもらつて育てた。其中婿も早世する家産は傾むく。とう〳〵家も人手に渡すやうになつた。養女も或妻子ある人と切つてきれない仲になつて其家に入り込んで家内ともつかず、妾ともつかず暮してゐたので、私が承知で養女に妾奉公をさしてゐるのだと痛くない腹をさぐられるのがつらさに『親と思つて世話をするから』と養女の男が云つて呉れたけれど

『私は私で自分の身の仕末をつけるから』と云つて義雄の父の後添ひになつた。先妻の子の五人あると云ふのも多くの中でだれか一人位頼りになるのもあるだらう。と却つて喜んでゐたのだつた。然し派出な暮しに育つた身で小せわしい下宿商買や、じみな切りつめた暮しになれない中は随分心ざむしい事もあつた。夫もかなり物事にこまかい方だつた。

『そんな事をしちやあめりがたつて仕様がない。』とよく云はれ〳〵した。

『女はけちなものですから、大丈夫むだを出すやうなことはいたしませんわ。』と私も云つたものだつた。お宿泊り客のある時貸し蒲團家からとりよせるのでは家の儲けにはなら

ないからと思つてたんせいして古い蒲團かわの寄せあつめで貸夜具を二組や四組はこしらへて置た。それでも自分の手で切り盛りしてゐると思へば張り合があつた。夫が亡くなつてから義雄夫婦が家を繼いでからと云ふもの、一日だつて樂しいと思つて暮した事はない。いくら働らいてやつてもしまひには邪魔物あつかひにされる。養女の嫁入り先でも、又こゝでも。義雄夫婦だつてきつとさうなるだらう。考へてみれば賴みになるのは連れ合ひより外にはない。

『あなた。早くお迎いに來て下さい。』

亡夫の墓の方角に向つてお槇はいつも賴りなくなる度に祈つた。（をはり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人と別れて——三ケ島葭子

このままの別れなるべきいましめを君が寢顏に見よと夜の明
堪へがたく戀しき心明日明日に迫れることも知らで別るる
われもまた共に送りし人々と別るるまでは泣かざりしかな
幾度かかく送られし身を思ひばじめて君を汽車に送る日
君は今いづち過ぐらん歸りきて座れば身さへ汽車のごと搖る
君をやりひとり空しくあらんやと狂ひまはれど逢ふ人も無し
旅ゆゑに世馴れぬ人のいとしさを文待ち暮らす身にもおぼえぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

われ君を何と思へる別れては共にさまよふ心地こそすれ

いまだよし世にも寂しきわが姿忘るるほどに寂しからねば

今にてもすでにおそしと歎く身を見つめて待てと云へる君かな

何となく別れし君を思はせてなつかしけれど知らぬ人かな

おのが身を嵐の中に置くもよし春の夜君は知らぬ國ゆく

君遠く去りましてより夕ぐれの風なつかしき夏とこそなれ

海山にむかへられつつ安らかに君は行くべしさは思へども

東京にまさるところのあらずとも君猶しばし海な渡りそ

みづからは君にまめなる心地してあれどいつしか戀を失ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

萬人は如何ともあれ

齋賀琴

山々を越えて流るゝ白雲にならばや君にまみえなんため
世の常の只事なれど忘れ得じ戀しき人の言葉なるゆゑ
一面に白く光れる海のはてかすみの如くきみが島見ゆ
かなしみもうらみも今は君見むの願ひのはしにかゞやきて見ゆ
君よしと一言云はゞ何事もうれしきさまに思ひなすかな
一人の君が力をたのむためかく强けしとわがこころ足る
君思ふきはみにこの日あさましきいつはりごともよしとするかな
君見むのたくみなるゆへあさましきいつはりごともとがめたまはじ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くさ／＼の悲しき事をわきまふる大御心にやすらひてゐむ

このまづしきおのが心に安んじてあるべきさがを父母は求めぬ

このまづしき心の奥を知り給ふ君ある故にいさゝかつよし

父母はこの人の世の災ひを我よりとれさくひ給ふかな

人の世の寂しき事をわきまへて生きたまふ故親をうとみぬ

すこやかに生ひ立つわれと病む父と樹々の若葉をとも／＼に見る

君がため君見む願ひなげうちてげにもさびしく世に生くるかな

いたましき殺人犯の名を負ひて死なんもよしや君が身のため

萬人は如何ともあれ一人の君が情に死なまほしかな

S先生に

野枝

餘程以前から先生に何か書いて見たい氣はありましたけれども私の書いたものなんか御覽になるときつとまた、あの、「フン」と鼻の先で笑はれることだらうと思ひますと嫌氣がさして書く氣にはなれませんでした。けれども今度こそは書いて見ます。讀んで頂かなくてもかまひません、私一人で書いて見ます。

私に對する先生のお心持ちが今どんな狀態に在るか私には全然見當はつきませんけれども多分相變らず輕蔑してお出になることはたしかだとおもひます。私も實を云ふと先生を輕蔑してゐるのです。それで學校にも先生の處にも行きません、でも惡くんではゐません。私は先生は矢張り好きなのです。嫌ひにはなれません。私が學校にゐた時分の何にも知らないでゐた頃の先生は好きでした。然し稍や私が物を解しはじめた頃の先生は、――先生の態度は――私には不快でした。何故なら先生は私に對して、あまりに傲慢でそして不徹底であらしたからです。先生は、徹頭徹尾私を子供扱ひになすつた。それもまあ我慢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しますけれどもそれは決して本當の先輩だと云ふ、自覺のある態度ではありませんでした。私はそれをよく知つてゐました。私はあの私の事件のときに先生が骨を折つて下すつたことを知つてゐます。そして感謝してゐます、けれども私は矢張り不平です。先生は、私の方にもそれからまた、私の國許にゐる兩親たちにも雙方に先生の親切を見せつけるやうな態度をなさいました。例令先生はさう云ふおつもりでなかつたにしても、先生は、どちらにもよく思はれたいと云ふ氣持はたしかにおありになつたとおもひます。でなければ一段高い處にゐて、其所から私達の間を自由に近寄せやうとなさいました。一體何時でも私には二つの全く相反した性質のものが先生の内にゐて、爭つてゐるやうに思はれます。先生御自身ではお氣がおつきにならないかもしれませんけれども——或はまた先生はうまくそれに調和がとれてゐるつもりでお出になるのかもしれませんけれども——それが別々に孤立してゐるやうに思はれます。それは私は學校で先生から倫理のお講義を伺つてゐる時分から氣がついてゐました。それがあの時以來著しくはつきりといたしました。先生は何時も私達にお話して下さる時に油がのつておいでになりますと氣持ちのいゝ程興奮して社會の腐敗した風紀や何かのことについて罵倒なさいました。それでそれまではまだ半眠狀態でゐた私の社會の習俗に對する反抗心が漸く目醒めて來ました。そして、そのボンヤ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りした私の魂はだん／＼に僅かづゝながら成長して來たのでした。そして、私が當然通るべき第一の關門にまで到着したときに、私は先生に敎はつた通りにありつたけの力をもつて其處にぶつかりました。勿論それにはＴとＮ先生とが後にゐて下すつた事も私の力を强くしたのではありますけれども。

そしてその時第一に私に反抗を敎へて下すつた先生はどうだつたでせう。私はかう考へて來ると悲しくなります。先生は矢張り到底社會に對抗して活きて行ける方ではなかつたのです。然し無意識にしろ屹度先生には妥協して生きて行かなければならないことが苦しいのでせう、それで、その苦しみを先生は何にも知らない私達の前にぶちまけてゐらしたのです。私たちは子供でしたそんな事は少しも知りませんでした。思ひ切つた俗物にもなれず、といつて、人しれぬ苦しい思ひをしながらも社會と云ふものを、何をするにも相手にしなければ生きて行けないといふ先生の氣持は、今の私には充分におさつしが出來ます。私は、その氣持には充分に同感の出來るものがあります。併し先生はそれを自覺なすつてゐらつしやらないのです。自覺がおありになれば私はもう先生には何にも申あげることはないのです。けれども先生は、その苦痛を自然の苦痛として、その苦痛に就いて考へて見やうとなさらずにたゞ何でもなく看過してお出になるのです。すつかり滿足してお

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

出になるのです。それが先生を災してゐるのだとおもひます。賢明な先生が何故あんな態度でゐらつしやるのでせう。私はあの當時Tにあてゝ下すつた手紙ですつかりが解つたやうな氣がします。

先生は、Tに宛てた手紙の中に

――私はどうも感情的でいけない、早い話が手紙を頂く前と後ではあなたに對する感情が違ふ、斯く感情の移りやすい私は時々過度に激昂したり、また俄かに氣の毒の感の爲めにくだらない妥協をする幼稚な癖があるのです。――

また斯うもお書きになりました。

――人を見て稍もすれば大摑みに値ぶみをしたり早呑込みの侮蔑をしたりすることが多い、これは人を尊重せぬ惡癖と深く悔ひます

けれども先生はいくら悔ひてゐらしても矢張り傲慢でゐらつしやいます。他人に對して傲慢だと云ふことは自分に對して傲慢だと云ふことに當るとおもひます。人を尊重せぬ惡癖と云ふのは自分を尊重せぬ惡癖と云ふことです。「困つたものだと思ひます」と仰云つても御自身はその實あまり困つてはゐらつしやらないのです。病氣あつかひにしてお出になる處が可笑しいとおもひます。而も先生はさう云ふ惡癖をもてあつかつてゐて困ると云ひな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

がらTやN先生の態度について、自分を一段高くにおいて批判するやうなことを書いてお出になるやうです。それも先生に本當の意味での自覺がないからだとぞんじます。自覺と云ふのがいけなければ先生の內外生活がともに徹底してゐないからだとも云へませう。

先生は、言論の上では、――私共に講義して下すつたとき――社會とか道德とか習俗などを極力排斥なすつたやうに思ひます、併し實際問題にかゝはつたときに、先生は、矢張りあゝまでそれに固執してゐらつしやいます。

先生は何でも型にはまる事はおきらひのやうに私は存じました。先生は何時もそれを非難なすつてらつしやいました。けれども矢張り先生も御自身が型にはまつた生活をしてお出になつたのだとおもひます。先生がかつぎ上げてゐらつしやる道德の惡い癖は、何人を看るにも人その人を見ないで何時も、どんな人を見るにも、道德と云ふ標準をもつて理性とか感情とかを別々にしてそれで人間の價値を定めるやうなことをなさいます。現に先生がおなじ手紙の中に例におあげになりました事だつてさうです。

――けれど感情的であることは免れません。面白いが人生々活の標準とはなれますまい、と思ひます。之を貫いては困ることが隨分あることを反省して頂きたいと思ひます。幡隨院がお尋ね人の平井權八をかくまふのも此の感です、芝居としては面白いが道

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

徳の標準にはならぬ、從つて惡い場合も生じます。卽ち道理理窟にも社會の秩序にも觸れることがあります。――

けれど先生は、そんなに人間は所謂道德にばかり氣がねしなければ生きて行けないものでせうか。誰も彼も神樣でない以上さう／＼小さくなつてもゐられないと思ひます。早い話が先生だつても道德を侮辱したことはないとは云へないでせうと思ひます。道德は必ずしも眞理ばかりではないと思ひます、神樣は決してあんな道德などゝ云ふ窮窟なものは造りはなさらなかつたのだと思ひます。都合次第に出來たものなら都合次第に破壞してもさしつかへのないものだと思ひます。人間の本性を殺すやうな若くは無視するやうな道德はどし／＼壞してもいゝと思ひます。破壞する力を與へられない者は仕方がないとしてもさう云ふ確信をもつたものはどん／＼さうして進んだ方がいゝのだと思ひます、都合次第に出來たものゝ爲めに、さうして自分の上に何の權威もないものゝ爲めに、一歩もゆづる必要はないと思ひます。それが出來得ない人は道德それ自身を恐れるのではなくてそれをとりまいてゐるもの達を恐れてゐるのだと思ひます、先生だつて現今の社會の道德に偉大なる權威を認めてお出になるのでもなければ滿足してお出になるのでもないと思ひます。唯だ先生はその道德を奉じてゐる社會の群集の勢力が先生の生活の上に及ぼす不利な結果を恐

れてゐらつしやるのだと思ひます。

先生は「僕は自分の自由を重んづるからすべての人の自由を重んじたい」と云ふTの言葉を美言と仰云ひましたね、けれども先生はそれが本當に解つてお出にならないのだと思ひます。凡ての人がその心持ちでゐたら、どんなに、各自勝手なことをした處でお互ひ同志の秩序を亂すことはない筈だと思ひます。ただ皆、自分の手前勝手と私たちの云ふ自由を一緒にしてゐるのです。そして餘計な心配をしてゐるのだと思ひます。それは絶對の自由はなかく得られませんがそれに近い自由は得られます。先生は何とか彼とか可なり私達の上を非難なすつてゐらしたことを私は知つてゐます。然し私達は今貧乏はしてゐますけれども過ぐる頃先生に夢想だの何のと云はれた、私共の考へてゐたことに近い生活をしてゐます。そして何の矛盾も苦悶も持ちません、——但し世間の人達の持つてゐるやうな一般的の苦痛です——私達は今、何に向つても可なり自然な心持で向ふことが出來ます。何の束縛をも感じません。そして私共は可なりお互ひに勝手なまねをして居ります。私達に向つて先生が斷言なすつた三年を直ぐですけれども、私達の愛はなかく醒めさうもありません。私はあれほど大切な道德に反抗しましたけれども生きることはさまたげられはしま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せんでした。私はずん〱成長してゐます。これからもずん〱育ちたいと思つて居ります。

私は別に新らしがる譯ではないのですけれども先生のやうな賢明な方があゝやつてたん〱時代に取り殘されてゐらつしやることを考へると情なくなります。それは屹度先生のゐらつしやる位置が惡いのだと思ひます。先生は自分の生活を可なり恐れてゐつしやるやうに私には思はれます。

私がこんな事を申上げると先生はどんなにお笑ひになるでせう、また、どんなにお怒りになるでせう、然し私の考へ方は間違つてはゐないと思ひます。學校にゐるときには先生のお話を一生懸命に伺つてゐました。解らないでも解つたかほをして聞いてゐました。今考へると本當に滑稽です。その實何にも解つてはゐませんでした。今になつてチョイ〱先生のお書きになつたものなどを拜見しても私には解らない事が多うございます。お書きになりましたものを讀んでいくら考へて見ても「なかみ」がちつともないやうな言葉ばかりが並べてあるやうに思はれます。先生の仰云ることはちつとも生命がないやうに思はれます所謂現實味が缺けてゐるとでも申すのでせう。何となく私のやうな生々しい人間の氣持にしつくりと力強く來るものがないのです。先生の仰云る言葉は一つ一つ皆空想から生れたも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のゝやうに思はれます。先生には世間の思想なる物の醜さははつきり解つてゐらつしやるやうです。然しそれ以上の事はもうお解りにならないで、そしてそこから先は空想にしてゐらつしやるやうに私には思はれます。私達がまだ學校にゐた時、子供でしたからまるで盲目でした。先生はその社會の表面に現はれた事實をつかまへて盛んに熱情的な口吻で私共に話して下さいました。何にも知らない私共はすつかりその事に感心してしまつてゐたのです。

私はあの事件で子供から一足とびに大人になりました、少し考へ深く注意ふかく私が世間に對したとき、其處にいろんな事象がいろんな意味で私を敎へてくれました。私は學校で先生方に伺つたお講義が何の役にも立たないことを確め得ました。理想といふのはすべて空想の所產であることを知りました。そして空虛な理想に服することは出來ませんでした。私はあの時の事を考へますと身ぶるいが出るやうです。

眼には覆を除られたすべての醜い事象が橫はつてゐます。それを踏み越えなければならないと解つてはゐますけれどもどう行つていいのか解りませんでした。そして私も矢張りその醜い事象の一つでした。もう美しい理想だの道德だのさういふ高遠なことを考へることは出來なかつたのです。だのに先生はその時私が何んな情態に瀕してゐるかも考へな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いで私も矢張りその中の事象の一つであるといふことを根據として、周圍といふ私にいくらかの影響を與へるものをつきつけて、私の心の中に渦卷いてゐる大きな矛盾を肯定させやうとなさいました。その時私は先生が日頃私たちに云つてお出になつたことゝはまるで違つた態度で社會といふものをお說きになるのが焦れつたいやうに思はれました。併も先生は俗惡な社會の道德や習俗に對して何の苦痛の感も抱かずに按しながら一方にまた高遠な理想を說いてお出になつて、その理想と愚劣な現實とを止むを得ないと云ふ、アッサりとした言葉で結びつけて平然と濟ましてお出になります。私にはとても我慢がならないのです。そして先生は遂に古き理想主義としても徹底することが出來ずに、また思ひ切つた俗な生活にも滿足し得ずに、何と云ふ事もなしに一生ボヤッとして過してゐらつしやるのかと思ふと本當に淋しい氣がします。

隨分無遠慮にいろ〳〵な事を書きました。また先生に、子弟の禮をわきまへぬなどゝしかられるかも知れませんが何となく書いて見たいので書きました。ひどいことも書きましたが、私は矢張り先生が好きです。先生が妙な道德家ぶりさへなさらなければ私は本當にすきなのです。情熱と空想の世界にゐらつしやる時が一番先生の生地に近い時だと思ひます。あの「悧巧」が顏を出すといやです。「理想」のお話をなさる時に、それを先生の美しい

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

空想として聞く〳〵と本當におもしろい氣持のいゝお話ですけれど、その話が現實に結びつくといやです。

私は何と云ふつもりでこんな餘計な惡まれ口を書く氣になつたのでせう、讀み返して見て驚きます、可なり先生の腑に落ちない見當違ひがあるかもしれません、實はもう少し書くつもりでゐましたけれどもう書くのが面白くなくなりましたからこれで止めます。何だか一向不徹底な、何を云つてるんだか解らないやうなものが出來上りました。ですが私はたとへ先生が御覽になつて、間違つてゐてゞも何でも、私が先生にこんな理屈が云へるやうになつたその事だけでも認めて頂けばいゝのです。そして、先生が先生の所謂「新思想」もあんな傲慢な態度でなく研究して頂きたいと思ひます、實は何時か先生が溫舊會通信にお書きになつたとや讀賣新聞の婦人附錄にお書きになつた――たしかに先生だと私は承知いたしてゐます――ことについて重に書くつもりでしたが溫舊會通信も新聞も何處かに仕舞ひ忘れましたので一寸具體的に書けなくなりましたし、面倒くさくなりましたから止めました。先生のあの態度は傲慢と云ふ言葉に當ると思ひます。それは先生御自身で仰云る「――大摑みに値ぶみしたり、早呑込の侮蔑――」をしてゐらつしやるのです。もう少し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

先生が新思想に對して親切な敬虔な態度をもつて御覽になることは先生御自身の爲めばかりではなく先生がお導きになる多くの先生を信頼してゐる生徒たちの爲めにどんなに幸福なことか分らないと思ひます。何卒先生、學校から社會へといきなり突き出されたときに多くの若い人達があまりに現實との間にひどい矛盾を感じて惑ふやうな事にならないやうにして下さい。それは先生のやうな方にしかお願ひの出來ないことだと思ひます。私は本當に他の愚劣な敎育家と云ふやうな人達とおなじに先生を看てゐましたら生意氣にこんなことは申ません。その事がお願ひしたいばかりにいろ〳〵な生意氣なことを並べたのです。何卒馬鹿にしないで讀んで下さることをお願ひします。私としては眞面目に書いたのですから。まだ雨が降つてゐます。學校時代の無責任な樂しさは思ひ出しても氣持のいゝものです。先生のお宅にゐました頃――それももう二度とは返つて來ない樂しい月日です。

かうして筆を運ばしながら追想しますと又いろんな思ひ出が生き返つて筆を擱きたくなくなります。何だかあの先生のお宅で林檎をかぢりながらいろんなお話を伺つたときのやうな子供々々した、なつかしい親しみをもつて先生に甘へたいやうな氣持になります。かうなつて來ると、あんなにくまれ口をきいた大人になつた自分が惡らしくなつて來ます。かもういゝ加減に止めませう。そのうちに、こんな理屈を云つたことは全く忘れたやうな顏

をして、先生のお書齋に子供になつて甘へに行きます。そのとき何卒惡くらしい大人の私をしからないで下さいますやうに今からお願ひして置きます。（三、五、一五、）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

歡喜の失踪

——オリーブシュライネル

若い生(Life)は日のあたつた海岸に終日座つて居ました。微風が始終彼女の髪を玩んでいました。彼女は若やかな顔を擧げて海の上を眺めました。彼女は待つて居るのでした。待つて居るのでしたけれども其の待たるゝものは何であるかは彼女に分らないのです。

浪は終日沙の上を走せ上りしてゐました。そして其れと共に淡紅色の貝殼が轉りました。生は座つて居ました。日光を見詰めながら彼女は座つて待つて居ました。遂に疲れて彼女は立てた膝に頭を載せて、猶待ちながら睡つてしまいました。

すると沙の上に船の龍骨の軋る音がしたかと思ふと又人の足音が聞えました。生は目を覺しました。と誰か彼女の肩へ手を置きました。彼女はワナ〳〵と震へました。彼女が顔を擧げた時彼女は自分を覆ふやうにして居る不思議な、大きい愛(Love)の目を見ました。で彼女は今始めて、自分の待つた居たものを意識しました。

愛は彼女をヒタと彼自身の體へ引きよせました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此の會合から二人の中に得難い、美しいものが生れました。其れは歡喜(Joy)でした。二人は其れを第一の歡喜(First Joy)となづけました。愉快な水の上を遊ぶ日光も此の子程嬉しそうではないでせう。薔薇の蕾が太陽の始めての接吻を受ける時開く花瓣も此の子の唇程赤くはないでせう。小さな其の脈は早く打つて居ます。其れは何とも云ふに云はれないやうに溫かで、柔和です。其れはものを云ひませんけれども、日光を浴びて笑つたり、遊んだりします。愛と生、二人は非常に喜びました。二人は何にも口へ出して云ひませんけれども各々が心の中で

『此れは永遠に私達のものである』

と云つて居ました。それから何週間か、何ケ月かゞ過ちました(愛と生は時を數へません)時に或る時期が來ました。其れはこうです。二人の間に生れたものは猶笑ひもしますし、遊びもします。又紫色の木の實を食べて口のまわりを汚したりしますが、時々其の子は疲れた人のやうに小さい手をだらりと下げて居たり、重苦しい目をして海の上を眺めたりして居ます。

で生と愛は今お互ひの目と目を見合はす勇氣もありません。

『私共の大事な子は何を苦しんで居るのだろう』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云ふ力もありません。唯各々が心の内で

『何事もありはしない。何事もありはしないのだ。明日にでもなつたら又晴々と笑つて呉れるであらう』

と云つて居ました。が明日は來ました。其の又明日も來ました。そうして彼等は彷徨をつゞけました。子供は二人の側で遊んでこそ居ますが、だん〳〵陰欝になつてきました。

或る日二人は相並んで睡りました。そして彼等が目を覺した時は、二人の中の子供なる歡喜は彼等を去つてしまつた後でした。彼等はヒヽと泣きながら別々な方向へ歩き出しました。そして叫びました。

『オー、私達の歡喜よ！　失踪した子よ！　お前は永遠に私達の懐へ歸り來ぬか！』

此の時、二人に近い草の上に小さい見慣れぬ人が柔和な、けれども悲しそうな目を圓くして彼等を見て居ましたが彼等は其れには氣が付きませんでした。

優しい、けれども悲しそうな目をして居る、小さい人は走つて來て兩手に生と愛の手を取り二人を引きよせました。で二人は其の人を間に、並んで歩きました。生が惱ましさの餘り俯きますと彼女の涙が其の小さい人の優しい目に映つて居ました。又愛が心の苦痛に堪へかねて物狂ほしく

『私は疲れた。私は疲れ果てた。もう一歩も進む事は出來ない。私にはもう光りは來ない私の前途には眞黑な闇があるばかりだ!』

と叫んだ時に、小さい人の薔薇色の指は遙か向ふに見ゆる丘の日のあたつた處を指差しました。始終其の人は悲しい、思慮深い、大きい目をして居ました。始終其の人の小さい凜々しい口は落付いた笑を浮べて居ました。

生が鋭い石で、足を傷けた時其の人は自分の着物で血を拭ひ取り、小さな唇で其傷いた足に接吻しました。彼等が或る沙漠迄來て、そして愛が氣絶した時(愛は愛自身の自覺を失つたから)其の人は跣足のまゝ暑い沙の上を走つて、其の沙漠の中ですら、愛の唇を濕すために、岩の間の穴の中に水を探し當てました。彼は決して二人の足手まとひでは有りません。彼は決して二人によりかゝるのでは有りません。彼は二人を勞り助けて彼等の旅を、はかどらせて居るのです。

彼等が暗い峽谷迄來た時に、其處はひどい寒さでした。岩からは氷柱が下り、雪は深く積つてゐました。愛と生はどうしても此處を通らなければならないのです。此の時小さい人は二人の凍つた手を取り、自分の脈打つ小さい胸へあてゝ溫めてやりました。それから彼は靜かに彼等の手を引いて進んで行きました。

此の峽谷を通り過ぎて、彼等が日光の目映い花の咲き亂れた土地へ達した時小さい人の目は妙に輝きました。頬には翳が現れて來ました。彼は晴れやかに笑ひながら柔い草の上に走つて行きました。そして樹の洞から蜂蜜を集めて掌へ上せ、それを二人に與へました。彼は又百合の葉へ水を入れて二人に持つて來ました。彼は始終、ほゝ笑みながら花を集めて二人の髮を飾りました。彼は彼等の失つた歡喜が彼等に與へたやうな感じを彼等に與へました。が彼の指は歡喜のよりも、もつと優しく彼等に絡まりました。

こうした二人は、此のニコ〳〵して居る、勇しい小さい人を始終、間にして暗い處や明るい場所を通つて進みました。時々彼等は失つた子供の歡喜を思ひ出して

『あゝ、あの子も一所に居て呉れたなら！』

とつぶやきました。

遂ひに彼等は反省(Reflection)が座つて居る處へ出ました。此の不思議な老婦人はいつも片方の肘を膝へ突いて其の手へ頤をのせて居ます。彼女は未來を輝らして見るために過去から光りを持つて來ます。此の老婦人を見て生と愛は叫びました。

『オー、賢い御方！　どうぞ私共を助けると思し召して、御教へ下さいまし。私共二人が一所になりました當時私共は愛らしい晴れやかなものをもつて居ました。其れは涙のあと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を交へない喜び、少しの影をも、とゞめない日の光りでした。がどう云ふ罪が私共にあつて私共は其の子を失はなければならなかつたでせう？　何處へ行きましたなら、私共は其の子を探し出す事が出來るでせうか？』

此れを聞いて老婦人は答へました。

『もとの其の子供を取り返したいのなら、あなた方は、今あなた方の側に居る其の小さい人をお捨てなさい！』

と云はれて二人は苦悶の聲をあげ

『それは出來ませんです』

と異口同音に申しました。生は又悲しそうに

『どうして、私共は此の人を捨てられませう？　私が刺をたてゝ苦しんで居た時、誰が其の刺を拔き取り、毒を吸ひ取つて呉れたでせう？　私の頭が痛んで途方にくれて居た時、誰が小さい手で、なでさすり、其の頭痛をしつめて呉れたでせう？　暗い、寒い處を通る時に誰が私の凍つた心を溫めて呉れたでせう？　あゝ』

とロ說きました。愛は又

『私はむしろ死を選びます。歡喜はなくとも生きて行かれるが此れを失つては我々はどう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

する事も出來ません。私は死んでも此れを捨てはしません！』
だまつて聞いて居た賢い老婦人は口を開きました
『何と云ふ馬鹿な人達だろう！　いつ迄其の目を開かずに居るのだろう！　あなた方が失つた〳〵て云つて騒いで居る子供は今現にあなた方の側に居るではないか。あなた方を勞つて居るではないか。お聞きなさい。其のわけを話してあげませう。
愛と生が始めて出逢ふた時に二人の中に生るゝものは少しの影もない輝いた子供歡喜です。が日を經るに從つて、二人の歩む道が追々嶮しくなつた時、暗い影が多くなつて來た時、日を送るに困難が増して來た時、夜が長く寒くなつて來た時、其の時に、始め生れた輝いた歡喜は形を變へ始めます。だが其れを愛と生は見る事が出來ない、其れを理解しない、であるから其の子の形が全く變つた時には二人は失つたと思つて急にびつくりします。そして
『オー、神よ、オー、神よ、私共は大事のものを失つた。あゝ何處へそれは行つてしまつたろう！　何處へそれは行つてしまつたのだろう！』
と絶叫します。彼等は、始めには笑つて計り居たものも沙漠へ行つたり、霜や雪の積つた處へ行つた時には其の形を變へるものだと云ふ事を知らない。彼等は今現に彼等の側に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼等を勞り、助けて居るものが姿を變へた歡喜である事を悟らないのです。眞面目な、美しい、優しいもの、最も寒い雪の中に居ても溫かな、荒涼たる沙漠にあつても勇しい、其の小さい人の今の名は同情(Sympathy)です。最も完全な愛(Perfect Love)です。(終り)

山田わか譯

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

結婚――西崎花世（前號の續）

お手紙をいたゞきました。私はそれを拜見致して慄へて居ります。私は胸が亂れて何事もよく申上げられません。私は何も書く事が出來ません。此の書けない事は寧ろあなたが滿足して下さる事と思はれます。私の心は震へて居りますからおゆるし下さいませ。

五錢だけでも持つてゐて嬉しく存じました。心配してはいけませんけれど、あの夜は私は歩いて歸りました。坂の途中で下駄が切れてそして傘が破れて、足袋ばかりで歩きました。少し身體が冷えましたが、今朝は何ともありません。然し御案じなさらないで下さいませ。

早く御一緒になりたくて、樣々の苦しんで來た話　虐たげられ僞られて來た身の上を聞いていたゞきたく、世間の思ひ及ばぬ程早く二人は一緒に集りたいと存じます。生田先生のお宅でお目にかゝる事の方が、誠實な私たちの愛のために幸ひな事に思はれます。

多分私はあなたのお手に歸するとともに一時何も書かずに半年ばかりはだまつてあ

なたの世界の中で靜にねむりたいと思ひます。どうか私を眠らして下さいませ。

私は昨日社の方に云ひましたから多分今日ぎりで社を退きます。そしていろ〳〵身のまはりを片付けて準備します。十三日の夜五時頃生田先生の御宅に私が伺ひますからお出でになつてゐて下さいませ。

私はおそろしくむつつりしてものの云はれない時と、酷く感興の來る時とがあります。自分でも不思議でなりません。私はあなたのお心を見詰めて震へて居ります。それはあなたが私よりも多く感じてゐられると信じてをります。

金の心配などなさらずお仕事なさいますやう。私たちの生活は金では成り立ちません。そんなものではありませんから。

（二月十日）

○

十三日夜必ず生田先生の御宅に行つてようございますか。たしかに？ 十五日夜どうぞもう一度河井先生のお宅へいらしつて、私の弟に逢つて下さいませんか。うるさいのでお困りにはなりますまいか。然しそれさへすめばあとは氣樂だと存じます。くわしき事はお目にかかつて申し述べます。

（二月十一日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

今日は折角のところ留守してすみませんでした。弟さんと面會の件は承知しました。十三日に兎に角先生のお宅へお出で下さい。その外の事はその折に。

（生田樣より）

○

昨日はお訪ね下すつたのに、留守にして本當に殘念でした。昨夜歸つてから早速葉書は出して置きましたが、兎に角十三日には是非とも來て下さい。私が先き行つてゐるやうにしますから、でないと工合が惡くお感じでせうから、御都合が出來たら午後お出で下さい。私は一時頃迄に行つてをります。若し夜でないと出られなければそれでもいゝのです。私は仕事を持つて行つてそれまでしてゐてもいいのです。弟さんには早く御逢ひ申した方がいいでせう。何なら私の處へお出で下すつたら、その方がよくはありませんか。これも十三日にお話し申します。お手紙によればあの夜は歩いてお歸りになつたさうですね。昨日は「新潮」へ來たあなたの原稿をよみました。その感想もあとでお話いたします。

（生田樣より）

○

昨夜はいろ〳〵有り難う御座いました、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お歸りがお遲くなりましたが、先生のお宅を出て上野の方へ歩く道々私はよくおしやべりをいたしました。あなた樣が靜にたゞ〳〵聞いてゐて下すつてゐた事を、今思ひ出して、何故あのやうに私ばかりが興に乘じたのであらうかと怪しんで居ります。十五日には弟に逢つて下さいませ。

（二月十三日）

○

生田樣は私もあなたも芽であると云はれた。私たちは二人はまことに幼い伸びやうとする芽である。私も亦さう思ふ。この芽は伸びて行かねばならない。「芽」と云ふ事の意味は現在の二人の「命」か幼稚であると云ふ事、無智であると云ふ事、淺薄であると云ふ事、無學であり魯鈍であると云ふ事、そして未來のものであると云ふ事である。

（二月十四日）

○

生田樣は私を許して下すつた――私はこのやうな偉い徳を持たれた人が、この世界に私の爲めに現れて來るとは思ひ及ばぬ事であつた。生田樣は宥恕の徳を持つて私を救つて下さらうとする。私はこの絶大なる徳に報ひなくてはならない。私が人格を有つ女であるとするならば、それはこの人のこの徳を浴びて、殘る半生の命を、一歩一歩この徳のために報ひるのでありたい。誰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が私のすべての醜惡と、無智と血まみれの事と虐たげられてゐた事とをこれほど迄に寛大に宥して呉れる事が出來やう。生田樣は、その事は氣に掛けないと云はれた。私が私の赤裸さを投げ出して生田樣のお心をながめた時、それはすべて私の承知をしてゐた事であると靜に語られた。

あの靜かな聲の中に虛僞があつたであらうか。虛僞は無かつた事を私は認めた。生田樣も亦私のやうに苦痛にも貧乏にも醜いことにも暗い事にも光明の意味を求めて積極的に歩いて行かれる人であつたのである。

然し男がその女の血まみれである事を、而して美しくないと云ふ事とを苦しくないと思ふ本能のない事はない。それが無いと云ふ事は生田樣の意志であつて、その心の本當の情はそれは日を經て苦しいものとなるのである事を私はよく思ふ事が出來る。私はそれを思ふ時まことに氣の毒に思はれる。私は私の命の在る限りこの事を詫びたい。この人の心を柔かなあはれな私の女心をもつて慰めて生きたい。本當の愛は嚴肅である。甘へたり甘へられたり、ふざけたりふざけられたりする事ではないと思つてゐる。

(同じ日)

○

あなたのあのうれしさに輝いてゐたお眼を今思ひ出しました。とうとう昨夜私はあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なたのものとなりました。河井先生と弟とあなたと三人の間に自然に引き結んでいつた、私とあなたとの「命」のことがあまりに幸に思はれます。皆それはあなたの誠實とあなたの勇氣と、あなたの宥恕とのたまものであります。私はあなたのお心を仰いで手を合せて拜むやうな感謝と尊敬とを持つて居ります。どうぞ私をいいものとして下さい。どうぞ私をこの魯鈍から救つて下さいませ。

（二月十六日）

○

昨夜はお出で下さいまして有り難う存じます。弟は無口な人間ですから、多分お話しにくくいらせられた事と存じます。今朝九時までに伺はうと存じましたら、雨模様ですから止めて家で一寸した縫物をしたいと思つて居ります。けれども今夕お伺ひするかも知れません。

（生田様へ）

○

今までの私のノートは唯私一人の命のために、私ひとりの獨り言を書いて、私の命を統一し解剖し、沈潜し發揚させて來ました。然しこれから私のノートはあなたの命を加へました。そして二つの命のために二つの命を解剖し、統一し沈潜し發揚させてゆく事をしたいと思ひます。私たち二人の命はまことに幼稚な命である事は私も知つて居ります。私たち二人の魂はまだ研がれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ずに黒く暗く、且幼い。然し暗ければこそ光を慕ひ、幼ければこそ生長を思ふ事が出來ます。

あなたのお云ひになるやうに私たち二人は未來のものだと思ひます。而してある人が私の前で、今の日本の新しい女を罵倒したように、まことに私たちは賤劣な無學な、無能な下等な輕蔑せらるべきものである事も感じて居ります。然しその輕蔑せられる苦痛から歩いて、私たちは歩一歩、眞を慕ひ、眞に生きてゆきたいと思ひます。而してこの私の眞に生きんとする力の源は、私にとつて私の創るこのノートの外に何の力がありませう。

あまりに眞面目でないものは眞面目なもののの肺腑をしぼる聲を矢鱈に面白事として笑ふのが常とおもはれます、彼れ等には誠實な心の事がいつも滑稽な事と思はれてゐます。私は私がこれほど熾烈な熱心を持つて私のノートを創る事を、そしてそれをさうしてゐると云ふ事を云ふ度に或る種の人には毎も笑ひ話とされてゐる事を知つて居ります。

然しただ、あなた様とA――先生と、このお二人の心は一番早く私を認めてくれました。私はそれを喜んで居ります。私は永く二人の命のために眞に奉ずる宗教こそ、私の怠らぬこのいとなみである事を信じて居ります。

(同じ日)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

話さうと云ふ欲望を持つてゐます。

（生田様より）

○

唯今（七時）歸宅いたしました。薄黄色な枯草の戸山の原が長い生涯の記念の一となりました。柔かな日の光にあてられて、あなたのお話を伺つた喜びが、いつまでも忘れぬ事におもはれます。其の折申上げて置いた、水のほとりの貸家は殘念にももう人が入つて居りました。其の他に二軒ばかり見ましたがおもはしくありませんでしたから止めました。私に萬事お任せ下さいませ。よろしきやうに致したいと存じます。

（二月十七日）

○

昨日はあれから赤坂見付で弟さんと別れました。なか〱しつかりしてゐるのには感心しました。まづこれで一段落ついたと云ふものです。いつ頃此方に來ますか。なるべく早くした方がいゝでせう。巣をこしらへるのも早い方がいゝと思ふ。何だか氣が落つかないで困ります。あなたは此頃の一日をどうして送つてゐるのですか。さぞ同樣におちつかないでせう。僕を訪ねて下さるなら、前もつて知らせて下さるか、午前（九時までならいつでもゐます）中にお出で下さい。おたよりを待つてゐます。此間はあまりに少く話しましたが、今は多くを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

お葉書を拝見いたしました。御申し付けの事はよく承知いたしました。私たちの生活の中心はいつでもあなた樣の御都合でありたいと存じます。いつまでもあなたのお心持が大事でございますから萬事御申し越し下さいませ。私はいづれにもよろしきまゝに心を動かしてまゐりたいと存じます。それでは家を探す事は中止といたします。私は澁谷にゐて洗濯をしたり縫物をしたり讀書したりいたしてお待ち申上げます。今日は青鞜社から借りて來た「サアニン」を讀みたいと思ひます。

（二月十八日）

○

私たちは苦痛をさけたくない。私たちは私たちに訪れて來る總ての苦痛を征服するために、多くの苦痛の中に自分の幸福を創り出すためにあらゆる苦痛を愛して生きたいと思ひます。あなたもさうお思ひになると思ひます。

（同じ日）

○

御手紙拜誦仕候。例の件は委細了承、今明日中と存じ候。生田氏よりも手紙來り申候。國元親類へは已に通知濟に候。多忙の爲歸澁出來ず、皆樣によろしく御申譯被下度候。

（弟より）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は結婚すると云ふ事――妻となると云ふ事に世俗的な在來の內容を盛つて考へたくはなくおもつてゐます。私はあなたと同棲すると云ふ事に出來得る限り新しい價値のある、極めて貴い內容を盛りたいとおもひます。私の弟はあなたに私の姉は軌道はづれの女でありますからそれをよくよく御承知置きねがひたいと云ふ事を申し上げましたが、私は或る意味からはたしかに軌道はづれに相違ありませんけれども、それは古い世間の慣習の軌道に外れて生きてゐる事であつて新しい意味の生活の軌道を踏むには正しすぎる程正しい道を歩いてゐると云ふ事の自信があります。私は新しい妻の道、新しい人の道を生きて行きたいと思ひます。あなたはそれをお認めになつて下さる事とおもひます。私はあなたの御食事とあなたの着物と、あなたの部やのお掃除さをします。然しそれよりももつと大切なあなたの「命」の主（あるじ）となる事をしたいと思ひます。あなたの「命」を愛（いつ）くしむもの、あなたの「命」を動かせるものになる事が出來るとおもひます。あなたの命はいつの世までも私の血と私の肉とを養ひとして伸びてゆくのでありたいと思ひます。私はあなたの命の生長の手段をちつと工夫いたして居ります。

あなた一個人の命ではない。それは私の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ものだ。そしてその命は私の力の左右すべきものだ。その命を動かせる事は私の心の發現でなくてはならない。私はあなたの命の「主宰者」であると思ひます。

（二月十八日夜）

○

唯今（朝七時）また〳〵雪が降り出しました。空が暗いせいか心持がよくありません。どうしていらつしやいますか。どうか御無理をなさらぬやうに願ひます。私は昨日から今朝にかけて、あと〳〵樣々の感想が湧き出してまゐります。それを皆他日お目にかけたいとおもつて一々ノートに書きつける事といたしまして居ります。私の感想も新しい生活とともに一段落を告げる事とおもはれます。青鞜へもうあと一回發表させて貰つたら、そのあとは沈默の世界が來るとおもはれます。發表したくなくなると云ふ事は私の進歩なのでありますから。

（二月十九日朝）

○

「青鞜」に感想を發表する事はもうあと一回でおしまひです。私はあなたの世界に住んでこの社會的の聲を消したいとおもひます。而してA――先生のお云ひになる「發育のカーブ」のために自分の生長を大切にしたいと思ひます。私は本當に先生のお世話になりました。それは先日申上げた通り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でございます。それについて、先達おたのみ申上げたとほり、先生のとこへ御禮にゆきたくてなりません。あなたに連れていつていたゞきたくてなりません。どうかさうさせて下さいませ。先生のおかげで私はかうして生きる術をおぼえましたから。

（同じ日の晝）

○

私は今かういふ事を考へて置かねばならぬ必要を感じます。それは私があなたと同棲すると云ふ事に就いて、私があなたから生活を維持される事に就いて、あなたが私を食べさせて下さると云ふ事に就いて。それからあなたのお力によつて私が食べて行くと云ふ事によつて生ずる私の服從と云ふ事です。男が女に養はれる時には男が女に服從するのが自然の成行であるように女が男にやしなはれる時女が男に服從するのも當然である事を私は知つて居ります。此れからの私は養はれて生きる女となりますから、從つて此れからの私はあなたに服從してゆく人間である事を約束いたします。私は私の服從を卑屈でない、盲目でない、正しい自覺の服從といたしたいと思つて居ります。

而れで私があなたの前に私の美しくない事と私の血まみれの事とを恕（ゆる）していたゞかうとする事はそれは他の意味に於ける懺悔であつて、決して卑屈な內容のお詫びでな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い事はおわかり下さる事と存じます。此れは私自身の幸福のために私の失はれた寶を悲しむ悲しみでありますから。私は私があなたのまへに跪づいて此のやうに宥恕を求め、服從を約する事が私の「人」としての卑屈を示すものであるとは思はれません。もとよりそれが女性が男性に對する降伏であるとも思ひません。あなたもそれを御存知です。私はあなたの「人」を尊敬いたします。私はあなたの「命」を愛します、そのやうに私の正しい服從の上に、あなたの「男」としての正しい態度とお言葉とをお示し下さいませ。

（同じ日の夜）

○

今日もいやな空でございます。私は今日かういふ事を致したいと存じます。まことに勝手がましき事にて惡いかとも思はれますが、然しどうしても此の心の都合上、一日も早くあなたのお處に近い處に移りたいと思ひます。幸ひ、金の都合もようございますから今明日の中に、牛込の方に引き移りたいと思ひます。どこか靜かな家を借りてそこでいろ〳〵の仕度をいたしたいと思ひます。

（二月二十日）

○

先生には其の後おかはりなくいらせらるゝ御様子をかげながら承りお祝ひ申して居りました。先日は婦人文藝社よりおたづね

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

申上げました事に直ぐ御返事をいたゞき、あつく御禮申上ます。さてまことに申兼ねますがこの兩三日中に是非先生にお目にかゝりたく折り入りておねがひ申して居ります。先生の御都合のよろしき時を何卒お知らせ下さいませ。私は新しい生活に入る事となりましたので色々「考へ」を整理いたして居ります。

○

私の事は私の心で仕末をしなければならぬ事を私は知つてゐる。先生のお言葉の世界に歸りたいと云ふ事は私の心があなたを得た事によつてたしかに疑惑と不安とを拂ひ落して正しい強い確信となりました。

私は正しく歸る事が出來ます――。私には自信が出來ました。そして此の自信はあなたが私に與へて下すつた何よりも貴いおくりものでありました。私は永くあなたに感謝いたしたいと思ひます私は確かに先生の言葉の處へ正しく歸る事の出來る心持となりました。

私は今先生に葉書を出しました。

（其の日）

○

お葉書拜見いたしました。新しい生活に御入りになるやうになつた由、どんな意味でもお喜び申上ます。御出になるのは何時でも差支ありませんが、今朝は留守です

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

し、明後日もはつきりはわかりません。私の方で一番都合がいゝのは月曜の午後ですから、可成はその時に御出下さい。御待申します。

雜誌を毎度難有うございました。貴女の御考の次第に展いて行くのを見て私も喜んでゐました。

（先生より）

○

中澁谷から早稻田に移轉。

小さな家の小さな主婦——。

（二月二十一日）

○

先生私は昨日の午後まゐりたいと存じてゐましたのに雪のために色々手違いと相成り出られなくなりました。折角の時を失つたのを殘念に存じて居ります。丁度先生から下さいましたお葉書を拜見いたしました日に、私は中澁谷の方を出て早稻田の方にまゐりました。日當りのいゝ閑靜な小さな家で、一日無事に暮して居ります。もう少し心持が落ついたら秩序正しい勉强を致したいと存じて居ります。

私は先生のおことばの世界に歸りたくて毎日そのために心を修めてまゐりました。私は凡で幸福になりました。良人は生田と申します。生田長江先生のお世話になつて來たまことに誠實な若い人でございます。

（先生へ）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今晩は心から嬉しうございました。時々瞳の潤むのを禁ずる事が出來ませんでした。初めての人の前で小兒の樣によく饒舌りました。無遠慮の罪は御許し下さい。故里のやうななつかしさで君等の家の事を思ひつゞけながら眠ります。此が君等への僕の祈禱であります。（オー氏より）

○

花嫁のはじめの言葉
あらゆる愛のはじめの言葉
その中に永遠の生命は籠る
よしきらびやかなる婚禮の式はあげぬも
愛の抱擁は正教會（カツリツク）の嚴しき式にまされり。
いと烈しき人生の渦卷の中に
手を執りて進み入るいと若きブウア、カップの苦痛もて裏書きせられし幸福を
友は涙もて喜びて貧しき食卓に連なる。
されば、おのが家の樂しき團欒（まとゐ）
隣へと喜びを分け
またその隣へと分け與へ
全き世を地の上の樂園とせよ。
冬枯れし人々の胸に
紅き血の滴（しづく）をしたゝらし行き
その足跡を菫（すみれ）、蒲公英（たんぽぽ）もて埋めしめよ。
かくてその喜びをとこしへの世に
もたらせよ、おのが兒におのが曾孫（ひまご）に。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

温かき雨に濕されて
ひからびし世も芽ぐみ出るごと
愛の波紋のひろがるままに
年の力を添ふるがままに
地の骸さへ動き出づべき
その日こそこの婚禮のはてし日なれや。

〇

昨日は有り難う御座いました。K――氏もY――氏もM――氏もみな江戸川の方から歸られたので、私一人が神樂坂の方へ歸りました。にぎやかな人達の心に誘はれて、浮立つた心も家へ歸ると靜まつてしまつて、すぐ寢られませんでした。で、「新潮」の奥様の文を讀んで見ました。あなたもそんな事を言つて言つていらつしやつたし、奥様もさう書いていらつしやいますが、美しくない事はないぢやありなせんか。K――さんもさう言つて居ました。サーニンの様な考になれない私は、若し私が女を戀するならば、其女は他の人が皆嫌ひのやうな醜い女であればいいと思つた事もあります。――昔座禪などやつて近代人になれなかつた私は、此頃また文藝のものなど一つも讀まなくなつて、釋迦の事を考へたり、唯佛與佛といふやうな事を考へたりする様になつて、益々近代人でなくなつて行くやうです。お話を承りに時々參りたいと思ひます。

（M――氏より）

○

結構です。どうぞいつまでも幸福で暮して下さい。愚妻も今話したら大變に喜んでゐました。

（雜司ヶ谷の先生より）

○

花世さん。よう得心して下さりました。まことに此の上もなき嬉しき、めでたうございます。私大に安心いたし候。あなたに何ぞあげたきと思へど親甲斐もなきありさま、どうかとうかかんにんして下さい。先日ばお金一圓たしかにいたゞきました。ありがたう存じます。あなたに拾圓送りたいと思ふてくめんしてをります。できしだい御送りいたします。

河井先生は誠に〳〵はじめより御深切の御世話。何とも御禮の申しよう無き先生や畠様には深いお世話になりますな。御禮も出來ず。私うれしくて方々をふしおがみて居ます。花さんの黒の紋付の羽織解いて張りてあります。お送りしてよければ知らして。縫はせてよければ着物と合ふように寸たけ、くわしく云ふて下さい。お金もそれでおさまりつかねばどなにかしませうから、一度手紙下さい。

日根、普請で、私宅まで混雜せてゐます。忙しい其中で子供も減りたりしたよ、手紙出すのおくれたのは其のわけ。

（母より）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

先生昨日は長居をいたしました。久しぶりのお話をいろ／＼と伺ひ、まことに有り難う存じました。谷中のあたりは本當に靜で心のおちつくお住居でございました。私の方も大變に閑靜でございます。どうぞそのうちに生田先生におねがひいたし、御一緒に御出でいたゞくやうに致し度、良人と相談いたしました、小さき家にてお耻かしうございますけれども、どうかお客様になつて下さいませ。（先生へ）

○

生田様を大きくしてゆくと云ふ事がこれからの私のいとなみであることを覺える。私のものを學ぶ事はたゞそのためにのみ學ぶのでありたい、私が私のノートを創る事はたゞそのためにのみの用でありたい。生田様の命が伸びて大きくなる事が私の正しい喜びである事を感ずる。生田様を大きくすると云ふ事、生田様に仕へるといふ事、生田様を動かすと云ふ事、生田様を敬ふと云ふ事、これが私の世のこれからの眞の望みである。

私はだん／＼と生田様を自分であると思ふ感情をおぼえて來た。俄に私の前に現れて、私があなたの夫である。私があなたの終生の友である。眞の戀人であると云つて私の肩に手を乘せて下すつた。然し其の時

の私の心はそれをさう思ひたいと思ひながら水に油を加へられるやうな可成なじまぬ心でゐた。生田樣のお言葉をさうであると思ひながら、私の心は自由に動かなかつた。然し今私は此の人を自分であると思ふ心持に住む事が出來るやうになつた。

生田樣を大きくする事は私の必要である。生田樣を大きくすることは私の母さまの喜びである。そして私の幸の事である。先生も亦そのことを喜んで下さるのであつた。昨日先生は、「あなたのこれからのお仕事は生田さんを大きくしてゆく事ですね。」とお云ひ下すつた。

私は是非この人の命を伸ばしてゆきたい。

（二月十七日）

○

私は良き戀を求めて得た。私は良き結婚を求めてそれを得た。私は理想に到達する事を得た。私は今新しき次の理想をこの心に孕まうとする痛みをおぼえる。私はどうして私の愛する男の心を光らせる事が出來やう?。

（二月二十八日）

○

淡紅色（ともいろ）のヒヤシンスと住吉踊と小さい三味線とを神樂坂から買つて來て、部屋をかざる。空は晴れてゐる。大屋の庭の方で鶯が小さく鳴いてゐる。春である!。私たち

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の春と宇宙の春とが同じ歩みを歩かせて來た。

（三月三日）

○

生田先生の奥様から紅いてがらと櫛と笄とを「祝」として送つていたゞいた。而して本郷の方で髷に結つたらばと云ふお言傳があつたので、雨の降る日ではあつたが伺つた。丁度先生もお宅でいられたので、婦人記者以後はじめてお目にかゝた。あの頃は今頃かう云ふ事にならうとは思ひも及ばぬ事であつた。

先生は私たちの新しい生活を本當によろこんで下すつた。そして生田様の幼い頃からの人となり、勉強の模様人づきあひのやうな事を詳しく聞かしていたゞいて幸であつた。

二時間ばかりお話のあとで奥様と御一緒に髮を上げた。本當によくなりました。と先生はお云ひ下すつた。丸髷の靜に重たい心持――私は新しい世に踏み入る命を、この髮の心をもつて區劃るのをおぼえる。

先生はA――先生と御一緒に、私たちの家のお客様となつて下さる事となつた。

夕暮、早稲田の自宅に歸つて、生田様に挨拶した時、それを見ると責任が重くなつたと云つてほゑまれた。

（三月十八日）

○

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私たちはいつまでも謙遜な心を以つて學んで生きたい。私は何にもなつてゐない。まことに私は幼稚なる靈(たましひ)である。

（其の夜）

附記

「此頃の感想」と云ふのを去年の九月の本誌に載せていたゞいてから十一ヶ月の間に八篇を書きました。感想は事實を生み、事實は感想を生み、苦痛は新しい苦痛となり、悦樂は更に意味ある悦樂となり、歩一歩身を進めて自分の理想を踏んで來ました。その間に私の文に對する世間の評は、つきつめた處はあるが幼稚であると云ふ點に於て一致いたして居るやうです。その世評は私に對して正鵠を得て居ります。然し私が自分の生活をかうして發表しゝ眞の意志は、私がかうして生きたるものを提供すれば、私の後からまた生きたるものを公開してくれる人が出て來て下さるに相違ないと思ふ止むに止まれぬ野に呼ぶヨハネの聲でおります。總ての人にみな私のこの衷心を諒として下さる事と思ひます。就いては、匿名の某氏及び山川生、その他二三の方々から御深切なる理解と叮嚀なる御注意とを寄せて下さいました事を厚く御禮申ます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

枕草紙現代語譯抄

上野葉

中古文を讀み始めた頃から私は何だか清少納言の性格の中に引きづり込まれて行く樣な氣がしてゐた。そして彼女の殘して置いた枕草紙をたゞ讀み下したり解釋をしたりしただけでは物足りなくて私は子供が玩具を弄つたり毀したりする樣に今の私達の言葉にかきくづしては堆み重ねて樂んでゐた。そしてたとへ氣分の惡い時寂しい時などでも默つて彼女と對き合つてゐさへすればそれで快い氣分になつて來る。私は彼女の一語一句をも等閑には聞いてゐない。なぜならば彼女は至つて無口なので。偶發するその一語一句には深い面白い含蓄がある。皮肉がある。批評がある。正直なプラウトがある。とりわけ后宮定子と彼女との間に交流してゐた面白い意博が特に二人の女性を彩つてゐる。

彼女の生立ちに關しては余りよく知られてゐない。そして其後年も。兎に角當代の歌人梨壺の五人の一人なる清原元輔の愛娘で幼い頃から男の讀む和漢の諸書に渉獵して詩文と云はず稗史と云はず佛典と云はず廣く暗じてゐて機に臨み時に應じてそれ等の字句は唇を衝て出た。斯くて彼女は容易に人の妻となることを肯じなかつた。年將に卅に埀むとして未だ机邊へ去るに忍びなかつた、がしかし伏龍は何時までも狹い池を世界としては居ない。

抑も平安時代は藤原氏が他の宗族を排して獨り其政權を專にした時代である。そして巳に他の宗族を征服した藤氏は更に同族間の爭奪となつて彼等は互に墻に鬩いだのである。しかも當時に在つては政黨を以てするのでも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なく手腕を以て戰ぶのでもない。政權を得ると否とは一に外戚たると否さに存じてゐるのである。そして此外戚となるには藤原氏は第一によい娘を持たればならぬ。そしてそれを後宮にすゝめて幸にして陛下の殊寵を蒙り儲君を擧けることが出來たならば即ち政權は自然その掌中に歸するのである。だから藤氏は先づ女子の出生を悅ぶと同時に美人であれかしと祈るのであつた。否單に美貌のみを以て爭ふのでは到底群を凌ぐことは出來ぬ。更に詩人でなければならぬ。音樂家でなければならぬ。學者でなければならぬ。陛下の殊遇を仰がむために百方力を竭さればならぬ。藤氏が政界上から競つて其娘の敎育に力を注いださ云ふこさが當時の上流社會一般の傾向さなつて苟も要路に志すものは何れもその娘の良緣を迴つて權門に阿つたものであつた。

さてその後宮に入つて皇后となり女御となつても未だ枕を高うして安ずることは出來ぬ。なぜならばそれ等后妃の間には更に激烈な暗鬪が有るからである。それ等暗鬪に備ふべき武器は何であつたか。當時の所謂政客論士達の人氣の中心であつた女房達——后妃に奉仕してゐる——の才色そのものであつた。

泰平日久しく且地方分權の當時に在つては中央政廳はたゞ其名を存するばかりであつて實は主上を中心とした一つの交際場裡。詩歌管絃の巷に過ぎなかつたかの觀がある。當時の物語日記などを讀むと這般の消息がよく窺はれる。て上達部殿上人など云ふ高位顯官に在る人々は毎日たゞ僅に宮中の政務にたづさはつてゐるばかりで多くは後宮に女房達の間に立ち交つて互にその才藝を弄んだのである。自然才媛の集る所には才子佳人が集つた。人才の集る所やがて權勢の府である。斯ふ云ふ事情からして當時の後宮は何れも競つて才媛を求めて各爭權の矛とした。

茲に一條天皇の初年藤原道隆は御年僅に十二三歲にならせられた陛下の後宮に年巳に十七になる其娘定子を立

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てて皇后として自ら關白するや多くの才媛を求むるに當つて兼て人有りと知られた淸氏の深窓から召し出したのが淸少納言である。さだ過ぎた老孃が新參のはづかしさを僅に檜扇のかげにかくしたのは夢の間で彼女は月ならずして宮中さ云ふ舞臺の大建物人氣役者の第一人者となつて了つた。深く博く養はれた彼女の才學の前には博識の男子も後に瞠著ならざるを得ない。彼女の自尊心の前には兩陛下の外には何者もない。縱横に振り撒く其才能が一々禁庭の大評判となつて好事の殿原は十重二十重に彼女を取り卷いた。雨の宵花の朝には彼女の演じる風流韻事か軒から軒耳から耳に傳へられる。堂々たる男子誰有つて彼女の噂を口にするのを以て名譽とせないものが有つたろう。斯くて皇后宮に其人ありと我も許し人も許した。そして其最も力强い背景さなつて舞臺を引つ立てたのがかの才色絶倫の定子皇后其御方で有つた。

いかに彼女の才學が古今に絶してゐたとするも若もそを認めそを愛しそを發揮せしめた皇后定子の在しまさなかつならば驥も遂に槽櫪の間に終つたてあろう。ひとり彼女ばかりでなく男と云はず女と云はず當時の才子佳人が皇后の知遇によつて一世に名をなすことの出來た人逹がいくら有つたらうか。實に定子皇后こそ彼等すべての伯樂であつた。あゝ彼女は得がたき知己を是きあたりに得ていかばかり嬉し泣きに泣いたろう。后の宮の御ためには命をも捧げて惜まなかつたのも尤である。皇后も亦彼女のためには有らむ限りの御心を盡させられて面白いこと喜ばしいことがあれば先づ彼女に告げてよろこばせられた。そして事々に宮に啓し上げて安心してゐた。此君臣の二人の女性は恰も一心同體の樣によく投合しよく敬慕して離れることの出來ない意氣に感じ合つたと云ふことが稀に見られる面白いそして羨ましい奇遇であつた。往々にして彼女を妬て讒する傍輩も尠くはなかつた。そんな場合に彼女が杞憂を抱くことがあるにもせよ皇后は一度も其黑白の批判を誤られなかつた。彼女は海の樣な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その后宮の大度に幾度感泣したことであろう！、

彼女が后宮のために其天才を發揮することが出來たと同時に其天才の周圍に集つた星の如き月卿雲客によつて如何に后宮の勢力を扶植し得たであろうか。當時の紳縉で苟も皇后宮に參ぜなかつたものが有ろうぞ。夜となく晝となく伺候の殿上人の絕間はなかつた。飛ぶ鳥も落す勢は君臣相待つて其才學が買ひ得たのである。記憶すべきは當時の才學なるものは多くは斯かかる社交の方便に用ゐられてゐたと云ふことである。

しかし此舞臺の全盛時代は余り長くはなかつた。皇后の御父道隆公が程なく薨去せられると政權は非常に仲の惡かつた公の弟道長の手に移つた。續いて宮の御兄伊周公遠流のことが有つたりして皇后の後援となるべきものがふつつり斷ち切れて皇后は自ら御謹愼。剩へ道長が例の政略から已に皇后の在します上に更に己の娘彰子—上東門院—を入れて變則な中宮を並立せしめ盛に才媛を招致して皇后宮に當らしめた。紫式部一味が即ちそれで有つた。如何に皇后が賢明であつても如何に淸少納言が立ち鳴らしても政治的の後援を失つた舞臺は流石名利に馳せ易い人情の常として終に落寞の觀を呈しないではゐない。皇后の御身の上に一時に降りかかつた災厄は宮をして世をはかなみ病を齎さしめて間もなくかくれさせられ皇子皇女御妹君も皆打續いて薨去せられた後は宮の御方人だつた人達は皆離散して了つた。彼女は道長に緣故もあり其才を惜まれて招かれたらしいにも係らず彼女の節操は終に屈しなかつた。そして落飾して都の片ほとりに后の宮の菩提を弔つたとも或は四國に漂浪したとも傳へられてゐる。佳人の末路も面白いではないか。知己を失つた彼女の孤獨の寂しさはむしろ沒交涉な人達と接解する悲哀よりは遙に快かつたに違ひなかろう。

此草紙は後年に至つて道長が榮華の極にゐて時めき給ふ上東門院の御有樣を目擊するにつけて定子皇后の昔を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

侘びつつ書き綴つたものらしい。從つて自畫自讃の尠くないのも失意の彼女が自ら慰めたすさびとしては諒としなければなるまい。そして此草紙の内容が主として外面的であつて內に向つてゐないと云ふことも多く政爭の具として育てられた當時の女流文士に於て已を得ないことではあるまいか。とは云へ彼女の斷片に過ぎない此草紙からほのめき出でる彼女の眞相をうかがふ時に千載の昔に在つて眼界の狹い舞臺に在つてしかも彼女の如く獨創の見を有し奇拔な批評眼を具へ、つむじ曲な趣味に生きたと云ふことが何うして吾々をほほ笑ませずにゐる樣。彼女は山紫水明を誇りとする小なる平安の女ではなくて生粹な江戸ッ子の樣に氣が利いてゐる。勝氣である。直截である。不覊である。そして現代人の樣に孤獨味を理解してゐる。それだけ彼女は强い女である。こぼさぬ女である。自己のために生きた女である。若彼女をして今の世に生れ出でしめ今の組織立つた新しい知識を吸收せしめたならば何んな生き方をしたゞろうか。老さらぼけた尼法師になつてからも猶若殿原を對手に取つて「駿馬の骨を買ふものあるを知らずや」と罵つてゐる意氣な盛さよ。自尊心の美しさよ。私は下らない女友達の話に傾ける耳を唯一人の彼女の言葉に向ける方がいくら面白いことだろう。世間の人達は勿論彼女の性格について噂さをする。けれど丁度現代の淺薄な批評が新しい女と云ふものに投げられる樣に彼女に對しても極めて外廓的な空莫な概念を抱いてゐる人が多くはなかろうかと考へると私は彼女のために悲しまさるを得ない。惜まざるを得ない。しかしそは彼女の文章が余りに澁く余り洒落に過ぎてゐる罪が釀した結果ではあるまいか。近づかむとして近づくことの出來ないそれ等多くの童蒙に對して私は私の訥辯をもかへりみず通譯の勞を取つて面白い彼女の性格を普く世に知らしめ度いと云ふ熱が遂に私の奚嚢を拔かせて了つた。

さても彼女のあの技巧を傳へることは出來ない。切めて讀者の豐富な想像力に待つて拙劣な此通譯を透して迸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に新鮮な遙に奇拔な遙に面白いそして永遠に若々しい一人の女と其背後に大きくかざされてゐる畏きあたりの御片影なども彷彿させることが出來たならば私は滿足をせればなるまい――大崎の寓居にて

「色々の題目の下にかかれてある原文から無闇に斷片的に引拔いて來たから或は讀者に取つて意味の徹底し難い嫌があるかもしれないのを恐れてゐる」

＊　＊　＊　＊　＊

……庚申の御愼があるので內大臣殿伊因公は何かと準備を整へられた。夜中も過ぎる頃女房達に歌の題を出されると一時に氣色立つてさゞめき出したがひとり宮の御前近く侍つて色に啓し上げたりほか事ばかり云つてをると大臣が御覽になつて

なぜ歌を詠まないでそんなに離れてゐますか。題をお取りなさい

と被仰るから

ある令旨を蒙つてもう歌はよまなくなりました

と云ふと

妙なことですね。眞實で御座いますか。なぜそんなことをお許しになりましたか、怪しからぬことです。宜しい他の時は知らず今夜だけはお詠みなさい

と强いてお責めになるけれどさつぱり耳にも入れないでをるとみんなが詠み合つて巧拙を評定したりしてをる間に小さいお文を賜はつた。あけて見ると

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

元輔が後と云はるゝ君しもや今宵の歌にはづれてはをる

とあるのを拜してをかしくて堪らない。餘り笑ふものだから大臣も

何だ何だ

と被仰る

その人の後と云はれぬ身なりせば今宵の歌はまづぞよままし

つつしみの心さへなかつたならば千首も萬首もこなたからこそ詠みませうなんか啓した。

宮の御兄弟や殿上人達大勢御前に侍つてをられるのでづいと座をはづして廂の間の柱によりかかつて女房たちと話し合つてをると不意に何だかお投げ下すつた。あけて見ると

思ふか何うか第一でなかつたらば！

とあつた。と云ふのは日比御前での話の序に

すべて人には第一に思はれなければ何にならう。むしろひどく憎まれるか惡く思はれた方がいい。第二第三流なんかなら死んだ方がましだ

なんか云ふと

法華經ですね

とみんなが笑つたことが有つたものだからだらう。筆紙を賜つたから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

九品蓮臺の中には下品と云ふとも（極樂に九等あると觀無量壽經にあり）

とかいて差上げると

餘り卑下し過ぎた。非常によくない。云ひ出したことは枉げてはいけない。

と仰せになつたから

對手次第で

と申上げると

それがいけないのだよ。第一流の人に第一流に思はれなければなんか御詮のあるも嬉しい。

憮の男なんか夫に持つて早くから老込で似非幸を見せられてをる人達は窮窟らしくて馬鹿々々しく思はれる。やつぱり相當の家の娘などは宮中にも出して世間の複雜な空氣も吸はせそして暫くは內侍などにもさせてやり度いと思はれる。宮仕する人を輕佻な好ましからぬ者に思つてをる頑固な男こそ眞に憎い。しかしそれとて理窟のないことではない。申すも畏い陛下を始め奉つて上達部殿上人四位五位六位、女房同志は勿論誰一人見知らぬ者は無からう。女房などの召使里の人に女中頭下働以下石つころの様な者に至るまで何時さし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て愧ぢかくれてゐられやう。殿原などには左樣でもあるまいけれどそれさて宮仕してをる間はかくれてをるわけにも行かぬ。奥方として かしづき据ゑても奥床しく思へないのも道理であるけれど掌侍だなんか云つて時々は參內もし又は祭のお使者に立つたりするのも面目ではなからうか。こんなにしてゐて後に家庭を持つのは一番いゝ。地方官などになつて五節の舞姬を出したりする折にも宮仕したことの有る夫人であれば田舍びもせず見知らぬ人に物きく樣なこともなくて何しろ氣が利いてゐていいものである。

物羨みし我身の上を悲觀し人の上を是非し何でもないことを知りたがり聞きたがつて「知りませぬ」と云はれると怨だりそしつたり又ほんの僅にきき付けたことを疾つくから知つてゐた顏に他の人々に繰りかへし一つことを吹聽する憎らしいつたらない。

話なんかする時に自分一人出しやばつて話の腰を横領する。子供も大人もすべて差出口には憎らしい。昔話などしてをると中には自分の知つた話になるとつい出て來てそんな古臭いことなんか邇がる。餘計なお世話だ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一寸遊びに來た子供を可愛がつて好いものを遣ると馴れつこになつて何時ものべつに來つ切りにして道具と云はす書物と云はず。家中散してあばれまはる。憎い。

曉に歸る男が昨夜投げやつてをいた扇や懷紙を暗いものだから探りまはつてバタリ叩いて變だね なんか言ひ云ひ見付出してがさ〳〵と懷に入れて扇をひろげてふた〳〵煽いて暇乞をする！憎いなんかじや追付かない。何て面白くない男だらう！

同じくまだ夜深にかへる人が烏帽子の緒を確つかり固める。そんなにせなくつたつていいじやないか。紐も緒も其儘押入れて行つたとて誰が咎めるものが有らうぞ。直衣や狩衣がしごけなからうと曲つてゐ樣と誰が見てゐて笑つたり誹つたりするものか。…………しやあ〳〵と飛起きてそこいら中バタ〳〵と騷ぎ立てて指貫の腰紐なんかピンと引結び上衣狩衣あまつさへ袖口をまくり上げて扇子疊紙は懷に。帶も確つかりしめたりする。色消しだ！

髮を洗つて化粧をして香を燻きしめた好きな着物をきた時は特に見る人もない獨居にも猶心の中はほゝ笑まれる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

職の御曹子（皇宮の御座所）の西面の格子のかげで頭の辨（藤原行成當時藏人頭兼權左中辨）が女房を對手に久しい間立話をして被居るので首を出して

その方はどなた？

と聞くと

辨の內侍

と被仰る。

何うしてそんなに話して被居いますの！

今にも大辨殿がお見えにならうものなら早速打捨つといてお逃げになりますよ

と云ふとひどくお笑ひになつて

誰れがそんなことまで聞かせたのだらう。

今もとて逃がすまいときめ附けてをるのですよ。

と被仰る。際立つて天才めかしたこともなくいつも卒直な態度を大抵の人たちは皆月並に解してをつたが否！非凡な傑物だ！と云ふことを看破したから其旨を宮に啓し上げると宮

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にも兼てそれを御見拔遊ばしてゐたので頭辯も

「女は己を悅ぶもののために容づくり士は己を知る者のために死す」と云ふぢやありませんか

なんか被仰つた。「とほたあふみの濱柳だ」（霰ふりとほたあふみのあとかは柳枯れども又も生ふてふあとかは柳―萬葉旋頭歌）などと互に云ひかはしてをると若い女房たちはたゞ一途に二人の仲をそねみ憎で見苦しいことまで露骨に云ふ。

頭の辨つたらつまらない人ですよ。他の君達の樣に誦經したり歌を詠じたりもせない。

ほんに好かない無骨漢だ！

なんか口々にそしる。君も亦八方美人にチヤホヤしない。そして

女つてものは眼は竪さまにつき眉は額に生え上つて鼻は横を向いてゐたつてもたゞ口付が愛嬌づいておとがひの下頸筋などの肉付のいい可愛いそして聲の美しい女が好ましい。とは云へハヤリ餘り全體として見苦しいのは感服しない。

なんど丶ばかり被仰るものだからおとがひが細くて愛嬌の乏しい人達は餘計憎で仇の樣に宮にさへ惡く啓し上げる。

何か宮へのお取次なんかも初めに賴みつけた其人を尋ねまはつて、局に下つてをる時は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

わざ／＼呼びよせたり、自分で來もして云つたり、里に居る時は、手紙、時には出かけていらして留守居のものに

若も愚圖々々していらしたら、私がそう云つて置いたからと云つて、早く急いで啓しに行かせるのだよ

なんかお吩咐けになる。

誰でも居るじや御座いませんか。

と云つても到底承知なさらない。

臨機應變に何ごともさばいて行つてこそよいでは御座いませんか

と助言するけれど

イヤもうこれは私の天性ですよ。改らないものは氣質です。

とばかり云つて耳を塞いで被居る。

じあ過あらば之を改むるに憚ること勿れと云ふのは何う云ふことなのでせうか（有過勿レ憚レ改—論語）

と詰問しかけると笑ひながら

仲好だと人からも云はれる。斯んなにお互に交際する上は何でそんなに恥かしい事が有りますか。もういい加減に顔をお見せなさいよ。（此頃は家族の者などでなければ簾、几帳などをへだてゝ對談した）

とお責めになる。

餘り醜いからですよ。そんな女は好かないと被仰つたから。

と云ふと

眞實。若も憎くなると大變だからそんなら見まい。

自然御殿などで行合つて顔を見合せる樣な時でもわざとお顔をかくして了つてほんとに御覧にならない。眞心から噓は被仰らないのだ！と思つてをると三月の下旬冬裝束が重苦しくなつたのだらう。袍だけに指貫を穿いたり又殿上の宿直姿のまゝのもある。朝日のさすまで式部のおもとと廂の間にねて居たら奥の遣戸から兩陛下お揃でお出まし遊ばしたので起きるにも起きられず惑ひふためくのを非常にお笑ひ遊ばす。唐衣を髮の上に引きかついて夜具もねまきも其まゝ押かためた上におすはり遊ばして陣から出入するものを御覧になる。殿上人が露知らないでそこ寄つて來て物を云ひかけたりするのを。

白ばくれてゐなきやいけないよ

とお笑ひ遊ばす。やがておかへり遊ばすときにさあ一緒に二人共

と仰せられたけれど

只今お化粧でもいたしましてから

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とお答へ申上げておいた。入御の後も猶めでたかつた事など話り合つてをると南の遣戸のそばに几帳の手がさし出てゐたのに支へて簾が少し持ち上つてゐた隙から黒い影法師が見えるから例ののりたかだらうと見やりもせず一生懸命に績を話してをるとすつかり相格をくづした顔がつと出た。

　のりたか？

と見遣るとあらぬ顔だつた。

　呆れた！

と笑ひ騒いで几帳を引立ててかくれ惑つたけれど頭辨でいらした。決してお目にかかるまいと思つたのに口惜しい。式部の君はこちら向だつたから顔も見られなかつた。這入つて來て

　すつかり穴の穿く程見ましたよ

のりたかかと思つて馬鹿にしてゐましたのに。なぜあんなに固く誓つてをきながらそんなに――！

と怨むと

　女は寝起の顔が一番いいと云ふことだからある人の局に行つて垣間見てまた若しやと……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思つてですよ。先き陛下のいらしてゐた頃からのぞいてゐたのに知らないでゐたのです
ね……
と云ひさま以來は局の簾をかづいて出入をなすつた。（夫婦などの親密さでなければ親子兄弟でも成人の後は簾はかつがぬものである）

默想
青木穠

月影に眠るやうな柳の下に、美しい錦魚を入れた水槽が並べてある。愛らしい子供の姿が其前へぽつと浮ぶ。そして子供を一心に見つめて居るのは、私であつた、けれども悲しい事には、子供の顔が見えない、聲をかけやうとして、はつとするとまぼろしが消えた。赤い錦魚ばかりが、水の中でひら〳〵と遊むでゐる。

あゝ、私はやつぱり愛らしい子供が、ほしいのであらうか。私には、わたしの仕事があるとほゝ笑むで、意義ある生活を續けてはゐるものゝ、こうした心のすきに喰い入つて、まぼろしにうかぶ小さいものゝ影は、まだ私にあたへられぬ物を、宇宙に求めてゐるのではあるまいか。

亡き親を供養する爲にもさめた、經卷の包をしつかり抱いて家へ急いた。

二人の影地上にながし春の夜も更けてはいとゞ淋しきものを
何やらむ忘れて來しよなさびしさをいだきて君と歸る我が家
錦魚の赤きすがたがしうれくもひら〳〵と目につきてねられぬ

（三、四月十日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やみのうち——望月れい

夜深くひさりさむれば
そことなく無邊にゆらぐやみのうち
ほど遠き火事のしらせの
半鐘のひゞきぞつたふ

また今も銀色のつさをやぶりつ
ましろなる葩裂けて
たばねたるしべもあらはに
咲き行くやねや近き花のをり枝

夜深くひさりさむれば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そことなく無邊にゆらぐやみのうち。

雨の小路

雨ほそくなかぞらにひかりつゝ
乳色のくもりがらすに灯のともる
ぬかるみもほのかにひかり
青ぬりのはこぐてまかけり行く細き小路に
かさかたげ歩みゆきつゝ
ふかぐ\と呼吸をつきけり

歔欷

沈丁の花のかをりにつまされて
うんじ顏なる君がまへ

片手まかせてそのまゝに
あく事しらずすゝりなく。

ふたつのかげ（ふるき作のうちより）

しづかに君がかたの上に
かうべをよせむ心なり
ふきみづのあらゝかにうつにまじりて
鵜鳥のさけびひとしきりうすやみに遠くさわたる
くちづけにやゝあきたりて
ならびつゝものを思へば。

沈默のまへに

ほこりがにうたひちらしゝはづかしさ。………
たゞくちをつぐまゝし。

田村俊子氏の『烙炮の刑』の龍子に就いて

――らいてう

自分は讀書の速力が大變遲いから毎月毎月發表される可成り數ある作品も大半は讀まず仕舞ひになつてゐる。けれど田村氏のものは比較的多く讀んで來た。併しどちらからと云へば氏の作品は自分とあまり肌が合はない。あのいかにも纎細な感覺的叙述や、委し過ぎる官能的描寫が後から〳〵繰返し〳〵追つかけてくる煩はしさに堪へられない。最初の四五頁は少くとも努力がいる。さうしてゐる中にいつか氏の細部に行き渡つた苦心の跡なども目に見えてくる。そして何だか感心しちまつたやうな一種の緊張をもつて讀み終へる。さて讀み終つて考へて見るとそれほどの何ものも心に殘つてゐない。作全體として內的に統一されたどつしりとして動かぬ或ものの響がちつとも心に迫つて來ない。だから大人氣もなく細い描寫の線にうま〳〵だまされて、さんざ引つ張り廻されたといふやうな腹立たしさが何處かに起る。とはいへ都會人として、殊に女性として生得の精錬された感覺を有し又氏自からも之れを自覺して男子の書いた人生に囚はれることなく、そこに氏自身の藝術

境を自から開拓されたことは今日の女流文壇に於ては殊に尊敬すべきは云ふ迄もない。

氏の近作『炮烙の刑』は作のよしあしは暫くおいて同氏近來の苦心の作だといふことは疑ひない。他の若い男を愛した龍子といふ有夫の女とその夫との間の爭ひを描かうとして思ひ上つてゐる作者の態度が明に思ひやられる。そして私も亦思ひ上つた氣分で始めから終りまで殆ど一氣に讀み終つた。あまりやつきとなつた爲めか作者自身も龍子と共にあの事件に對する意識的な心の眼や、內省の餘裕を失ひ、生々しい事件を生々しいまゝに只讀者の眼の前にぶつけて行つた處に却つて外面的ではあるがあの作の人を動かす力があるのかも知れない。けれど又それと同時に作者の作中の人物に對する內省の不足から時として飛び出す恐ろしく空疎な文句が折角讀者の頭の中に出來た幻影を忽ち破壞し去るやうな場合も少くない。

けれど氏の作品を作品として評することは他の人に讓りたい、又それがこの稿の目的でもないから。

私は『龍子』といふ一女性のことを早く云はう。

龍子は自分のしたことは罪惡ではないと云ひ張つた。そしてその理由とする處は只これ

丈だ。あの男を愛するのも、慶次を愛するのもそれは自分の意志だから何もあの男を愛したからつてそれを慶次に詫びる必要はないといふこと、今一つはたとへそれが罪惡だとしても自分はどんな時でも、誰れよりも慶次を愛してゐた、それはたゞ一つの自分の眞實だといふことゝである。

慶次は女のしたことは大なる罪惡だと云ひ張つてゐる。けれどその理由とする處は何ものもない。只男を有つた女が他の男を愛するのは罪惡だといふほんの外面的な通俗道德を其儘自分の道德としてゐる迄で、自分自身の何ものも有つてゐない。あるものは、そして眞實なものは女に對する烈しい嫉妬と憎惡と憤怒の情である。この情が御手近の、あり合せな道德を楯にとつて女に對させた迄だ。

自己を僞るに慣れた、そして虐げられた在來の女だつたらこの際おとなしく通俗道德の審判に盲從して男のいふまゝに男の前で男に詫びる處だけれど龍子はさうはしなかつた。

この點は一寸見ると多少なり本當に生きやうとする新婦人の態度を忍ばせるけれど龍子は決してさういふ婦人ではない。さういふ立場から見るとき非常な物足りなさを感じる。

それはあの二つの理由を調べて見ればすぐ分る。第一の理由も只字面丈で見ると一應尤なやうだが、あの文字の中に盛られた内容がどれ丈あるか、隨分不徹底な遁辭で、自分の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

したことは自分のしたことだ、お前の知つたことぢやない、といつたやうな捨臺詞以上の内容あるものとも思へない。第二の『あなたを愛してゐる』といふことも只これ丈では他の男を愛することの是認とはならない、どころかとりやうによつては却つて罪を重くするものだ。私は龍子の『あなたを愛してゐる』といふ言葉を決して慶次に對する虚僞な申譯だとも氣やすめだとも思はない。一見矛盾してゐるやうだが、龍子の慶次に對する愛は彼女自身がいふ通り眞實なものだつたに相違ない。女がふたりの男を（こゝに一方が年上で一方が年下といふやうな場合）同時に可成り深く愛するやうになるのはあり得べきことだらう。そしてそれは時として女の複雜な戀愛的要求から出た自然なもので、人格的に何の矛盾も感じない場合もあり得べきことだらう。そして若しかういふ場合、一方の男によつて滿される戀愛的要求と他の一方の男によつて滿される戀愛的要求とは全然性質のことなるものである場合、しかも一方の男丈では到底自分の戀愛的要求の全部を滿すことが不可能だといふ場合は（これは不幸なことには違ひないが）二人の男を同時に愛することが外面的にはともあれ内面的道徳の立場から見れば罪惡だとは決して言へない。しかも道徳は法律とは違ふのだから本來から言へば内面的なものでなければならないのはいふ迄もないことだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

龍子のしたことを是認し得るのはこの場合丈であらう。

作者は宏三とは肉の關係がないことを斷つた丈で、宏三を愛するに至つた女の心持が描いてないから何とも斷定することは出來ないにしても慶次が女に對して理解のない無智な男だといふ處からも、龍子に子がないといふことからも、又宏三が初心な若い美しい男だといふことからも龍子の行爲は今言つた場合のやうに只の『いたづら』として言ひ去るべきものではなく、もつと女の深い根本的な、要求から出たものとも考へられなくもないのだけれど、龍子自身は少しもさうした自分の行爲に對する自覺を有たない。（作者も龍子の行爲の深い内面的な觀察をしてない。）

だから龍子は自分に對しても、男に對しても自分の行爲を立派にジャスティフアイし得る丈の正當な理由を發見しえない。それだのに、内的に左程の苦悶も葛藤もなしにゐられるのは不思議な位だ。この點で龍子には殆ど眞の自我がないやうにも疑はれる。と同時にこれが又何の據り處もない癖に、負けん氣の女の狹い、つまらぬ意地から我儘を押通さうとするものゝやうにも見えて、女に對する深い同情が起らない點でもある。そして又兩方にまだ十分の愛がありながら、未練がありながら、ふたりの間にあんな烈しい爭をし、女は愛してゐる男にさん／＼罵倒された揚句殺されるより外ないといふやうな深酷、悲痛

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なるべき筈のことでありながら、それが深酷にも悲痛にも感じられない所以でもあらうか。

男の女に對する無理解が――烈しい嫉妬や憤りのあまり女を罵しつたり、足蹴にしたり、女が自分に對する愛を語つた時も淫婦の戯言として少しもとりあげなかつた――男に對する女の愛を忽ち烈しい憎惡と敵意の情に變じさせ、その一時の反撥的情熱があゝまでも男に對して反抗的な態度をとるやうにさせたといふことはよく分つてゐる。根の弱い女が、美を好み醜を惡むことの甚しい女が、又小さな自尊心をもつ女があゝいふことに出遇つて遂にあんな外側ばかり強さうな、慘めな態度をとるやうになるのは隨分ありさうなことだけれど、そしてこの點に――女に對する智識をあまりに欠いてゐるといふ點に男に大きな罪があることを特筆せねばならぬけれど、要するに自分が見えてゐないからだ。しかも反抗的感情に心の全部を囚へられたため益々ほんとうの自分を見ることが出來ないやうにしたのは殘念だ。そして最後迄男の無智と嫉妬と女の小さな片意地のために兩者の間に何の理解も開けず、事件そのものゝ根底に横はる深い問題にも觸れずに仕舞つたのは實に殘念だ。

慶次と共に女に對する理解を缺いてゐる森田草平氏は女が自分の行爲を罪惡ではないと男の前に言ひ張つた一事をもつて直にモラルセンスの缺乏と取られたものらしい。そして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

墮落すればする程一方でモラルセンスが鋭くならねばならぬなどといふやうな意味のことを言つてゐられたが、或は草平氏は單純な意味で龍子が他の男を愛したといふことを直に墮落と見做してゐられるのだらうか。Nさんは草平氏の評を見て、モラルセンスを缺いた男が他人の作品をモラルセンスを缺く故をもつて非難したのはおかしいと言つて笑はれたけれど、私はそれとは別な意味で、隨分理解のない、皮相な外面的な見方だと思つた。氏のいふところの道德とはどういふものをさすのだらう。龍子に向けた非難から考へるとそれは――たとへ斷り書きはあつたにしても矢張りたゞ因襲的な外面道德らしい。

私は龍子が他の男を愛したから墮落したものだとは云はない。又他の男を愛したことを罪惡だと認めなかつたからモラルセンスがないとは云はない。それよりも非難に價する重大なことはもつと根本的な處にあると思ふ。それは龍子が自分の行爲に對する明かな自覺をもたなかつたことだ。龍子は他の男を愛したことをたゞ自分のいたづらとした。そして廢治に對して飽く迄も反抗しながら、一方では『一人に心を惹かれながら一人にも心を殘してゐたといふ事は、一人を欺き、一人を弄んだ事になつた。それが私の心を責める。私は何方へ對しても惡いことをした。さうして私は自分のいたづらを惱んだ』などゝいふやうな無自覺な、不徹底な價値なき煩悶以上に出られなかつた處に寧ろ龍子の自己に對する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大きな罪惡があると思ふ。

彼女にはまだ眞の自我が確立しない。だから衝動に根がない。衝動が自我から出て自我にかへられない。だから底力がない。あてにならない。彼女の罪惡はそこにある。自覺的でないところにある。自覺なるものゝ行動は相手の態度一つで忽ちに激變する。龍子の動亂はいかに烈しかつたにせよ、彼女の自我が確立してゐない以上それは彼女の生活に何の足跡もとゞめないであらう。

作者は最後に『自分の人生にさういふ奇蹟がおこるのだ――龍子はかう思ひながら空を見た。』と書き足してあるけれど私には何のことだか分らない。さういふ奇蹟とはどういふ奇蹟なのだらう。何だか少しおかしい。

色々言ひたいことがあつたのだけど書いてゐる中に途中ではぐらして仕舞つた。何か云はねばならぬことがまだあるやうな氣がしきりにするけれど出て來ない。これでやめる。

（大正三、五、一七）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニア・コヴァレフスキィの自傳——野上彌生子譯

第七章　田舍の樂しみ

パリビノのまわりの田舍は野趣に富んで、中央露西亞の何處よりも非常に繪畫的でありました。ヴィテプスク州は廣い松の森林と、美しい湖が幾つもあるのとで有名でありました。ヴルダイ山の支脈になつてゐますから、露西亞の大部分を成してゐる果てもない平野に比べると、峨々として丘陵の多いところでありました。岩は滅多にありませんが、平坦な田園や、六呎もある草に蔽はれてゐる澤のまん中にをり〱大きな花崗石の塊があつて見る人を喫驚させました。

パリビノは一つの森に接してゐるのでありますが、その森はだん〱深くなつて、終に數百哩もある素破らしい御料林と一緒になつてゐます。奥の方へ行くと、大膽な百姓が夜にまぎれて一寸した盗伐でもする時の外には、斧の音一つ聞えないのであります。

この森に就ては不思議な話が澤山ありました。勿論迷信がその中に妖精や山神や矮人などを住ませたのであります。盗人、强盗、脫走兵等の隱れ場になつてゐると云ふ噂も廣が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つてゐました。狼、熊、山猫のような野獸はもとより夥しいもので、大抵の百姓は、少くとも生涯に一度はそんなものを見たと云つて自慢することが出來ました。

パリビノにゐる間散歩と云へば夢中になるほど好きであつた英國人の女教師は、人々が怖がらせようと思つてして聞かした森の色んな話も初めは馬鹿にしてをりました。けれども或る秋の日、教へ子等と共に御料地から二哩ばかりも散歩してゐますと、樹の間にがさがさと云ふ物音がして、一頭の熊が二頭の子熊を連れてその道のずつと向ふを横ぎるのが目に入りました。それから後は非常に用心深くなつて、誰か召使と一緒でなければ決して森へは行きませんでした。

けれどもこの森はたゞ怖ろしい事や不思議な事があるばかりではありません。——有らゆる富を持つた無盡藏の倉庫でありました。其處には野兎、山鷄、鷓鴣といふような獵の物が夥しくありました。苺、黑苺、くろまめのき、蔓こけ、桃の如き木の實も幾種類となくありました。胡桃もどつさりありました。秋になると色んな蕈が喫驚するほど出ました。

ラゼフスキィ家では、夏になつて苺が熟れたり、秋の蕈時分になつたりすると、よく山遊びをいたしました。こんな遠足には大變な支度が要りました。みんな前の晚に整へて置かなければならないのであります。夜の明け方に二三臺の二輪馬車(テレガ)は表玄關の前に立ちま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。家ぢゆ大騒ぎで、お辨當だのサモヴァルだの、コップだの、空の瓶だの、卓を入れる籠だのと運ぶ召使ひ達と一緒になつて子供が駈け廻るし、犬共は又それを吠え立てて殆んど皆んなの目を廻はさせました。

やつと萬事の用意が整ひました。女敎師と先生と、三人の子供と大勢の召使達を合せた一隊は馬車に乘つて出掛けました。

先づ一番には御料地から六哩ほどある獵番の家で休むことになつてゐました。馬車は森の中のぬかるみ道をのろ〳〵搖れて行きました。何處を見ても目に入るものは悉く樅の樹ばかりで、暗い褐色の幹がすく〳〵と陰鬱に聳えてゐます。たゞ道ばたに狹い列をなした灌木や、榛の木や、接骨木などがありました。秋の色に染まつた、赤い震えるようなはこ柳や、美しい朱色の實をつけて繪のようなな〻か〻まどが其處此處にありました。突然一つの馬車から叫び聲が聞えます。馭者の帽子が露に濡れた白樺の枝の道の上に垂れてゐたのにひつかゝつたのでありました。その男がそれを取らうとすると、誰かゞ枝をゆすぶりました。それと共に芳ばしい露の俄雨が馬車の中の皆んなに降りかゝつたので笑ふやら洒落るやらの騒ぎになつたのでありました。

いよ〳〵馬車は獵番の小屋に留まりました。それは屋根を板葺きにした、白人露西亞の

多くの田舍家よりはずつと小綺麗で、住み心地のよさそうな家でありました。小さい牧場の中に立つてゐますので――近在の百姓としては珍らしく贅澤な事には小さい花園に取廻されてゐるのであります。赤い罌粟も幾何か見えるし、キャベツの中にはちつと計りの黄色い向日葵もありました。林檎の樹も少しあつて、美しい赤い林檎で蔽はれてゐました。これは主人が自分で植ゑたのですから、別して自慢のものでありました。

獵番はもう六十で、長い鬚がまつ白でありましたが、眞面目な品のよい顔をして、丈夫らしく見えました。彼は村の大抵の人よりかもずつと背も高く元氣でありました。顔にはまわりの森の威嚴ある靜けさを映してゐました。

子供達は皆んなそれ〴〵あり附いてゐました。娘達は嫁入つたし、息子達は職人で一本立ちになつてゐました。今は女房と、ずつと年寄つてから預かつたのを養子にした男の子と淋しく住んでゐるのであります。

女房はお客樣を見るとサモヴァルを火にかけました。而して老夫婦は門までお出迎へをして恭々しくお辭儀をしながら、人々を招じ入れてお茶をすゝめました。家はさつぱりして小綺麗にしてゐましたが、風通しの惡い部屋で、香とランプの油のいやな匂ひがしました。冬寒いので窓が小さい上に、それが又、閉めきつてありました。息も出來ない程であ

りますが、部屋の中には色んな面白い物があるので、子供達は直ぐとそんな故障は我慢して物珍らしげにあたりを見廻し始めました。土間には樅の枝が散らかつてゐて、腰掛は壁際に置いてありました。翼を剪られた一羽のジヤックドー（鴉の一種）は、黒い猫がゐるのにも頓着なしにそこらを飛び廻つてをりました。その猫は後足で顔を洗ひながらわざとそ知らぬ風に細眼でその侵入者たちを眺めてゐるのであります。一方の隅には大きな木の机に白い縫取りした切れがかゝつて、上には一つの聖像と、古つぽけた下手な書を納めた額が懸つてをりました。

獵番はラスコルニック（非國教徒）だと云ふことでありますから、そのためにこの家が斯う小綺麗に住み心地よくなつてゐたものと見えます。誰も知つてゐる通りラスコルニックの者は決して料理屋などに足を踏み入れず、その家庭を清潔にして、清浄な生涯を送るのであります。彼はまたイスプラヴニック（警官）や僧侶達へ自分の宗教に干渉して、教區の教會に強ゐて行かせたり、非國教の禮拜をかれこれ云つたりして呉れないようにと、莫大なつけ届けをすると云ふことであります。彼は正教派の人の家では決して何にも食べようとしませんでした。自分の家でも正教派のお客様に出す御馳走は特別のお皿があつてそれに盛るのでありました。どんな自分のお客様にも決して自分の使ふコップやお皿は進めま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せんでした。子供達は彼等の所謂『ヤコブ叔父さん』が自分達を汚いと思ふのか知らと不思議に思ひましたが、まさかそんな事を聞いて見もしませんでした。子供達はヤコブ叔父さんが大好きで、その人のところへ行くのはどれ程樂しみだか知れないのであります。時々パリピノへ來る時にはいつも何か知らお土產を持つて來て吳れてゐましたが、それは子供達の凡ての金目な玩弄物以上にみんなの氣に入りました。いつか若い角鹿を持つて來て吳れましたから、子供達は長い間お庭の柵の中に入て置きました。けれどもどうしてもすつかりは馴れませんでした。

大きな銅のサモヴァルが食卓の上に湯氣を立てゝゐると、色々な風變りな御馳走が並べられました。大層匂のついた酢乳だの、罌粟ジャムをつけた煎餅だの、蜂蜜で和へた胡瓜だので、子供達が何處でも食べた事のないおいしい物でありました。主人はお客様丈けに食べさして自分は何んにもお相伴をしませんでした。而して先生と眞面目な話をしてゐました。ヤコブ叔父さんは子供達には分らないような田舍言葉を使ひましたが、それでも子供達はその話を聞くのが好きでありました。而してその森の事や獸の事を何んでも知つてゐるのに感心いたしました。彼には獸の生活や習慣まで分つてゐるようでありました。

もうかれこれ朝の六時でありましたから、その日の仕事に取りかゝらなければなりませ

んでした。それで一行の人々は時々自分のありかの合圖をしながら森の各方面へ散つて行きました。

三時に二度目の休憩があります。馬共が草を食んでゐる牧場に馭者は火を燃やしました。一人の召使は近くの小川から水を汲みました。草の上に敷物を布いて、それで食事の支度が出來たのであります。その日は主人と召使の間の隔ても取れたようで、誰も彼も何か知ら話をしたり、自分の手柄を見せたりいたしました。

食事がすむと又引き續いて渉りましたが、前ほどの熱心はありませんでした。ターニャは終日一生懸命でやつたのでおしまひには松茸などはどうでもよくなつて仕舞つて、美しい景色ばかり賞でゝゐました。太陽は沈みかけて、斜の光線が裸の幹の上に黃金の色彩を投げました。小さい湖は呪文に封じられでもしたように怪しいほど靜かでありました。その水は表面にたゞ一つきら〳〵した赤い點がある丈けで殆んどまつ黑でありました。

さあ歸り路になりました。一行はごつちやになつて馬車に乘りました。その日は一日めい〳〵自分の事ばかりに夢中になつゐた爲めに誰ゝ他の人なぞにはよく氣もつけなかつたのでありました。けれども今自分達の樣子を見ると皆んな大笑ひになりました。顏でも髮毛でも着物でも滅茶苦茶になつてゐます。取り分け頭飾りは最奇抜でありました。一人の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

娘がそのまつ黒なこんがらかつた髮毛の中に、なゝかまどの實の大きな束をつけてゐるかと見ると、も一人の娘は手作りの羊齒のヘルメットを冠つてゐるし、三番目の娘は杖の先に大きな赤い菌をくつけて洋傘のように持つてゐました。ターニャは野生(ワイルド)の忽布(ホツプ)の長い蔓を頭に卷きつけて、その黃ばんだ綠葉を褐色の髮毛に絡らませながら小さいバッカス信徒のようでありました。頰は紅くなつて眼は輝いてゐました。その弟は彼女をジプシーの女王樣だと呼びました。

けれども皆んな草臥れてゐたので歸りはずつと靜かでありました。でもターニャはその夜は中々眠られなくて長い間起きてをりました。

御料地の一方には森と向ひ合ひになつて花園がありました。それが一つの湖へだら〳〵下りになつてゐて、向には綠色した野や牧場が見えました。此處彼處に哀れな小さい村々があたりの綠色の中から覗いてゐました。――その草葺きの家々は人間の住家と云ふよりは野獸の穴のようでありました。

ヴィテブスク州は小露西亞では帶程(ほど)の黑土でありますから、大した產物は何にもありませんでした。白人露西亞の百姓は貧乏で有名なのであります。ニコラス皇帝は白人露西亞を文(もん)なし美人、タムボッフ州を金持ちの女商人と呼んでゐました。

バツビノはこの寂れた田舍のまん中に、厚い石壁や風變りな外國式の建築や、薔薇の緣を取つた露臺や、大きな溫室や橙畑などで目覺しい對照を作りながら立つてゐるのであります。

夏でも非常に靜かな淋しい所でありますが、冬は全く死んだようであります。有らゆる物が雪に蔽はれて仕舞ひます。窓から目に入るものはたゞ果てもない白い原ばかりであります。幾時間でも生物と云つては何一つその道に現はれる事はありません。たゞ時々橇が皮ばかりの古馬にのろ〳〵と曳かれて行く丈けでありました。

夜になると狼が御料地のすぐ側まで來ることがよくありました。ターニヤはある美しい冬の夜のことを覺えてゐます。息も止まるほどの非道い寒さでありました。月はありませんでしたが、雪と大きな光る星が無數にあるので明るくなつてゐました。家族の人々は廣い應接室に集まつてゐました。お茶を飮んでゐたのであります。子供達もまだ臥せつてゐませんでした。お母樣はピヤノを彈いてゐますし、お父樣は煙草を吹かしながら獨りかるたを弄んでゐますと從者のイリヤが入口に顏を出しました。

『何んだ。』イヷァン・セルゲゼエヷィチが尋ねました。

『狼共が湖の側へ集つて參りました。あの吠えるのをお聞きになり度いかと存じまして。』

子供達は非常に氣が立つて來ました。お許しが出てその從者と一緒に露臺へ出て見ました。

初めは暫くの間たゞ森としてゐました。でも遂に一つの長い震えるような吠え聲が聞えました。すると直きに他の聲々が答へて、不思議な合唱が初まりました。その悲しさと陰鬱さとは、聞く人を滅入り込ませるようでありました。犬のボルカさへ非道く不快な氣持をして、後足の中に尻つぽを引つ込ませるから、ぴつたり子供達にくつ附いてゐました、皆んな身がぞつとするようなので、また大急ぎで暖かい樂しい部屋へ歸りました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社詠草

原田琴

紅かりき春の花みな紅かりきわれらの戀も紅かりしのみ

とこしへにめでたかれとは祈らずも玉は玉にあらましものを

花がちる夕の月のうす白に君が情にあとさきもなく

うきことの一つ二つにいちはやく戀を定めて別れたりけり

かにかくにわれはわれにてありぬべしものずきに咲く紫の藤

かばかりも賴もし人におはしけりこゝあきらかに戀の後見る

戀なくて生きがたしなど大らかに見えたる日こそあやふかりけれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

岩淵百合

狂へ狂へ想ふがまゝにくるひなばこのくるしさも心よからめ

魔のごとくわがまぼろしを掠奪ひしは闇を叩けるきちがひの風

すさまじき響のなかの櫻草闇のあかりにぬれて艶めく

風吹けば濤も狂ひてすさましくほぐらき寝室(ねや)は船底に似る

にくき幻影うつくしきかげ悉く君にかかはる君にかかはる

闇黑のなかに叫べる風よりもなほ狂ほしき戀心かな

かぎりなき哀寂(かなしみ)に生く天地の運命(さだめ)にすがりわれは生きゆく

想ふことわれに想應(ふさ)はすされとなほ想ひめぐらす此世悲しも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

矢澤孝

としつきをうたふことなきちゝ母のかたへにありて僞りなれき

かの窓にいまかよるらむわがこゝに君をおもへる姿見せしめ

卯月とは云へど夜寒をよりそひて知らぬ畠のなかをよぎりし

するどくも云ひはなちたるわが聲のあとより悔ゆる弱き性(さが)ゆゑ

夏くれば浴衣すがたのきみを見ることもひとつの樂にして

ふと刹那時計すゝむといつはりを云ふもわかれをかなしむがため

み言葉のみつふたつをばくりかへしあたゝかくゐぬ七日ののちも

山吹の出(で)ばなのいろをめづる父わがくろかみのつやを見るきみ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

友禪の長き袂に二つ三つ賽の河原の石拾ひけり

ひらひらと舞へる心地にのせられてあまりながくも風にまかせぬ

とこしへにかなしくてあれ世の戀のうきを集めてわが墓とせん

やすらひをなど求むべき大詰の後の秘めたる戀をわがせん

あさましさいづれをいはん戀人を早く忘ると別れて思ふと

眼の前に君見ゆるまでしらじらと戀のさめたる今日にもあるかな

うその世にうその戀をばいとなみぬかばかりのことさばかりのこと

誰となくいづことなしにさまよへるハモニカの音につれてをごるも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「惟然坊」を見て――哥津

（旅にある父への文の一つ）

この前にお手紙を書きましたのはまだ櫻のまつさかりに咲いてゐたじぶんでございました。今はもう散つて行つた花のにほひを思ひ出させるやうななまぬる風のふく晩春もすぎて、さつぱりとみれん氣のない、青い匂いをたゝへて夏らしい風がふくやうになりました。

ねえお父さん――もうこの夏でお父さんの旅もまる一年になることになるんでございますね。今度こそ十日ばかりの筈でお出かけになつたのが一月となり二月とのびやつぱりいつもの傳でとう／＼お長くなつて了いましたね。

あれはいつでしたか――まだあたしの幼い／＼時分でした。お父さんが仙臺の方へ旅にお出になつて、今度どころではなく、長い／＼間お留守になさつたことがありましたね。あの時、何だかもういつまでたつてもお父さんはあたし達のところへお歸りにならないんぢやないかといふやうな不安心な心持になつて、何につけなにかが悲しく心細く思はれて、夕方なんか遠くの方でなる蒸汽の笛なんかをきいては一人でめそ／＼泣いたりしたことがございましたつけ。――もう何年といふ間忘れてゐたその事をふいとこの間ある芝居を見て思ひ出したんでございますよ。

ねえお父さん――今考へて見ますとねあの時分あたしはほんとうに心細い、かうつきはなされたやうな心持でゐたんでございますね。あたしはそのじぶん何だかわからないなりに只かなしかつたんでございますね。お母さんにも、姉さんにもあたしの思つてゐた事はわからなかつたと見えまして、よく何にかにつけてはしく／＼するつて叱られたもんでございます。

その晩――芝居を見た晩――不意にあの時の氣持を思ひ出して、かうなつかしいやうな、嬉しいやうな色々な氣がいたしました。それから、よく考へて見ればずいぶんおかしなことですけど、今又旅にゐらつしやるお父さんのことが、やつぱりちいさかつたあの時のやうな心持で、思はれてならなかつたんでございます。あたしは御存じの通り意地張りであんまり見てゐる芝居にひきこまれて泣くやうなことはないのでございますけれど、どうもその芝居だけは、なんだか眼瞼に涙がにじんで來て困りました。

その芝居といふのは、お父さんもお好きなあの芭蕉のお弟子の惟然のことを書いた三幕物なので、「俳人惟然

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

坊」（沼波瓊音氏作）といふ外題て無名會の方がなすつたんでございます。

あたしがあの心持を思ひ出したのは中の幕で惟然が名古屋の市中で風羅會の念佛の調子にのつて大ぜいの子供達とおどり狂つてゐるところへ不意に娘のお露と逢つて「兩袖にたゞ何となく時雨かな」と云ひきつて泣きかなしむお露をふりすてゝ立ち去つて了ふといふところなのでございました。そこで何だか悲しかつたんでございます。——後になつて見ればおかしうござんすけど全くすつかりその時は情けなくなつちまつたのでございます。

その芝居は近頃にない——どつさりある新作ものの中でめだつて面白い芝居でございました。もうちいさい時の思ひ出しばなしはよして、お芝居のお話を書きませう。

さつき申上ました通りその芝居は三幕物なのでございます。第一幕は、姫路の宿屋若狭屋のはなれ座敷で、その主人と惟然との對話の間に惟然が自然にじかに對したいといふ心持から美しい妻も可愛いゝ子もふりすてて自由の天地を馳まわるやうになつた心持を云はしてをります。それから翁の話もします、それからその頃の俳諧師が賣薬の元祖爭ひのやうな悪口をお互ひに云いやつてゐるのを嘲つたり、縫つてもらつた新しい着物をきると又旅へ出て行きたくなつて出かけたり、そうかと思ふとやつぱり古い着物の方がいゝといつてとつてかへしたり、まあ惟然といふ人の人格を充分に見せた幕でございました。第二幕はさつき申上たやうな娘と逢ふつて、又めぐり逢つた娘に又別れて行くといふやうな——まあ見せばでございますね。そこに出てくる惟然は近世畸人傳にある三熊花顛の挿畫の通り、黒地に扇散らしの模様の女の着物をきて、子供と一緒に踊るのでございました。（こゝは長唄をつかふやうにお書きになつたのを無名會の都合とかで何にも入れずにいたしました。）しかしかへつて風羅念佛の囃子だけで踊つた方が、しぶい味が出て、居て面白いとあたしは思ひました。

三幕は娘のお露も、父の惟然が獨りを立てて、芭蕉の心にすがつてゐるやうに自分も獨りを立てゝ惟然の心にすがつて暮さうと心を決めて、尼になつて關へ庵をかまへてゐるところで、そう云ふ事を風のたよりにきいて可愛さにたまらなくなつて、娘のとこへもどつてまた惟然とが靜かな暮しをしてゐるところでございました。——そこでは惟然の娘に對する愛といふやうなことが可成深く出されてゐました。しかしそういふ心持が知らず〳〵の間に惟然の心には悪魔のやうに思はれてきて、やつぱり親子一つに暮してはゐられないやうな心持になつて來て、また笠一つ杖一本をもつて惟然は又旅へ出て行くといふ幕なのでございました。——丁度それは櫻のちる頃で、藪うぐひすがしきりに鳴く中をはれやかな笑ひ聲

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

をのこして惟然は娘に別れて行つて了ふのでございました。そこではもうお露は悲しみませんでした。――その幕がきれるとあたしも何だかほつと安心したやうな、いつの間にか悲しい心持も消えて了つたやうな、氣がしたのでございます。

ねえお父さん。――お父さんにほんさうにお見せしたい芝居でございましたよ。新作といふと氣にしては見に行つて、いつもたいがいはがつかりするのが御法になつてゐるあたしも、その晩は不平を云はずに歸つてまゐられました。

時間の都合とかで、方々といろ／＼會話なんかぬかしたところがあるんださうでございます。そのせいか第一幕のわりに、二幕、三幕とだん／＼つまつて行くやうで少し氣になりました。――後から脚本を讀みましたとき、ト書の注文とちがふやうなところもございました。まあこんなことは一例にすぎませんが、お露が惟然と逢ふところは、作者は畸人傳の繪そのまゝの姿と云つてをりますのに、お露の着付けがちがつてゐるのは、まあ／＼しかたがないとしても、帽子を（わざつとかもしれませんけど）つけてゐないのは少し變ぢやないかと思ふんでございます。と云つて時代がどうのこうのと云ふわけぢやないんですけど。それから第二幕の幕きれに、お露について出た下男が、ことさらに妙な顔のつくりをして正面をきつて見せるなんて、少しふざけてゐていやでございました。

惟然坊は東儀氏で、樂々とやつてのけました、樂すぎて調子にのりすぎてゐたくらいでございました。櫻子のお露も美しく、まあ、時々變にあつぼつたくなる科白ぐせをとがめなければ手一杯な出來でございませうか。

思はずもこんな生意氣な評なんかを書いて了いました。

ねえお父さん――惟然のやうに自分だけのことを考へてゐられる人は幸（しやはせ）でございますねえ。――お父さんも惟然におとらない程な幸な方だと、この頃あたしはつくづく思はれてならないのでございます。

（五月の十日夜）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最近の感想

らいてう

婦人の生活を重じない社會

今日の社會が婦人を理解しないこと、殊にこれから本當に生きやうと努力してゐる婦人を理解してゐないことは今更いふ迄もないことだけれど、あらゆる事物に對して相應の理解力ある男子でありながら特に婦人に對してばかり全く理解を欠くのは何故だらう。矢張り婦人は男子よりも劣等なものだ、婦人は男子の玩弄物に過ぎないと頭からきめてかゝる先入見が、無意識の間に男子を支配してゐるからである。かうまで婦人の人格を無視し、その思想にも生活にも何の尊敬も、眞面目な注意も、公平な考案も拂はないのは、そして婦人に關する男子の言說のかうまで無責任で、輕卒で、いたづらつけの多いのは、しかも却てそれを得意とし、そこに男性の低い、卑しい自己滿足さへ感じて、自から恥ずる處のないのは矢張り此處に根底があると思ふ。

これは婦人にとつてどれほど不幸なそして侮辱を感ずることか知れないのはいふ迄もないが、男子にとつても亦大きな不幸、損失だと云はればなるまい。何故なら人は「我」といふ絕對的生活に座しながらも、なほそこに、その中に「男女」といふ相對的生活をもどの道同時に所有するものなのだから。

○

性的問題は人生に於て——殊に婦人の生活に於て、眞面目に考へればならぬ根本的な、重要問題である。にも拘はらず社會は色々な複雜な心理から性的事件といふと不眞面目な、滑稽な、戯れの色調で包もうとする傾向がある。だから本當に生きやうとしてゐる婦人達の眞面目な戀愛事件が浮薄な、物好きな世間多くの若い男達の此の上ない興味の對象となるのに別段不思議はない。けれどその爲に——彼等のその場限りの淺墓な面白がりや、いたづらや——時としては嫉妬の爲めに虛構され、捏造される噂によつてそれらの婦人が、社會からどれ程の誤解や不信を受けたか——殊にその性的生活の方面に於ける誤解や不信はどれ程大きなものか。甚しきは婦人の解放といふことを只肉の解放とさへ解釋し、靑鞜社は肉の解放を主張するものとさへ眞面目に言ひもし、信じもしその故をもつて私共に攻擊の矢を放つ人もある。何て馬鹿々々しいことだらう。

○

社はもとよりだが、私一個の生活についてもこれ迄誤

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

り傳へられ、誤り信じられたことはどの位あるかしれない、そしてそれがこれ迄どの位、私達の仕事の邪魔だしたかしれない。社會、社會と私達は馬鹿にしてゐたけれど、そのために本當に私達が生きやうとして行く上にどの位、多くの無駄な骨折りをさせられたらう。だのに私はなぜ今迄これらの誤解や、誤傳や誤信を皆默過して來たのだらう。矢張り私の思想生活の根底に横はる悲觀的な、大きな諦めの上に立つた超然主義若しくは獨善主義的傾向が、さういふ態度を自然とらせたのだらうか。どうも自分にはこの傾向は幼少の頃から私の心の中に不思議な根を下してゐるものらしく思はれる。私の纖弱な疲れ易い體質からきてゐる自分にとつては可成り根本的なものらしく思はれる。

○

ひたすらに内を凝視することによつて最も高き處に押し上げられ、つき詰められた刹那・自己に神を見た私は爾後、更に熱心な自己の奉仕者であつた。自己の内的要求や、内的實驗の外、私を動かし得る根本的の力は何もなくなつた。私はなほもひたすらに内を凝視することによつて絶えざる緊張と感激に滿された生活を營みながらそこに自己安住の境土を造ることに全力を注いてゐた。だからたとひ他人が私の事を白いさいはうが黒いと云はうがそれは私自身の内生活には何の係りもないことゝして澄ましてゐられた。否少くとも是等の雜多の浸入によつて自己の不斷の純粹性を亂されることの不安、恐怖から私は久しい間、自己を守ることが殆ど習慣的になつてゐたのは事實だ。

○

ところが今日の私はもうさういふ態度を續けるに堪へなくなつてゐる。

○

最初私が物を書きだしたのは、只書きたい、書かずにはゐられないといふ單なる發想欲からで、それは全く自分のためだつた。

併し私が「青鞜」を發行するやうになり、毎月自分の書いたものを公にするやうになつてからは多少にしろ私の頭の中に他人といふものがはいつて來た。社會的な考察が心の何處かに動いて來た。

けれど何にせよ私は僅に自己に醒めた丈て、私の眼はまだ外に向つては全く開いてゐなかつた。

かうまで執拗に内にばかり向けられてゐた私の眼を多

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

少なり外に轉じさせるやうにしたのは矢張り私、又は私の周圍にゐる婦人や社に對する社會の無智、無理解だつた。自分達にとりては寧ろ意外な馬鹿々々しいといふより外ない俗衆や官憲の壓迫などだつた。私は暫く外に眼を向けて見た。見れば見る程彼等が私達のほんとうの生活を知らないのを、そして私達の生活を重んじてくれないのに驚くより外なかつた。そしてそれが直接又は間接に私達のほんとうに生きやうとしてゐる道の上に幾多のくだらぬ障碍物を置いてゐることに、そして私達の仕事の無意味な邪魔をしてゐることに驚くより外はなかつた。

私はいつまでもだまつてゐられなくなつた。

○

これ迄のやうに只直接自分の爲ばかりではなく、全く他人の爲めに、他人を相手とし、他人の思想の誤りを正さむがために、他人に自分を正しく理解させむがために又自己の思想を他人の心に移植せむがために、社會が一般婦人といふものに對する誤つた先入觀念を打破せむがために筆を執ることも屢々あるやうになつた。

かうして私はいつか自分の書いたものゝ、自分の思想の社會的効果を氣にするものとなつてゐた。だから又私は自分の實生活が無責任な人達によつて甚しく誤り傳へられた結果、私の發表する思想や主張までが、兩者の間に甚しい矛盾があるやうに思ひなされるところから、私の思想や主張其ものゝ價値の上に、同時に本當に生きやうとしてゐる婦人達の上に不信を置かうとするやうになつた場合私は以前のやうに默過してはゐられなくなつた。

私はもう良心のないものの、又理解のないものの、不眞面目な、無責任な一時の興味や好奇心の犧牲となつて、自分の思想の社會的効果を減殺するやうなことはさせたくない。

私がこの間、無責任な時事新聞記者の捏造になる『平塚明子女史遂に母となる』の記事をこと〲しく取り上げて記者の責任を問つたのもかういふ心持からだ。

○

今更いふ迄もないが婦人が姙娠し、そして母となるといふことは婦人の生涯に於て出遇ふ重大な經驗で、又婦人に限られた特權であらう。そしてこの重大な經驗は婦人の內外生活に直接大きな影響を及ぼすのはもとよりだが、ひいてその思想の上にも新生面を開展すべきものだと思ふ。ところが私はまだそんな經驗をもち得ない、のみならず今の私にはまだ母たり得る丈十分な內的準備(母たらむとする內的要求の充實をいふ)さへ出來てゐないやうに思はれる。私に於て過去も又現在も自己を導くものは自己の內的要求である。私の思想は矢張り自己の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

内的要求に基いた内的經驗の直接間接なる告白である。だから自分の内的要求が未だ充實せず、自分の内部生活がまだ經驗もし得ないことを先だつて噂のみ傳へられることは今後自分の思想を發表して行く上にも少なからず迷惑を感ずる。のみならずかういふ婦人の生活にとつて重大な事件を自分達の惡戯から、又は讀者の物好きな心に投せむがために虛構した記者の態度は偶々今日の社會が婦人の生活などどれ程不眞面目に、無責任に考へてゐるかを證據立ててゐる一例だ。

○

餘計なことのやうだが、早合點する人の多い世の中だから、誤解を恐れて私はなほ一言附け加へておく。といふのは私が上のやうなことを言ふと、すぐ單に子供を産むことを、そして母たることを絶對に否定するものとばかり斷定を下したがる人が多いから。（現に私が青鞜二月號に於て兩親に送つた手紙を發表し、その中で『子供』に對する私の母親の杞憂に答へて、將來の自分の性的生活はどういふ風に進むかそれは今の自分には分らない、けれど今のところ自分の中には母になりたいといふほんとうの欲求そのものが第一明に認められない。」又今一つは目下の自分の生活は精神的にも物質的にも子供を造り、そしてそれを安全に發育し得る丈の餘裕がない、だから今自分は造らうと思はぬといふ意味のことを言つた。すると新しい女は女でありながら子を産むことを避けるものだなと言ふものが幾人もあつた）

私は決して母たる重大な經驗を世の多くの婦人達と共にあづかることを無條件に避けるものではない。只私は妻となり、母となることのみが婦人の唯一の生活の道ではない。これが婦人の生活の全部ではないと考へると共に、又母になるといふことも在來の婦人が考へたよりも寧ろもつと重大なことゝ考へるところから、母たらんとする自己の内的欲求の充實なくして母になることを罪惡とさへ思つたのだ。かういふ意味での世の多くの内的早産の母――例へば自己の欲求なくして男子の欲求のためにいつしか母にされたもの。又は只家のために、（血統を繼續されるために）母となつた婦人を自己に對して不德なものとさへ思つたのだ。要は親たらんとする自己の内的要求を親たり得る第一要件としたに過ぎぬ。だから親たり得る總ての要件を具へながら親たることを避けるのは又不德なものとするのだ。

讀んだものから

野枝

中澤臨川氏の「天才と永遠の女性」を讀んで見た。誰にも同感の出來さうな論文である。一應は私も同感する。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

併し矢張りそれが日本の男の書いた論文であるさ私にはおもふ。根本的な理解をすことゝ女性に對してなされてゐない。「女が出しやばつたつて、男に叶ふものかと日ぐせのやうに云つてゐる樣な下らない男には喜ばれるであらう。

私達から見ればまるで深い根據の上にたてられた論文ではないと云ふことが直ぐに解る。「女は本能と衝動のみに生きるもので男性の如く強い自我は育てることは出來ない」と氏は如何にも容易に斷定を下してゐられる。中澤氏は何を根據としてこんな事を仰云るのだか私には分らないあまりに輕率な云ひ草ではあるまいか。あまりに女性を無視した云ひ分だと私は思ふ。

中澤氏のこの論文は内容に於ても理論としても何の價値もないものだと私は思ふ。それは只だ今迄の男が女に對する因習的な考へから一歩も脱してはゐない。只のそまに或る一二の例を擧げてそれを根據とした一片の感想に過ぎない。

私は中澤氏に、こんな貧弱なものでなくもつさ立派な意味のある、なかみの豐富な徹底した理論を私達の前に提供して下さることをお願ひしたい。その時私たちはもつと愼重に細かに氏の婦人觀について考察し、研究して見たいと思ふ。

五月一日發行の「婦人評論」紙上に早川鐵治氏の「現代婦人の缺點」と云ふ論文が掲出されてゐる。

「無自覺、無智、而して傲慢な、えらがりの男！」

私は大きな聲で笑つてやりたい。よくも麗々しく一かどの意見のつもりでこんなことが云へるさおどろくより他はない。

實に浮薄な我慢のならないものだ。一體私は日本のどの階級を通じても皆、相當に自分を知つてゐるさ云ふ人のゐないのには驚いてしまふ。自他どちらに對しても實に無責任であると思ふ。その點において、どちらを見ても恥知らずの所謂「面の皮のあつい」人達ばかりである。無暗に、解りもしない事に迄喙を入れたがる、聞かれゝば知らぬと云ふことの出來ない。つまらない負けをしみから見當違ひな事をさも自分が持つてゐる一かどの定見でも語るやうな調子で話をする。そうしてをさまり返つてゐる。全くたまらない氣がする。

さう云ふ無責任な、ケチな根性から來る負けぎらいがどんなに自分を賤しめるものであるかさ云ふ處までの考へさへ屆かないのだ。何と云ふ情ないことであらう。それが年若いものとても云ふのならとにかく、また物を讀む事も出來ないやうな無敎育の人ならとにかく、地位もあり、年も相當にとつてゐる人でありながらほんのさほり一遍のつまらない虚榮から物を深く考へて見ることすら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

出來ないやうでは本當に心細い。「皮想、淺見」と云ふ言葉は、現在の日本のどの階級の如何なる人にもつきまとつてゐる缺點であると私は思ふ。それは、今問題となつた事實に對して、本當の洞察と思索とから得た自信をもつて語り得る人が果して幾人あるだらう。

私は早川氏が得々として語られた一片の文章の中に、何處として私のうなづいた處はなかつた。早川氏にかぎらずすべての人の態度が皆かう輕卒で無自覺であると思ふ。

この話をするにあたつてもおそらく早川氏は重大な、生の問題について語つてゐると云ふやうな自覺をもつてはゐられなかつただらうと思ふ。それからして既にもう間違つてゐるのだ、氏は第一に、「女は家庭のもの」と云ふ標題をあげて女子の經濟的獨立は不都合だと云つて居られる。

私達は家庭から婦人を追放するやうなことをすゝめたことはない。また婦人が家庭の人たる事が不都合だと云ふ事も云つたことはない。家政、育兒、と云ふ事が女子の手を當然待つ可きものであることにも異論はない。然し誰も彼もどの女も皆、無理にも家庭の人たらねばならないと云ふ理屈はない。「婦人問題」とわい〳〵云つてゐても皆、稍ともすると大摑みに、個々別々な個性をもつたものを何も一緒にして「女」といふ、一字にまとめて解釋を下さうとするからいろんな間違ひや矛盾が起つて來るのだ。私たちの呪ふのはその「女」と云ふ偶像である。又、その偶像に、すべての矛盾や苦痛を殺して自からを擬せんとしつゝある婦人である。またそれを強ひつゝある男性である。私たちは、何處までも一つ〳〵差異をもつた個人であらればならぬ。空想によつて捏ね上げられた倫理から――また判斷から作り上げられた偶像から、支配されて苦しむ要は何處にも見出せない。他人と異つた自分の個性が一番尊い其人自身の宗敎であらればならぬ。私達の云つてゐる自覺とは、先つその、偶像から割り出された敎へと自己の本性との矛盾から來る爭鬪に目醒めなければならぬと云ふことである。故にそれを直に獨身生活の奬勵と見るにはあまりに見當違ひなことであると言はればならぬ。今の處、すべての女を縛つてゐるものは、その偶像である。横暴な偶像である。私達ははやくその偶像から自己を解放し、而してうばはれた個性と自由を取り返さなければならない。而して後に完全な、立派な、魂のある女として成長し當然女子の採るべき仕事をとればいゝのである。たゞひたすらに偶像にかぢりついて男子の保護を仰ぐ女、偶像の陰に傲慢な眼を光らす男は恰かも解放せられたる女は、男子の仕事をうばひ、男子の自由を壓迫し、家庭をのろひくだらない放縱に落ちるやうに思つてゐるらしい。併し私たちは、性と

云ふことまで無視するものではない。不當な要求をするものではない、徒らに衒ふものではない。私たちは一言一行もそんな不眞面目な氣持からは離れたいと願つてゐる。

早川氏の論て見ると、全然私たちが所謂ハネ返りの手におへない新しがりとでも思つてお出になるらしい。勿論私たちは自身のその他あまり注意もしてはゐないが新らしい女と自稱する浮薄な類の女が多數にあるらしい。併し私たちは何も他人の云ふことに反對はしないけれども自ら新らしい女と稱する程まだ本當に新らしいと云ふ自覺はない。私は新らしいといふやうな言葉は嫌ひだ。私は新らしい女にならうと云ふよりは寧ろ何物にも囚はれない眞の女性たることに心掛けたい。「新らしい」よりも「本當」を求めたい。早川氏の話に見えるやうな外見ばかりの新らしい女がないとは私は云はない。けれども私は、世間の人が「新らしい女」と云へば直ぐにわれ〳〵に向つて云ふものだと思つてゐるのに對してだまつてゐることは出來ない。また早川氏自身も明かにそれとは指名してないがわれ〳〵を指して云つてゐられることゝ私は思ふ。私たちはあんな愚劣なことをさも大したことのやうに云はれるのには我慢が出來ない。何と云ふ下等なそして無責任な議論だらう。

「所謂新らしい女とはどんな種類の女か。私の觀る處では單に西洋婦人の外見のみを知り、その皮相に眩惑せられその弊のみを學んで得々としてゐる種類の女が甚だ多いのである。仕事は出來ず、妻となり母となることはいや、それで好い着物は着たい、贅澤な眞似はしたい、我儘勝手な行ひはしたい、甚だしきは酒は呑みたい、輕浮な氣焔は上げたい、と云ふ穀つぶしの類ではあるまいか」

早川氏はどれだけの婦人を知つてゐられればこんな下等な惡口を平氣で云へるのだらう。私は今更ながら人々の淺薄な批評が體がふるへる程に口惜しい。私たちに向つて云はれたこの言葉は一として私たちに當つてはゐない。氏は少しも新らしい女といふ者を本當に知つてはゐられない。我々のこの雜誌の一部をも恐らくは見たこともないと仰云るのだらう。何の智識も我々については持つてゐられるのではないことがわかる。たゞ氏は新聞や雜誌の、ふまじめな記事によつて、一通り知つたつもりでゐられるのだらう。

私は早川氏がどんなえらい見識をもつた方か知らないが得々とかうした氣焔を充分に解りもしない事に向かつて吐かれるのを心から輕蔑する。そしてその無責任さ加減に呆れる。何と云ふ愚かな人だらう、無恥な男だらう。私の觀る處では早川氏は何にも深いことは分らないらしい。私たちに向つて皮相だとか何とか云ふ資格はないの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

だ。日本の政治家とか何とか云つて威張つてゐたとて何が解らう。恐らく高尚な哲學や藝術に向つて理解を持つてゐる人は一人もないだらう。まして婦人問題などに眞實の理解を持ち得る人とては皆目ないと云ても差し支へない。私は早川氏の論から、一々その誤謬を指摘して書いて見るつもりでゐたがそれも如何にもわづらはしくだらないことのみだからやめた。

それよりも、早川氏に、もう少し眞實に私たちの主張や思想を知つて頂きたいとおもふ。世間には早川氏のみでなく皆さうしたことを思つてゐる人たちばかりだと私は思ふ。私はその間違つた言葉をとらへて詰問するよりは、もう少し、惡口を云ふにしても私たちの思想がどんなものか、私たちがどんな方に向つて努力してゐるかを知つてからにして頂きたいとつくづく思ふ。よく知りもしない解りもしないことに向つて不向見な批評をするやうな輕卒な態度を止めて欲しいとつくづく思ふ。

この方面に向ふ人にしても、日本人には深刻な處がない。私はそれが一番不滿だ。根ざしが深くないからだ。道德だつて宗教だつて皆徹底したものは一つもない。容易に形式だけは新らしいものをとり入れてゐる。內容は依然として舊い。そして「調和」してゐると喜こんでゐる。私は「調和」を惡む。「中庸」を惡む、徹底しなければ力は出ない。「どつちつかず」には、自己の信條と云ふものがない。日本人は日本個有の何物も持たない。本當の國民性と云ふやうな何物にも動かない力強い內的特點は一つも有たない情ない國民だ。

青葉の頃

みどり

電車を降りて家迄歸る道の間が殆ど二十分ばかりかかる。私は其の道すがら必ず今日一日あつた事や、又種々の事を考へるのが癖である。自分の生活に對する心持や、人の身の上や、又小說のやうなものも皆二十分の歸り道で心に浮ぶのである。每日私の歸りは七時過ぎで、黃昏の光が、深い高臺の木立の上に落ちかかつて、青葉の薫りが靜かに沈んで行く心の奧に泌み入つて、しんみりとした思ひに耽けらす。此の頃の私の心持は何と云つていいだらう。惱ましい、愁はしい氣分は常に私を取り卷いて居る。別に痛切な懊惱があると云ふものでもない、不平があると云ふのではない、私は物質上では兎に角、精神上では全く幸福の位置にあると信じて居る。誰よりも私は幸福であると思つて居る。けれど私の心は矢張什うする事も出來ないやうな焦れたい惱ましさを感ずる。私は自分が囚はれた家庭から飛び出して、變化の多い全く今迄の自分の知らぬ世間に出た時、其の暫くの間、私に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見た事もない珍らしい世の中に驚いて唯面白く暮して了つた。が既にそろそろ其の興味から醒め出したらしい。而してしみしみと自分の今踏むで居る足許を見下すやうになつた。不安！　其の不安は決して他から來たものではない、皆自分から新らしい自分の生から出た不安であると悟つた。此の家庭で今迄平和であつた小さい「女」が、偉大なる權利を誇る廣い男の社會に出て、何れだけの壓迫を感ずるであらう。私は自分を最も小なる者と、感ずるだけに社會に於ける自分の力を考へざるを得ない。今迄經て來た貧弱な經驗と僅な學力と智識、それが如何して責任の重い今の職務にある自分を充分に滿足させ得られやう。斯う思ふと自分の矛盾したるを思はざるを得ない。然し私は其の矛盾をした隨分他人の知らぬ不思議な自分の四圍の事情と戰つて行く、其處に一種の快感を覺ゆるのである。平凡に馴らされた女が、斯うした緊張した生活をして行くと云ふ事が今更痛快に感ずる。然し人愁はしむる若葉の此の頃、私の神經は針のやうに鋭くなつて居る。わけの判らぬ涙は折々私の瞼を濡らす、而して見る物聞くもの皆腹立たしく、電車に乘れば車掌の言葉が癪に觸り、流し目に見る人々の目の色も氣に入らず、今日一日の事が皆不甲斐ないつまらない事のやうに思はれて來て自分を何處かへ投げ捨ててしまい度いやう、もう生きて居ると云ふ事さへ面倒になつて來る、齷齪と勉强すると云ふ事も馬鹿らしくなつて來る——左樣した心持を忘れやうと友人を訪れたり、劇場や華かな巷へ行つたりして見ても矢張什する事も出來ない、涙がホロホロと頬を傳ふばかりである。然しこれは狂人を出すと云ふ此の頃の時候の工合だと諦めて、そつと此の重い心を其の儘にして置くより仕方がない。

（五月九日夜）

御断り

新聞の記事を見て早速に手紙で御よろこび下さつた諸姉に御禮いたします。併し「最近の感想」中でお申しました通り、あれは全く私の知らないことなのです。他日もしほんとうのおめでたいことでもありました時こそ今度におこりなくたくさんよろこんで頂きたいと思ひます。あの御手紙はそんな日の來ます迄おあづかりしておくことにでもいたしませう。一々御返事を差上げませんから、右あしからず。

——らいてう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□かうして編輯をして仕舞つて見ると、今更前號で大きなことを云つた自分が恥かしくなる。何もかもが最初思つたやうにはなかく行かないことをつくく感じさせられる。そして自分のどういふ點に於ても力の足りないのが悲しい。革新紀念號といふ名に對して、果してそれ丈の意義と内容があるだらうか、私は自分で幾度も考へて見た。そしてその度に恥かしい氣がした。

□だけど私は今編輯がやつとまづ一通り濟んだあとのホッとした氣持で、好きな煙草を吹かしながらこの「編輯室より」を書き始めたのだ。私ひとりの編輯室は全く靜かである。もう夜も更けたらしい。蛙の聲がしきりにする。

□今度社は書店から全く獨立して經營の方も總て自分達ですることになつた。又經濟上の色々な心配をせねばならぬことだらう。うまく行けばいゝがと無經驗な事丈に案じてゐる。苦しいそして面倒なことには相違ないけれど社の前途を考へれば却ていゝ事だと思つてゐる。

□社員も補助團員の方々も一層御努力なさつて頂きたいと思ふ。そしていゝ御作を御送り頂きたい。又餘力ある方は經濟上の方の御力添へも願ひ度いと思ふ。

□内部の革新の結果、編輯はらいてうと野枝氏のふたりでする。

□青鞜發賣所は東京堂に變更。

□購讀及廣告掲載申込は青鞜社宛。

□社員、補助團員、寄贈者、購讀者で雜誌の屆かない方が萬一ありましたら御一報下さい。

□小林哥津氏の長篇「あこがれ」は次號で發表する筈。

□四十女の思ひ切つた告白（カリン、ミヒアエリス著）小野氏譯の合評を次號でするかも知れない。さもなくば日本の作家の書いたものゝ中の女の評をする。

□「戀愛と結婚」（エレン・ケイ）は六月下旬に玄黄社から出版の筈。

□青鞜小說集の第二も近く出す筈。目下撰擇中。

□私は六月中旬に染井の野枝さんの御近所に引越すことになつた。白雨氏が歸國されたので社を別に置くことは大變仕事をする上に不便だから、そしたら私の家に社を置く筈。

□上野葉氏はずつと東京に住まはれることになつた。府下大崎町大崎停車場前。

□青鞜既刊號發賣、第二卷第六號より第四卷第四號まで。一部各十五錢。

□石川寧三郎氏は近く歌集「通路」を南北社より出版する由

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□奥村博氏は屏風(油繪)を有志の人に分つべく揮毫中。なほ一般希望者にも申込により分つ由。

編輯者　平塚明　伊藤野枝

寄贈雜誌

中央公論　白樺　藝美　女學世界
新思潮　現代の洋畫　風景　六合雜誌
近代思想　我等　新潮　女學雜誌
藝文　生活と藝術　潮　都會藝術
人生と表現　詩歌　層雲　婦女新聞
早稻田文學　みづゑ　蛇の舌　婦人の友
帝國文學　東亞藝術　心の花　秀才文壇
第三帝國　假面　新人　白光
反響　番紅花　月光　新女界
三田文學　卓上　新佛教　南方の花
新小說　海峽　河鹿　清平調
自畫像　俳味　アララギ　創造

寄贈書籍

ヘラミー(壹圓四十錢)　小野秀雄譯　以文館發行
かなたの空(詩集、八十錢)　川路柳虹著　東雲堂發行
小さきイヨルフ(六十錢)　成瀨無極譯　南江堂書店
塑像(散文詩、廿五錢)　佐藤綠葉著　春陽堂發行
涙よく闘へ　生田虎藏著　曙光者發行

『青鞜』發賣所左記の通り變更

神田區表神保町八
東京堂
電話本局四五六一
振替東京二七〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

靑鞜社概則

第一條 本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的とす。

第二條 本社を靑鞜社と稱す

第三條 本社の事務所を東京府下巢鴨町一ノ一六三に置く

第四條 本社は係員、社員、贊助員よりなる。

第五條 本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、毎月一回機關雜誌靑鞜を發刊すること。「靑鞜」には係員、社員、贊助員の生活及思想を發表す。(但し補助團員の寄稿を發表することあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。

一、毎年一回大會を開くこと、大會には贊助員を招待し講話を請ふことあるべし。(但し贊助員は出席隨意たるべし)

一、時に旅行を催すこと。

一、本社の事業を達するため別に補助團を組織す。

第六條 係員、社員、贊助員は女子に限る。

第七條 係員は本社の目的に贊同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして專ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己にその責任を負ふものとす。係員は毎月「靑鞜」の配布を受く。

第八條 係員は在京社員の中より選擧す。

第九條 係員は四人とし、内二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條 毎年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選することを得

第十一條 係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條 社員は本社の目的に贊同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「靑鞜」の配布を受く。

第十三條 社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齡の外に履歷の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と(小說、戲曲、感想、詩歌、評論、飜譯いづれにてもよろし。)最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條 贊助員は本社の目的に贊同し、雜誌「靑鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先輩とす。贊助員は毎月靑鞜の配布を受く。

第十五條 本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條 補助團員は補助團規約によつて募集す。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

會員募集

青鞜社補助團規約

一、青鞜社補助團は青鞜社の事業を完成せしめんがために經濟上の補助をなすを以つて目的とす

二、本團は其目的を遂行せむがために理事一名、外に會計主任及係員を置き一切の業務を處理せしむ。

三、本團は左の方法により九月一日より十二月卅一日迄會員募集をなす。

1、甲種會員　一ヶ月會費　壹　圓

2、乙種會員　一ヶ月會費　五　拾　錢

四、會費は大凡二ヶ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。青鞜社はこれをもつて出版事業を開始す。

五、本團の會員たらむとするものは其目的に贊同し、第三條の會費を入會の月より滿貳ヶ年間納むるものとす。

六、本團は會員に對し青鞜社發行の機關雜誌「青鞜」を毎號贈呈す

（但し會費領收は青鞜紙上に發表し、別に領收書を出さず）

七、甲種會員には會費全納後なほ滿貳ヶ年間は雜誌「青鞜」と青鞜社出版圖書とを其都度贈呈す。

乙種會員には滿貳ヶ年間雜誌青鞜のみを贈呈す。

八、本團會員は甲種なると乙種なるとに拘らず、女子に限りて「青鞜」に寄稿し得るの特權を有す。

但し寄稿が二回以上「青鞜」紙上に掲載されたる場合は本人の希望により相當の手續きを經て青鞜社の社員たる事を得。

九、入會申込者は府下巣鴨町、一一二七青鞜社内青鞜補助團宛に申込まれたき事

會費は毎月五日迄に振替口座東京貳壹壹壹六青鞜社内補助團宛に拂込まれたき事。（郵券代用一割增）

但し會費未納者には本團より集金人を差向くる筈

一〇、會費は大凡三ヶ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。

一一、會計報告は年一回以上便宜の方法を以て會員に發表す。

一二、この規約は理事、會計主任、係員によつて事務の細則を定め、又會員多數の意見によりて變更する事を得。

理　事　保　持　白　雨

會計主任　岩　野　清

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢（郵稅壹錢五厘）
■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
■廣告料（一頁）特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、（半頁）七圓
■振替貯金口座は（東京二一一六青鞜社）に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る（但し一割増のこと）。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正三年五月二十六日印刷納本
大正三年六月一日發行

東京府下巣鴨町字巣鴨一二二七
青鞜社内
編輯兼發行人　中野初

東京市麹町區飯田町五丁目六番地
印刷人　中山千二郎

東京市麹町區飯田町五丁目六番地
印刷所　大正社

禁轉載

發行所　東京府下巣鴨町字巣鴨一二二七　青鞜社　振替東京二一一六番

發賣所　神田表神保町三番地　東京堂　電話本局四五六一番　振替東京二七〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

もと時事新報記者
もと一葉茶屋女將

下山京子女子著

一葉草紙

（ひとはざうし）

新聞記者となりては辣腕才筆有髯男子をして後へに瞠若たらしめ、茶亭の女主としては怪腕嬌名一時に喧傳し、**才女**と呼ばれ**妖婦**と罵られ、世評は世評を生じつゝも、兎に角疑問の女性、非凡の女性として衆評囂々たる著者が放膽忌むなきの**告白**及び**感想**は收めて此中に在り、怪か、奇か、邪か、正か、一種の女性が**一種の男性觀、戀愛觀**乃至**人生觀**等、亦是れ時代研究の一資料也

目次

◉男道樂十八章 ◉木屋町物語九章 ◉色懺悔十八章 ◉一葉小話十章 ◉變裝記廿一章

コロタイプ版及邦助書伯挿畫五枚入
邦助書伯裝順意匠
四六版總クロース
極美本全一册
正價**九拾錢**
郵税拾錢

故田岡嶺雲譯並註　（三版）

和譯維摩經

附和譯般若心經

總クロース
金文字入
美本全一册
正價金七拾錢
郵税金八錢

佛教八萬四千卷、就中啻に方外緇衣の人に**重**んぜらるゝのみならず、**亦**其の所說**の幽渺と**其の文字**の古奧**とを以て**古**より**詩人文人の間**に**喜ばるゝ者**、維摩及般若心經の**右**に**出つる者なし、**今此二書をとりて遂字譯を施し且つ簡名なる挿註を加へ、別に卷末に**漢文**の**原文**をも添へて一册となしたる者、即ち此書也、佛敎の眞諦を味はんとする者、苟も文章に志ある者は一本を座右に備へ、明窓の下、淨几の上、爽晨靜夜香を焚いて之を讀め。

◀高橋五郎先生譯▶

エピクテタス 遺訓

總クロース
全一册
正價壹圓
郵税十錢

二千年來**天下無比の安心立命經**と稱せられ羅馬の賢帝として名高きマーカス、アウレリアス皇帝は**生涯本書を其座右**より離さゞりしと云ふ、以て其價値を知るべし。

アウレリアス皇帝著 瞑想錄

總クロース
全一册
價壹圓拾錢
郵税十錢

エマーソン 處世論

總クロース
全一册
特價壹圓
郵税十二錢

目次 ◉運命◉勢力◉富有◉修養◉禮義◉禮拜◉餘論◉美◉迷想

版元 東京神田區雉子町 **玄黃社** 電話本局二〇九〇番 振替東京七九九五番 ◉全國書店賣捌

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生活と藝術

六月號

10 GO

一冊金拾八錢
送費一錢

■露都日記より……仲田勝之助
■新劇論(伊庭孝君に與ふ)……楠山正雄
■評論……荒畑寒村
■若葉の頃……荒川義英
■人の匂ひ……西村陽吉
■街上不平……土岐哀果
■投稿をしらべて……土岐哀果
■新しき詩歌……青年諸氏

阿部次郎氏著
三太郎の日記
■再版出來■
菊半截形布裝函入美本
定價金壹圓・送費八錢

川路柳虹氏著
かなたの空
■新刊發賣■
四六判白と黑の裝幀美本
定價金八十錢・送費六錢

發行所
東京市日本橋區檜物町九
(振替東京五六一四)
東雲堂書店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

六月一日發行 第五十號

毎月一回 一日發行

□腰強……高安月郊

□來山に就て……志摩烏阿

□元政忌……舊雨樓

■私の扮した惟然坊……東儀鐵笛

■惟然に扮した東儀さんへ……若月紫蘭

■東儀さんの惟然坊……藤澤古雪

■上場されたる惟然坊……長尾素枝

■舞臺の惟然坊……沼波瓊音

□炭酸瓦斯……岩田月葉

□私解芭蕉の發句……沼波瓊音

□寺の本堂より……郡田鑾六

□汁粉餅譜……草花房

□食餌半歌仙……杭晉房

附錄

獨女房（小説）……沼波瓊音

晝寢櫻（脚本）……大西一外

定價 本號に限り 金參拾五錢 ｜ 一部廿錢 郵税一錢 ｜ 半年分税共 金一圓 ｜ 一年分税共 金二圓

發行所 東京本郷西片町十番 振替東京三四三四 俳味社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自畫像

六月號

■表紙繪（ゆきを）

エゴの哲學（ジエームス）　北落師門

密航（小説）　久保寒三

戀百合（ロセツテイ）　ゆきを

初ひ子（詩）　菊池香一郎

無花果の熟する頃（小説）　木村幹

御聖堂まで（感想）　小川房子

二階（小説）　宮下桂子

憂鬱病（ヱルレーヌ）　牧村宇多吉

破船（モオパツサン）　牧夫

■六月一日發行（定價廿五錢）

發行所　東京府下西大久保七十八番地菊池方　自畫像社

發賣所　東京市神田區南神保町十六番地（振替口座東京一九三四四番）　尚文堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

六月一日發行

アララギ

特價卅錢

六月特別號

○櫻（短歌）……尾上篤二郎
○青める木々（短歌）……若山喜志子
○をはりの明り（短歌）……島木赤彦
○とのびく雪山（短歌）……平瀬泣崖
○蒼きなぎさ（短歌）……中村憲吉
○蛙（短歌）……古泉千樫
○侏儒ひとり（短歌）……齋藤茂吉
○杼情詩三篇……柳澤健

○鍼の如く（短歌）……長塚節
○或る夜の事（感想）……木下杢太郎
○諦めの論理（評論）……赤木桁平
○齋藤君と古泉君（評論）……長塚節
○萬葉短歌輪講（一）……赤彦、千樫、茂吉、憲吉
○目白台にて（歌論）……河西省五
○短歌雜論……齋藤茂吉
○良寛和歌集私鈔……齋藤茂吉

短歌
清水謙一郎　並樹秋人　土田耕平　河西青五
岡千里　河里愼吾　平沼ひさし　兩角七美雄
星川清雄　吉川かすみ　伊藤壽一　井澤蛇川
柳木城西　沖鹽正光　金原よしを　竹下美代子

誌友募集

普通誌友毎月卅錢・特別誌友毎月五十錢

東京青山南町五丁目八十一齋藤茂吉方

アララギ發行所

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第廿卷 第六

帝國文學

定價金二十錢 郵稅一錢五厘

六月號

△回避乎鬪爭乎（評論）……………山田樌椰
△ドストイエフスキイ論（評論）……………石坂養平
△齒（小説・公スン）……………西澤富則
△もこのおこりは（戯曲・トルストイ）……………前田太郎
△サラ・ベルナアル（評論・シモンズ）……………半田良平
△鎌倉より（感想）……………加藤一夫
△ほろび（短歌）……………井田處男
△五月の文壇（時評）……………石坂養平

大日本圖書株式會社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心の花

第十八卷　六月號　第六號

深夜（小說）　長尾素枝
南獨乙の春の日　長紅雪
闇の精（ベインの印度古詩）　松村みね子
詩形論　時枝誠之
時枝學士の詩形論に就て　鳥谷部陽太郎

短歌
佐々木信綱　澤弌　永田龍雄　中澤豐三郎　高田雪子　木村幸子
姉崎正治　人見小華　須藤みどり　石榑千亦　安中花子　久保勇子
吉野臥城　印東昌綱　梨畑花城　樺山常子　下村かづ子　外山たか子

萬葉集講義　佐々木信綱
新百人一首新釋　志田義秀
萬葉十首　小花清泉
やまと心を謹讀す　志田義秀
西片町より　佐々木雪子

定價一部金二十錢・半年前金壹圓一ヶ年前金二圓・稅共

東京日本橋區本石町一ノ一　竹柏會出版部
電話本局五一七〇　振替東京四三〇〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫專門の研究雜誌なり

月刊美術雜誌

みづゑ

第百拾貳

六月三日發兌

一部金廿六錢

□雲上人（錦繪原色版）……豐原國周

□百日草（水彩畫原色版）……織田人磨

□風景（同）……石川欽一郎

□井寄居（同）……大下藤次郎

□昆蟲應用圖案（デンク版）……織田一魔

□大正博の水彩畫（寫眞版）瀧澤邦行、丸山晚霞、三宅克巳
海老名文雄、吉田豐、望月省三、中澤弘光、相田直彥、後藤工志、赤城泰舒

□專門家にならうと志す青年に就て……石川欽一郎

□ミレー傳……武田雨水

□寫樂の似顏書……小島烏水

□妙義と伊香保……石井柏亭

□新三脚物語……鵜澤四丁

□大正博の水彩畫……石井柏亭

□昆蟲を應用せる圖案……織田一磨

□大島の旅……赤城泰舒

□追憶の傳說……磯萍水

□研究所たより……

水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は一日も本誌を坐右に欠く可からず

發行所　東京小石川關口駒井町三　振替東京六九六三三番　春鳥會

毎月一回

音樂

第五卷第六號

一日發行

六月號要目

■樂壇時評 ……

□新内節の品位 …… 井上猛一

■音樂好きの教育(上) …… 牛山充

□音樂教授法(十) …… 草川宣雄

■感化事業の音樂 …… 松井壯水

□近代樂の作家 …… 太田黑元雄

■チャイコフスキー(一) …… 女子研究生

□歌劇『カッサンドゥラ』の上演 …… 牛山充

■觀るまゝ聽くまゝ …… 太田黑元雄

□第三の邦(詩) …… 富田碎花

■マルチアンツープレ(詩) …… こけい

■樂譜 皇太后陛下奉歌 …… 千家尊福歌 東京音樂學校作曲

■口繪 グラッツォーノット 東京音樂學校卒業生

□ゆく春(詩) …… 中川一政

■夜の旅裝(詩) …… 長瀬虎朗

□日本の人間(詩) …… 早資篤宜

■銀の小徑(詩) …… 坂本潮郎

□夜がらす(詩) …… 津端修

■半日(詩) …… 高辻秀立

□みづうみの歌 …… 内田月城

■海内樂壇海外樂壇 ……

□作曲法入門 ……

■音樂通論(二) …… 乙骨三郎

□歌劇物語三『セミラミーデ』 …… 牛山充

■發行所 東京音樂學校學友會 振替東京二〇六二番

■發賣所 神田神保町 東京堂

■會友募集

■半ヶ年會費一圓三十錢以上前納者は會友となり本會所催の演奏會に參聽し、なほ本會發行の『音樂』の頒布を得べし。

■本會春季大演奏會を來る六月十四日午後二時より本校奏樂堂にて開く、曲目は本誌六月號にて發表す。今回は特に本校助教授久野久子孃の伴奏にてシヨルツ教師がリスト『匈牙利』シムフオニーを演奏すべく、エルクマイスター氏は先年物故せし維納のチエルロの名手ポッパーの作曲をグ紹介すし。

■七月四日は土曜演奏會としてクルッベ二百年紀念祭を擧行す。

■定價 一部 貳拾五錢

郵税 一冊 壹錢五厘

半ヶ年 税共 一圓三十錢

一ヶ年 前金税共 二圓五十錢

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

六月一日發行

創造

定價金廿五錢

▲自殺せる詩人のために　高月靄之助

▲『青書』より　木村莊太

▲泡鳴氏に與ふ　加藤朝鳥

▲新代生活の意味　中村孤月

▲新緑の朝　人見東明

▲悲しき比喩　相馬泰三

▲盲目になるまで　景山哲雄

■面目一新内容更に充實せる六月號■

新らしき詩歌募集■

▲水より葡萄酒を　尾瀬哀歌

▲途上　秋庭俊彦

▲南品川にて　福士幸次郎

▲父となりて　稻毛詛風

▲京都にて　仲木貞一

▲自殺者の心理　清浦明人

▲毒藥の壺　相馬御風

發行所　小石川區雜司ケ谷町　創造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新思潮

六月號

五月號發賣禁止

藝術の宗教（評論）……山宮允
逐はれし人（小說）……豊島與志雄
春の心臟（小品・イェーツ）……柳川隆之介
海への騎者（戯曲・シング）……井川恭
ヒアシンス・ハルヴェイ誤譯早見表……草田杜太郎
美術劇場と無名會……山本有三
安成貞雄氏に答ふ……山宮允
社會主義下の人心（ワイルド）……近衛文麿

發行所　日本橋區本銀町三ノ二　振替東京一二〇五五番　啓成社

定價一部二十五錢送料一錢半

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回一日發行
一冊金二十五錢
郵税金一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

百六十八號（六月一日發行）

六冊前金郵税共金
一圓五十錢
十二冊同上
金二圓八十錢

四つの壁……小山内薫
カルデロン氏の説に據りて劇術に新らしき光を齎す

P夫人へ……伊原青々園
日本劇研究の西洋夫人へ對し『車引』の劇を説明せり

『女鳴神』の型……森ほのほ
歌舞伎座に於ける歌右エ門子が所演を例の如く詳叙す

鷗外譯の『僧院』再び現はれ**無線電話**は故團十郎と三座競爭の『勸進帳』を批評し**シモンズ**の『ヘンリーアービング』は半田良平氏の筆によりて此の名優を紹介し**年代記**には助六心中の古書を挿む

『毒饅頭』の今昔……鈴木春浦
八百藏の本郷座所演を故團十郎のに比較して品隲せり

廊下放言……一記者
最近に於ける吾が劇壇の内幕を穿ちたる風聞記なり

『運命の謎』……湯淺溫
シュニッツレルが名脚本を飜譯して能く原作の妙を傳ふ。

東京本郷湯島切通坂町書報社内

歌舞伎發行所

電話下谷二四八三●振替口座一八一〇六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

定價金拾錢

近代思想

第二卷第九號

六月號

六月號の主要讀み物

近代思想に及ぼせるセンディカリスムの影響

荒畑寒村

ベルグソンを以てセンディカリスムの父となし、ジョルヂ・ソレルを以てセンヂカリスムの創設者となすが如き、日本の評論壇に敢て氏の一團の炬火を投ず。勞働階級の直接行動たるセンヂカリスムが、近世哲學、其他一般の理論に、如何に深甚なる影響感化を與へしか、炳乎として初めて昭らかなるものあらん也。

『近代思想』の改革に就て、同志及讀者諸君に訴ふ

大杉榮

曩に既に「智識的手淫」に飽いて、二年間の歴史を有する本誌を破壞し、更に眞に「勞働者の間に」往く事を宣言せる記者は、本號に於て、初めてその抱負、希望、及び本誌改革後の計畫、企圖を說くこと詳細なり。見よ！ 叛逆がその藝術を抛つて、將に武裝して戰線に立たんとするを！

東京府下
大久保町
近代思想社
振替東京
一七一六三

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

年四回刊行
六月十日
第二輯發行

未來

(二)

菊判二百五十頁
定價金六十錢
送費六錢

詩

三木露風
服部嘉香
川路柳虹
新城和一
西條八十
増野三亙
柳澤健

譯詩

ブレーク……………服部嘉香
レニエ……………柳澤健
カンヂンスキイ……………灰野庄平
グレーク……………川路柳虹
ベルレエヌ……………新城和一
ボヘミヤ詩人……………西條八十
ブレーク……………山宮允
リゲ●ヴニダ……………増野三亙
ポエーム(樂曲)……………山田耕作

月の旅(樂曲)……………山口耕作
科學破産以後(評論)……………服部嘉香
スクリアビン論(評論)……………山田耕作
滞獨小品(創作)……………齋藤佳三
パヴロワの印象(評論)……………同
新音樂論(評論)……………柳澤健
ヴエデキントの飜譯……………小山内薫
無限の發見(飜譯)……………灰野庄平
ドニーの「クラシックとしてのゴーガン及ゴーグ」……………田中喜作
伸び縮み(創作)……………新城和一
イエツの「ブレークとその神曲の挿畫」……………山宮允
イエツの「瑪瑙の切斷」より……………同人
詩歌の鑑賞(評論)……………三木露風
藝壇時事評論……………同人

未來主催
音樂大演奏會
(詳細未來紙上)
六月下旬帝國ホテルに於て

發行所 東京市日本橋區檜物町九 (振替東京五六一四) 東雲堂書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

"SAHURAN"

番紅花

六月號

内容

▲鈴蘭（歌）……與謝野晶子
▲盲樂師（コロレエンコ）……青山菊榮
▲ダンシングに就て……原信子
▲きれぎれ（詩）……八木さは
▲動搖（小説）……管原初
▲最近の不平（感想）……松井須磨子
▲N氏のマニユスクリプト（小説）……神近いち
▲大阪より……伊達虫子
▲蘇の詩（感想）……尾竹一枝
▲わかれの手紙（小説）……八木麗
▲中性論（カアペンター）……青山菊榮
▲雲雀のなく村へ（小説）……尾竹一枝
▲六號雜感……同人
▲編輯室にて……同人

挿畫

1. サロメのダンサー
2. 名歌手ファラー
3. 佛蘭西のダンサー
4. 露西亞のダンサー

定價一冊 金三十五錢 郵税 金二錢

發行所 東京市日本橋區檜物町九（振替東京五六一四一番） 東雲堂書店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

我等

毎月一回 一日發行

一部定價 二十五錢

六月號

譯詩十一編……森林太郎
曙光……三ケ島葭子
女が來て……與謝野晶子
後……原田琴子
馭者ヘンシエル……秦豐吉
水のあなたより……
坩堝の譫語……佐々木好母
シシリヤの俳優……半田良平
眞實心經……吉井勇
痴人の日記……萬造寺齊
薔薇……佐藤春夫
大正博の彫刻評……高村光太郎

我等發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

學習院教授
帝國大學講師　鈴木大拙先生新著

禪の第一義

四六判箱入
定價金一圓
郵稅金八錢

禪は東洋に於ける精神界の特產なりしかも從來誤つて山林の徒のみによりて拈弄せられ活きたる人生と殆ど沒交涉なるかの觀ありしは蓋し未だその第一義を闡明しその着手の處を說述することの徹底せざりしに基せずむばあらず著者參禪辨道三十年その實驗の歷程を精叙しその所得の公案を解說し一は以て初學者の指針となし一は以て人生の苦悶を除去せむとす不立好教外別傳の禪も本書出てゝその近代的色彩の頗を鮮なるものあるを看取し得む

鈴木大拙先生著
スヱデンボルグ
定價五拾錢　稅郵八錢

鈴木大拙先生譯
阿彌陀佛
定價卅五錢　郵稅八錢

大內青巒先生著
禪の極致
定價六拾錢　郵稅八錢

加藤咄堂先生和譯
和譯維摩經評註
定價七拾錢　郵稅八錢

振替東京一五六八六　東京小石川區原町六　丙午出版社

振替東京一三五三　東京小石川原町六　鷄聲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

假面

定價三十錢

郵税金二錢

第三卷 六月號 第六號

□ゴルトン・クレイグ舞臺意匠五葉（挿畫）

□或る新しき劇場へ（評論クレイグ）……伊東六郎

□紙上戀情（詩）……日夏耿之介

□死の勝利（戯曲ソログープ）……松永信

□黎明（小説）……山川亮

□桑の葉かげ（歌）……石井直三郎

□大團圓（戯曲）……丘草太郎

□「かなたの空」を讀む（評論）……西條八十

□春の新劇壇合評 □クレイグの舞臺意匠

假面社編

近代評傳叢書

第一篇 加能作次郎 **ストリンドヘルヒ**

第二篇 瀬戸義直 **ドストエフスキイ**

本月中旬發行 袖珍頗美本

定價金五十錢 郵税金六錢

發行所 東京市外西大久保百三十一 **假面社**

發賣所 東京神田錦町一丁目十九 **中興館** 振替東京四一二三番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第五巻
第六號

エゴ

第六月號

六月一日
發行
定價二十五錢

目次

母親の心配（五幕物） 武者小路實篤
雜感 千家元麿
悪しき夢（一幕物） 佐藤惣之助
神の悩み（感想） 千家鐵麿
返事（同） 土屋小介
地獄界（詩） 佐藤惣五助
六號雜感 同人

附錄

ミケルアンヂエロ（ローマン、ローラン） 長與善郎譯

挿繪

サチールの首 ミケルアンヂエロ
男の裸 同
光と陰の創造 同
グロデスク 同

發行
編輯所 東京市牛込區新小川町三ノ三十エゴ社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

佛國文學研究雜誌

定價廿錢

蛇の舌

六月號

送料一錢

■假面（評論） ア・フエルデイナン・ヘロルド アドルフ・レッテエ　ルミイ・ド・グルモン　友田二郎

■シルヴエストルボナアルの罪（小說）　アナトオル・フランス　瀧村立太郎

■ヘロデイアス（小說）　ギユスタアブ・フロオベル　友田二郎

■愛の化粧（詩）　エルネスト・ルウドレ　佐藤佐元

■囹圄（小說）　ジオルジユ・ロオデンバック　岡野かをる

■CACOPHONIE　LA LANGUE DE VIPERE

發行所　下谷上根岸八十一　蛇の舌社

發賣所　神田南神保町十六　岩波書店

振替東京二六二四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

六月號

森田草平
生田長江
主宰

反響

定價拾八錢　郵稅壹錢

飜譯論（評論）　安部能成
かな綱とどん底（同）　岩野泡鳴
『ガタリ』の價値（同）　生田長江
『人生と表現』社同人の主張を評す　江部鴨村
（評論）　伊藤證信
砕かれたる魂（感想）　生田春月
水野盈太郎氏の私に送られた手紙に就いて（感想）　岩野清子
嘲笑のあたひ（感想）　生田花世
ニイチエの悲劇論（シモンズ）　半田良平

新著の二種　安藤現慶
生ひ立ちの記を讀む　阿部餘四男
片上君の飜譯『死人の家』（評論）
新刊紹介―地方雜誌から最近の雜誌から　生田長江
おきみ（小說）　素木しづ
曾哲の答（小說）　佐藤春夫
永久の良人（小說）　中村古峽
下書（小說）　森田草平
編輯ののち　草平長江等

森田草平氏著

空前の歡迎　七版發行　縮刷合本

煤煙　全

特製尚且つ從來の分册本の約二分の一の廉價なり

並製定價　金九十錢　郵稅六錢
特製定價　壹圓六十錢　郵稅八錢

第六版の中二百部限り　**特製發賣**　著者草平先生が自ら扉に『煤煙。森田草平』の六字及一より二百に至る番號を揮毫し。新進青年書家安藤、澤枝の二氏が表紙（上等の書布を用ふ）に肉筆を以て一々清新の書筆を揮ひしもの。紙質製本等、凡て、精選に係る。目下希望者多數品切とならざる中に申込あれ

發賣所　東京神田佐久間町　振替東京一二九五三　植竹書店

※風景六月號※

□表紙書……………………南　薫　造氏
□よみのことわざ……ウヰリアム●ブレーク氏
□海の歌（カザリン●マンスフイールド）…川路柳虹氏
□おまへのボアは貂の皮（セルゲイ●ソロビエフ）……………………馬場哲哉氏
□感想……………………室生犀星氏
□その柿も喰べずに（劇曲）……山村暮鳥氏
□屠殺場へ（散文）……………中目野雨氏
□技巧に就て（評論）…………池上　修氏
□長詩……………………諸　氏
□短歌……………………諸　氏
□FROM THE POEM ITSELF（飜譯）山村暮鳥氏
□私ではない（長詩）…………山村暮鳥氏

編輯所　福島縣平町揺槌小路　新詩研究社

發行所　東京神田表神保町　東京堂　振替口座東京二一七〇番

社友募集
清規は編輯所宛貳錢切手封入にて申込まれたし

發行所　福島縣平町　清光堂　振替口座東京五三八八番

定價金貳拾錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かなりや

毎月一回 十日發行

六月號要目

■路傍のキリスト（表紙繪） ヴァンゴッホ

■ワイルドの獄中生活（イングレビキ） 石井香夢

■假面の眞理（オスカアワイルド） 渡邊ゆめこ

■意識流研究（評論） 上原孟

■最後の酒盃（小品） 和田保

■RINGS（英詩） 片岡鐵兵

■初夏の唄（詩） 石井香夢

■歎息（詩） 矢野峯人

■音樂（詩） 日下渚鳥

■鳩（詩） 上田丈夫

■薄暮の心（詩） 黒田露羽

發行所
東京府下南葛飾郡西葛西村五五二
金絲鳥詩社

一部二拾錢
郵稅貳錢

發賣元
東京市神田區南神保町十六
尙文堂
電話本局四二五四番（振替口座一九三四四番）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年２月28日発行　　【第８回配本】

青鞜第４巻　６月号

編著者　平塚　らいてう
発行者　藤原　正人
発行所　(株)明治文献
印　刷　江明印刷
製　本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
v.4
no.6

50 126CO 109
04/09 XL
30016-160 UR
HFGroup

University of Colorado at Boulder
304 6746424

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PL
756
W6
S45
v.4
no.1-6
1914

University of Colorado at Boulder
U18304 7299917

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

PASCAL
Dep P Mod 2 Ran 04 Sect 11 Shelf 21 Tray 08 Item 003
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER